平成 29 年度
生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業
事業実績報告書

平成 30 年 2 月

社会福祉法人　全国社会福祉協議会

目 次

はじめに 1
第１章　研修の概要 2
◆自立相談支援事業従事者養成研修 2
1　研修の目的および種類 2
2　プログラムの概要　日程表、会場 2
3　職種別の受講パターン 24
4　受講対象者 24
5　受講者定員 25
6　テキスト 25
7　申込みから受講、修了までの流れ 26
8　修了証書の交付 26
◆就労準備支援事業従事者養成研修 27
1　研修の目的および種類 27
2　プログラムの概要　日程表、会場 27
3　受講対象者 31
4　研修の受講定員 31
5　テキスト 31
6　申込みから受講までの流れ 32
7　修了証書の交付 32
◆家計相談支援事業従事者養成研修 33
1　研修の目的および種類 33
2　プログラムの概要　日程表、会場 33
3　受講対象者 41
4　研修の受講定員 42
5　テキストおよびノートパソコン 42
6　申込みから受講までの流れ 42
7　修了証書の交付 42
◆都道府県研修に係る担当者研修 43
1　研修の目的および種類 43
2　プログラムの概要　日程表、会場 43
3　受講対象者 46
4　研修の受講定員 46
◆全研修の受講者数と修了者数 47
◆全研修の修了者の傾向 50

第 2 章　研修内容の企画 71
1　企画委員会の概要 71
2　企画に係る委員会・部会の実施状況 73
3　個別打合せの実施状況 74

第 3 章　研修内容の詳細 76
1　【前期】共通カリキュラム　養成研修 76
2　【後期】主任相談支援員養成研修 84
3　【後期】相談支援員養成研修 96
4　【後期】就労支援員養成研修 113
5　就労準備支援事業従事者養成研修 123
6　家計相談支援事業従事者養成研修 131
7　都道府県研修に係る担当者研修 139

第 4 章　受講者からの評価 143
1　【前期】共通カリキュラム　養成研修 143
2　【後期】主任相談支援員養成研修 146
3　【後期】相談支援員養成研修 147
4　【後期】就労支援員養成研修 149
5　就労準備支援事業従事者養成研修 150
6　家計相談支援事業従事者養成研修 151
7　都道府県研修に係る担当者研修 153

第 5 章　研修の評価 154
1　本研修の特色 154
2　成果と課題 157

第 6 章　業務の運営 165
1　受け入れから実施報告までのスケジュール 165
2　実施体制 166

付録 167
1　開催要項
2　修了証書（ひな形）

はじめに

平成 27 年 4 月より生活困窮者自立支援法が施行され、全国の福祉事務所設置自治体において、自立相談支援事業等の必須事業、就労準備支援事業や家計相談支援事業等の任意事業などが実施されている。その実施にあたっては、多様で複合的な課題を有する生活困窮者への包括的な支援を適切に行うことが求められている。そのため、生活困窮者自立支援制度の理念・目標を適切に理解し、十分な専門性を有した支援員を全国的に確保するため、国が計画的な養成研修を実施している。

今般とりまとめられた「社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会報告書」においても、本制度は多くの制度を組み合わせ、地域の力と協働した取り組みをしていく「人が人を支える」仕組みであり、その支援員の質の確保の重要性が明記された。

昨年度に引き続き本会では、国研修「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業」を受託した。企画・運営委員会および企画部会を設置のうえカリキュラムを検討し、本年度は自立相談支援事業、就労準備支援事業、家計相談支援事業の従事者養成研修に加え、都道府県研修の推進を目的に都道府県研修に係る担当者研修を実施した。

本研修では、制度の理念や事業の基本的な考え方を伝え、国として支援員に求める役割や、支援を行う際の重要な視点やポイントについて実践事例等も踏まえながら教示した。その結果、受講者の研修ニーズを考慮した実践的な視点を取り入れた研修を実施することができた。

本会では、関係者の参考に供するべく、研修の実施状況を記録として整理するとともに、研修事業の評価を報告書としてとりまとめた。今後の支援員養成の一助になれば幸いである。

平成 30 年 2 月

社会福祉法人　全国社会福祉協議会

第 1 章　研修の概要

◆自立相談支援事業従事者養成研修

1　研修の目的および種類

生活困窮者の自立を促進するため、生活困窮者が抱える多様で複合的な課題の評価・分析、自立支援計画（以下「プラン」という。）の策定、プランに基づく各支援の提供をはじめ、地域の関係機関とのネットワーク構築、社会資源の活用・開発等を行うため、相談及び就労等の支援技術を習得することにより、自立相談支援事業に従事する者の資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業において配置される主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれを対象とした 3 種の養成研修を実施した。

2　プログラムの概要　日程表、会場

研 修 名	日 程	会 場
【前期】共通カリキュラム	【第1回】7月4日(火)~6月18日(木)	全社協・灘尾ホール
	【第2回】7月31日(月)~8月 2日(水)	全社協・灘尾ホール
	【第3回】9月 5日(火)~9月 7日(木)	全社協・灘尾ホール
【後期】主任相談支援員養成研修	8月23日(水)~ 8月25日(金)	全社協・中央福祉学院
【後期】相談支援員養成研修	【第1回】10月18日(水)~10月20日(金)	全社協・中央福祉学院
	【第2回】11月20日(月)~11月22日(水)	OMM
【後期】就労支援員養成研修	12月 6日(水)~12月 8日(金)	全社協・中央福祉学院

＜会場＞

【前期】全国社会福祉協議会　灘尾ホール
〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル

【後期】全国社会福祉協議会　中央福祉学院
〒240-0197　神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

【後期】OMM　C ホール（【後期】相談支援員養成研修【第 2 回】）
〒540-6591　大阪市中央区大手前 1-7-31

【第１回】【前期】共通カリキュラム

日 程 表

【第１日目】７月４日（火）

時　間	科　目	講　師
8:15～9:00	受　付	
9:00～9:10	オリエンテーション	
9:10～9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20～9:30 （10 分）	アイスブレイク	
9:30～10:30 （60 分）	**【講義①】** **生活困窮者支援の基本的考え方**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長　本後　健　氏
10:30～10:40	休　憩	
10:40～12:10 （90 分）	**【講義②】** **他制度の活用・連携**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏 野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐　生水 裕美 氏
12:10～13:10 （60 分）	昼食・休憩	
13:10～14:00 （50 分）	**【講義③】** **住まい確保のための支援について**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　渡邊 由美子 氏 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 主査　梅本　政隆　氏
14:00～14:10 （10 分）	休　憩	
14:10～17:55 （225 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習④】** **支援員に求められる倫理・基本姿勢を支える人材育成と職場づくり**	明治学院大学　　教授　新保 美香 氏 九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
17:55～18:10 （15 分）	まとめ・振り返り（第 1 日目）	九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
18:10～18:30	交流会会場へ移動	
18:30～19:30 （60 分）	交流会（会場：新霞が関ビル 5 階）	

日 程 表

【第２日目】７月５日（水）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:00 （180 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑤】** **生活困窮者支援を通じた地域づくり**	ルーテル学院大学 名誉教授　和田 敏明 氏	豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部 麗子 氏 一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏 兵庫県宍粟市福祉事務所 社会福祉課　生活福祉係 大塚　正雄　氏
12:00～13:00 （60 分）	昼食・休憩		
13:00～18:05 （305 分） 休憩 15 分 ×2回含	**【講義と演習⑥】** **生活困窮者支援に必要と考えられる視点** **―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―**	日本福祉大学 教授　原田　正樹氏	生駒市福祉部　福祉健康部 地域包括ケア推進課　課長 田中　明美　氏 有限会社 SNOW DREAM 代表　山口　久美　氏 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長　遠藤 智子 氏 神奈川県立田奈高等学校 キャリア支援センター担当 教諭　金澤 信之 氏
18:05～18:20 （15 分）	まとめ・振り返り （第２日目）	事務局	

日 程 表

【第３日目】７月６日（木）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:15 （195 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑦】** **就労支援の考え方と実施方法**	明治学院大学 教授　新保　美香氏	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事　渡辺　ゆりか氏 東近江圏域働き・暮らし応援センター`Tekito-` センター長　野々村　光子氏
12:15～13:15	休　憩		
13:15～16:10 （175 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑧】** **相談支援の展開と視点**	市川市生活サポートセンターそら（so-ra） 主任相談支援員 朝比奈　ミカ　氏	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部 社会福祉課　生活相談担当 主査　松本　拓馬　氏
16:10～16:25 （20 分）	まとめ・振り返り （第３日目）	事務局	

【第２回】【前期】共通カリキュラム

日 程 表

【第１日目】7 月 31 日（月）

時　間	科　目	講　師
8:15～9:00	受　付	
9:00～9:10	オリエンテーション	
9:10～9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20～9:30 （10 分）	アイスブレイク	
9:30～10:30 （60 分）	**【講義①】** **生活困窮者支援の基本的考え方**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長　本後　健　氏
10:30～10:40	休　憩	
10:40～12:10 （90 分）	**【講義②】** **他制度の活用・連携**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏 野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐　生水 裕美 氏
12:10～13:10 （60 分）	昼食・休憩	
13:10～14:00 （50 分）	**【講義③】** **住まい確保のための支援について**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　進士　順和 氏 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 主査　梅本　政隆　氏
14:00～14:10 （10 分）	休　憩	
14:10～17:55 （225 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習④】** **支援員に求められる倫理・基本姿勢を支える人材育成と職場づくり**	明治学院大学　教授　新保 美香 氏 九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
17:55～18:10 （15 分）	まとめ・振り返り（第 1 日目）	九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
18:10～18:30	交流会会場へ移動	
18:30～19:30 （60 分）	交流会（会場：新霞が関ビル 5 階）	

日 程 表

【第２日目】８月１日（火）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:00 （180 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑤】** **生活困窮者支援を通じた地域づくり**	ルーテル学院大学 名誉教授　和田 敏明 氏	豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部 麗子 氏 一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏 兵庫県宍粟市福祉事務所 社会福祉課　生活福祉係 大塚　正雄　氏
12:00～13:00 （60 分）	昼食・休憩		
13:00～18:05 （305 分） 休憩 15 分 ×2回含	**【講義と演習⑥】** **生活困窮者支援に必要と考えられる視点** **―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―**	日本福祉大学 教授　原田　正樹氏	生駒市福祉部　福祉健康部 地域包括ケア推進課　課長 田中　明美　氏 有限会社 SNOW DREAM 代表　山口　久美　氏 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長　遠藤 智子 氏 神奈川県立田奈高等学校 キャリア支援センター担当 教諭　金澤 信之 氏
18:05～18:20 （15 分）	まとめ・振り返り （第２日目）	事務局	

日 程 表

【第３日目】８月２日（水）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:15 （195 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑦】** **就労支援の考え方と実施方法**	明治学院大学 教授　新保　美香氏	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事　渡辺　ゆりか氏 東近江圏域働き・暮らし応援センター`Tekito-` センター長　野々村　光子氏
12:15～13:15	休　憩		
13:15～16:10 （175 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑧】** **相談支援の展開と視点**	福島県立医科大学 放射線医学県民健康 管理センター 特任准教授　八木　亜紀子氏	市川市生活サポートセンターそら（so-ra） 主任相談支援員 朝比奈　ミカ　氏 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部 社会福祉課　生活相談担当 主査　松本　拓馬　氏
16:10～16:30 （20 分）	まとめ・振り返り （第３日目）	事務局	

【第３回】【前期】共通カリキュラム

日 程 表

【第１日目】９月５日（火）

時　間	科　目	講　師
8:15～9:00	受　付	
9:00～9:10	オリエンテーション	
9:10～9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20～9:30 （10 分）	アイスブレイク	
9:30～10:30 （60 分）	**【講義①】** **生活困窮者支援の基本的考え方**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長　本後　健　氏
10:30～10:40	休　憩	
10:40～12:10 （90 分）	**【講義②】** **他制度の活用・連携**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏 野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐　生水 裕美 氏
12:10～13:10 （60 分）	昼食・休憩	
13:10～14:00 （50 分）	**【講義③】** **住まい確保のための支援について**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　進士　順和 氏 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 主査　梅本　政隆　氏
14:00～14:10 （10 分）	休　憩	
14:10～17:55 （225 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習④】** **支援員に求められる倫理・基本姿勢を支える人材育成と職場づくり**	明治学院大学　　教授　新保 美香 氏 九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
17:55～18:10 （15 分）	まとめ・振り返り（第１日目）	九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
18:10～18:30	交流会会場へ移動	
18:30～19:30 （60 分）	交流会（会場：新霞が関ビル 5 階）	

日 程 表

【第２日目】９月６日（水）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:00 （180 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑤】** **生活困窮者支援を通じた地域づくり**	ルーテル学院大学 名誉教授　和田 敏明 氏	豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長 勝部 麗子 氏 一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏 兵庫県宍粟市福祉事務所 社会福祉課　生活福祉係 大塚　正雄　氏
12:00～13:00 （60 分）	昼食・休憩		
13:00～18:05 （305 分） 休憩 10 分 ×3回含	**【講義と演習⑥】** **生活困窮者支援に必要と考えられる視点** **―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―**	日本福祉大学 教授　原田　正樹氏	生駒市福祉部　福祉健康部 地域包括ケア推進課 課長　田中　明美　氏 有限会社 SNOW DREAM 代表　山口　久美　氏 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長　遠藤 智子 氏 神奈川県立田奈高等学校 キャリア支援センター担当 教諭　金澤 信之 氏
18:05～18:20 （15 分）	まとめ・振り返り （第２日目）	事務局	

日 程 表

【第３日目】９月７日（木）

時　間	科　目	講　師	実践事例紹介者
8:30～9:00	開　場		
9:00～12:15 （195 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑦】** **就労支援の考え方と実施方法**	明治学院大学 教授　新保　美香氏	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事　渡辺　ゆりか氏 東近江圏域働き・暮らし応援センター`Tekito-` センター長　野々村　光子氏
12:15～13:15	休　憩		
13:15～16:10 （175 分） 休憩 15 分含	**【講義と演習⑧】** **相談支援の展開と視点**	福島県立医科大学 放射線医学県民健康 管理センター 特任准教授　八木　亜紀子氏	市川市生活サポートセンター そら（so-ra） 主任相談支援員 朝比奈　ミカ　氏 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部 社会福祉課　生活相談担当 主査　松本　拓馬　氏
16:10～16:30 （20 分）	まとめ・振り返り （第３日目）	事務局	

【後期】主任相談支援員養成研修

日 程 表

【第１日目】8 月 23 日（水）

時　間	科　目	講　師
9:30～10:00	受　付	
10:00～10:10	オリエンテーション	
10:10～10:40 （30 分）	【講義と演習①】 主任相談支援員の役割と期待	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者対策官　菊地　英人　氏
10:40～11:40 （60 分）	【講義と演習②】 生活困窮者支援と地域づくりの意義	ルーテル学院大学 名誉教授　和田　敏明　氏
11:40～12:40 （60 分）	昼食・休憩	
12:40～16:55 （研修 240 分） （休憩 15 分）	【③講義と演習】 職員の資質向上と職場（組織）づくり	明治学院大学 教授　新保　美香　氏 九州大学 客員准教授　加留部　貴行　氏
16:55～17:25 （30 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
17:25～17:30	休憩・移動	
17:30～19:00 （90 分）	交流会（会場：大楠）	

日 程 表

【第 2 日目】8 月 24 日（木）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～12:15 （研修 180 分） （休憩 15 分）	【④講義と演習】 支援困難事例の検討	【ファシリテーター】 明治学院大学 教授　新保　美香　氏 【スーパーバイザー】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長　上原　久　氏
12:15～13:15 （60 分）	昼食・休憩	
13:15～17:00 （研修 210 分） （休憩 15 分）	【⑤講義と演習】 アセスメント・プラン作成	市川市生活サポートセンター そら（so-ra） 主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所 健康福祉部 社会福祉課 主査　松本　拓馬　氏
17:00～17:30 （30 分）	研修の振り返り （第２日目）	事務局

日 程 表

【第 3 日目】8 月 25 日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～12:15 （研修 180 分） （休憩 15 分）	**【⑥講義と演習】** **個を支える地域づくり**	【ファシリテーター】 日本福祉大学 教授　原田　正樹　氏 【コメンテーター】 花園大学 教授　川島　ゆり子　氏 【実践報告者】 豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長　勝部　麗子 氏
12:15～13:05 （50 分）	昼食・休憩	
13:05～16:20 （研修 180 分） （休憩 15 分）	**【⑦講義と演習】** **社会資源とネットワークの開発**	【ファシリテーター】 日本福祉大学 教授　原田　正樹　氏 【コメンテーター】 花園大学 教授　川島　ゆり子氏 【実践報告者】 豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長　勝部　麗子 氏 東海村社会福祉協議会 生活支援ネットワーク係長　古市 こずえ 氏 金沢市地域包括支援センターとびうめ センター長　中　恵美　氏
16:20～16:30	休憩	
16:30～17:30 （60 分）	**【⑧講義】** **研修の振り返り・まとめ**	日本福祉大学 教授　原田　正樹　氏
17:30～17:40	アンケート記入、修了式	

【後期】相談支援員養成研修（第１回）

日　程　表

【第１日目】10 月 18 日（水）

時　間	科　目	講　師
9:30〜10:00	受　付	
10:00〜10:10	オリエンテーション	
10:10〜12:30 （研修 130 分） （休憩 10 分）	**【講義と演習①】** **個別支援の基本**	日本大学　文理学部　社会福祉学科 准教授　後藤 広史 氏 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏
12:30〜13:30	昼食・休憩	
13:30〜17:15 （研修 210 分） （休憩 15 分）	**【講義と演習②】** **アウトリーチの考え方**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地 英人 氏 【実践者】 豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長　勝部 麗子 氏 特定非営利活動法人　抱樸 センター長　中間 あやみ 氏
17:15〜17:35 （20 分）	研修の振り返り（第１日目）	
17:35〜17:50 （15 分）	交流会会場へ移動	
17:50〜19:20 （90 分）	交流会（会場：ロフォス湘南 大楠）	

日 程 表

【第 2 日目】10 月 19 日（木）

時　間	科　目	講　師
8:30〜9:00	開　場	
9:00〜11:55 （研修 160 分） （休憩 15 分）	**【講義と演習③】** **多機関との連携のあり方**	【コーディネーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 文京学院大学 准教授 長竹教夫 氏 【実践者】 国立市役所 健康福祉部福祉総務課福祉総合相談係 係長　森 幸雄 氏 社会福祉法人 新栄会 厚生事業部 三鷹市生活・就労支援窓口 相談支援員　小林 悦子 氏
11:55〜12:55	昼食・休憩	
12:55〜14:40 （105 分）	**【講義と演習④】** **援助関係をつくりにくい人への支援**	厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部 障害福祉課　障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官　日詰　正文　氏
14:40〜14:55	休　憩	
14:55〜16:35 （100 分）	**【講義と演習⑤】** **地域を基盤とした相談支援のあり方**	【コーディネーター】 東洋大学　社会学部　社会福祉学科 准教授　加山 弾 氏 【実践者】 氷見市社会福祉協議会 事務局次長　森脇　俊二 氏
16:35〜16:50	休　憩	
16:50〜17:50 （60 分）	**【講義と演習⑥】相談支援の展開** **〔導入講義〕** **〔セッション 1〕包括的な相談受付**	【コーディネーター】 市川市生活サポートセンターそら(so-ra) 主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏 【コメンテーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部　社会福祉課 主査　松本　拓馬　氏 文京学院大学 准教授　長竹 教夫 氏
17:50〜18:10 （20 分）	研修の振り返り（第２日目）	事務局

日 程 表

【第 3 日目】10 月 20 日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～12:30 （研修 195 分） （休憩 15 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション 2〕アセスメント	【コーディネーター】 市川市生活サポートセンターそら(so-ra) 主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏 【コメンテーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部　社会福祉課 主査　松本　拓馬　氏 同志社大学 教授　空閑　浩人 氏 文京学院大学 准教授　長竹 教夫 氏
12:30～13:30	昼食・休憩	
13:30～14:30 （60 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション 3〕プラン	
14:30～14:45	休　憩	
14:45～17:20 （155 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション４〕評価・終結 〔3 日間の総括〕	
17:20～17:40 （20 分）	振り返り・修了式	事務局

【後期】相談支援員養成研修（第 2 回）

日 程 表

【第 1 日目】11 月 20 日（月）

時　間	科　目	講　師
9:30〜10:00	受　付	
10:00〜10:10	オリエンテーション	
10:10〜12:30 （研修 130 分） （休憩 10 分）	**【講義と演習①】** **個別支援の基本**	日本大学　文理学部　社会福祉学科 准教授　後藤 広史 氏 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏
12:30〜13:30	昼食・休憩	
13:30〜17:20 （研修 215 分） （休憩 15 分）	**【講義と演習②】** **アウトリーチの考え方**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地 英人 氏 【実践者】 豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長　勝部 麗子 氏 特定非営利活動法人　抱樸 センター長　中間 あやみ 氏
17:20〜17:35 （15 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	
17:35〜17:50 （15 分）	交流会会場へ移動	
17:50〜19:20 （90 分）	交流会（会場：東天紅大阪天満橋OMM店（研修会場と同一建物内 20 階））	

日 程 表

【第 2 日目】11 月 21 日（火）

時　間	科　目	講　師
8:30〜9:00	開　場	
9:00〜11:55 （研修 160 分） （休憩 15 分）	**【講義と演習③】** **多機関との連携のあり方**	【コーディネーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 文京学院大学 准教授 長竹教夫 氏 【実践者】 国立市役所 健康福祉部福祉総務課福祉総合相談係 係長　森 幸雄 氏 社会福祉法人 新栄会 厚生事業部 三鷹市生活・就労支援窓口 相談支援員　小林 悦子 氏
11:55〜12:55	昼食・休憩	
12:55〜14:40 （105 分）	**【講義と演習④】** **援助関係をつくりにくい人への支援**	厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部 障害福祉課　障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官　日詰　正文　氏
14:40〜14:55	休　憩	
14:55〜16:35 （100 分）	**【講義と演習⑤】** **地域を基盤とした相談支援のあり方**	【コーディネーター】 東洋大学　社会学部　社会福祉学科 准教授　加山 弾 氏 【実践者】 氷見市社会福祉協議会 事務局次長　森脇　俊二 氏
16:35〜16:50	休　憩	
16:50〜17:50 （60 分）	**【講義と演習⑥】相談支援の展開** **〔導入講義〕** **〔セッション 1〕包括的な相談受付**	【コーディネーター】 市川市生活サポートセンターそら(so-ra) 主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏 【コメンテーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部　社会福祉課 主査　松本　拓馬　氏 同志社大学 教授　空閑　浩人 氏 文京学院大学 准教授　長竹 教夫 氏
17:50〜18:10 （20 分）	研修の振り返り（第２日目）	事務局

日 程 表

【第 3 日目】11 月 22 日（水）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～12:10 （研修 175 分） （休憩 15 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション 2〕アセスメント	【コーディネーター】 市川市生活サポートセンターそら(so-ra) 主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏 【コメンテーター】 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センターつながり 所長　上原　久　氏 我孫子市役所　健康福祉部　社会福祉課 主査　松本　拓馬　氏 文京学院大学 准教授　長竹 教夫 氏
12:10～13:10	昼食・休憩	
13:10～14:40 （90 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション 2〕アセスメント 〔セッション 3〕プラン	
14:40～14:55	休　憩	
14:55～17:20 （145 分）	【講義と演習⑥】相談支援の展開 〔セッション４〕評価・終結 〔3 日間の総括〕	
17:20～17:40 （20 分）	振り返り・修了式	事務局

【後期】就労支援員養成研修

日 程 表

【第１日目】12 月 6 日（水）

時　間	科　目	講　師
9:15～10:00	受　付	
10:00～10:15	オリエンテーション	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局
10:15～11:45 （研修 90 分）	**【講義と演習①】** **はじめに**	明治学院大学 教授　新保 美香 氏
11:45～12:45	昼食・休憩	
12:45～13:45 （研修 60 分）	**【行政説明】** **生活困窮者自立支援制度における** **就労支援について** **～労働行政との連携の推進～**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　米丸　洋　氏
13:45～14:00	休　憩	
14:00～15:30 （研修 90 分）	**【講義と演習②】** **事例紹介、取り組み紹介**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人　氏 【報告者】 ・江別市社会福祉協議会 くらしサポートセンターえべつ 相談支援員　櫻井 耕平 氏 ・厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 主査　藤村 貴俊 氏（京都府 京丹後市）
15:30～15:45	休　憩	
15:45～17:45 （研修 120 分）	**【講義と演習③】** **就労支援を通じた地域づくり**	【コーディネーター】 九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 【報告者】 ・釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏 ・鳥取県北栄町福祉事務所長 西尾　浩一　氏
17:45～17:55 （10 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局
17:55～18:10	**交流会会場へ移動**	
18:10～19:40 （90 分）	**交流会（会場：大楠）**	

日 程 表

【第２日目】12 月 7 日（木）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～9:10	オリエンテーション	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局
9:10～11:20 （研修 130 分）	**【講義と演習④】** **アウトリーチの実際と危機管理**	NPO スチューデント･サポート･フェイス 代表理事　谷口 仁史 氏
11:20～11:35	休　憩	
11:35～12:15 （研修 40 分）	**【講義と演習⑤】** **多様なプログラムづくり①**	沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナルサポートセンター 統括責任者　名嘉　泰　氏
12:15～13:05	昼食・休憩	
13:05～14:05 （研修 60 分）	**【講義と演習⑤】** **多様なプログラムづくり②**	沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナルサポートセンター 統括責任者　名嘉　泰　氏
14:05～14:15	休　憩	
14:15～15:55 （研修 100 分）	**【講義と演習⑥】** **就労支援と自治体の役割**	【コーディネーター】 九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 【報告者】 ・A’ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター) 就労支援室　室長　西岡 正次 氏 ・大阪府福祉部地域福祉推進室社会援護課 生活支援グループ主査　津崎 信吾 氏
15:55～16:10	休　憩	
16:10～17:35 （研修 85 分）	**【講義と演習⑦】** **支援関係の構築**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調整官　鏑木 奈津子 氏 【報告者】 ・東近江圏域　働き・暮らし応援センター “Tekito-”センター長　野々村　光子　氏 ・沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナルサポートセンター 統括責任者　名嘉　泰 氏
17:35～17:45	研修の振り返り（第２日目）	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局
18:00～19:00	テーマ別交流会（任意参加）	谷口 仁史 氏、名嘉 泰 氏、野々村 光子 氏 渡辺 ゆりか 氏

日 程 表

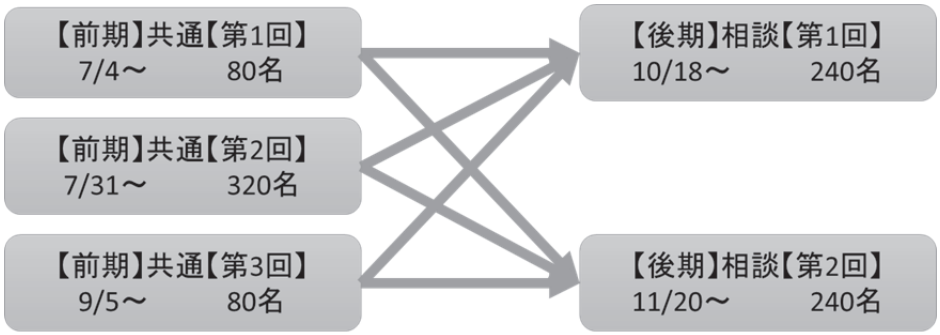
【第 3 日目】12 月 8 日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	開　場	
9:00～9:15	オリエンテーション	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局
9:15～11:30 （研修 135 分）	**【講義と演習⑧】** **就労支援における出口づくり** **出口支援（対地域、自治体、企業）** **～企業開拓の方法**	【コーディネーター】 明治学院大学 教授　新保 美香 氏 【報告者】 一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事　渡辺　ゆりか 氏
11:30～12:30	昼食・休憩	
12:30～13:45 （研修 75 分）	**【講義と演習⑨】** **就労支援における出口づくり** **出口支援（対地域、自治体、企業）** **～企業へのアプローチ**	【コーディネーター】 明治学院大学 教授　新保 美香 氏 【報告者】 東近江圏域　働き・暮らし応援センター “Tekito-”センター長　野々村　光子　氏
13:45～14:00	休　憩	
14:00～16:00 （研修 120 分）	**【講義と演習⑩】** **研修全体のまとめ**	明治学院大学 教授　新保 美香 氏 九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏
16:00～16:30 （30 分）	まとめ・振り返り・修了式	九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏 事務局

3　職種別の受講パターン

（1）主任相談支援員（240 名）

（2）相談支援員（480 名）



相談支援員は、【前期】、【後期】それぞれ受講希望回を受講申込書にて確認。
受講回の決定は、事務局および厚生労働省が行う。

（3）就労支援員（240 名）

4　受講対象者

（1）主任相談支援員養成研修

自立相談支援事業において主任相談支援員として配置されている者。

なお、以下の①～③までのいずれかに該当する者。

①社会福祉士、精神保健福祉士、保健師として保健、医療、福祉、就労、教育等の分野における業務に 5 年以上従事している者であり、かつ、生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に 3 年以上従事している者

②生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に 5 年以上従事している者

③相談支援業務に準ずる業務として、実施主体である地方自治体の長が認めた業務に 5 年以上従事している者

（2）相談支援員養成研修

自立相談支援事業において相談支援員として配置されている者。なお、相談支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への相談支援を適切に行うことができる者。

（３）就労支援員養成研修

自立相談支援事業において就労支援員として配置されている者。なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定する。選考は下記に基づいて行われる。

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）（研修受講者の選定基準、都道府県別の受講者枠等が示されている）

5　受講者定員

各回 240名

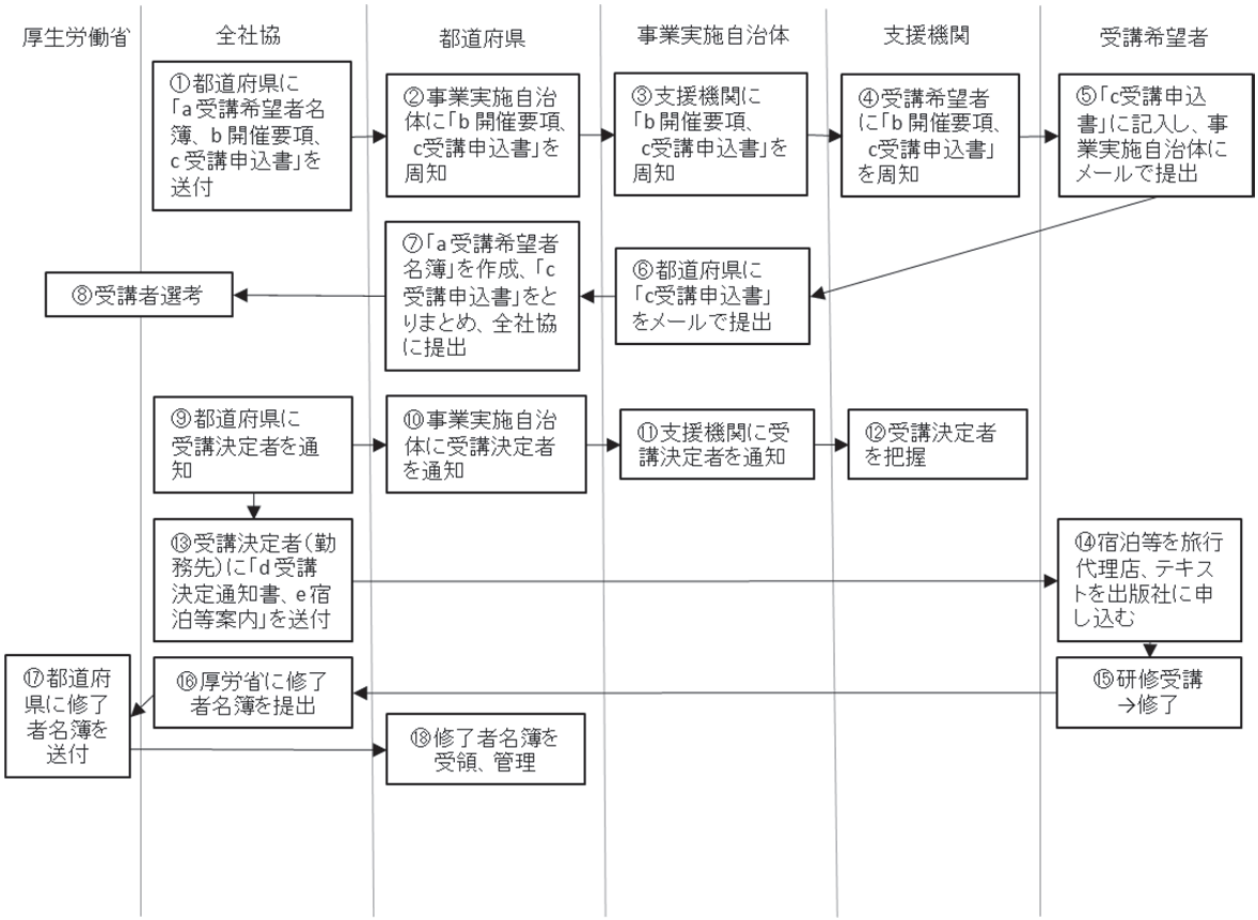
※平成29年4月17日付厚生労働省事務連絡に基づき、各都道府県の各研修受講者枠を定めている。

6　テキスト

各研修で、下記のテキストを使用する。受講者が各自用意する（自己負担）。

①『生活困窮者自立支援法 自立相談支援事業従事者養成研修テキスト』（中央法規出版株式会社）

7　申込みから受講、修了までの流れ



8　修了証書の交付

（1）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付する。

（2）修了要件は以下のとおりである。

①前・後期のすべての科目に出席すること。

②前期終了後の事後課題を提出すること（課題を課した場合）。

（3）修了証書は、後期研修終了時に受講者本人に授与する。

（4）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿を送付する。

◆就労準備支援事業従事者養成研修

1　研修の目的および種類

複合的な課題を抱え、直ちに就労が困難な者に対して、一般就労に従事する準備としての基礎能力の形成を、計画的かつ一貫して支援するため、就労準備支援事業に従事する者に必要とされる姿勢・知識・能力を習得することにより、資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業において配置される就労準備支援担当者を対象とした養成研修を実施した。

2　プログラムの概要　日程表、会場

研 修 名	日　程	定員	会　場
就労準備支援事業 従事者養成研修	10 月 10 日（火）～ 10 月 13 日（金）	120 名	タイム 24 ビル

＜会場＞

タイム 24 ビル　研修室 131

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-32

平成 29 年度　就労準備支援事業従事者養成研修

日 程 表

【第１日目】　10 月 10 日（火）

時　間	科　目	講　師
12:30～13:30	受　付	
13:30～13:50 （20 分）	挨拶・オリエンテーション	
13:50～14:35 （45 分）	**【講義①】** **生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の基本的な考え方**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　米丸　洋　氏
14:35～15:35 （60 分）	**【講義②】** **就労準備支援担当者の役割と基本姿勢**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏
15:35～16:20 （45 分）	**【講義③】** **これまでの取組実績と考え方**	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏
16:20～16:30 （10 分）	休　憩	
16:30～17:50 （80 分）	**【事例発表④】** **本人の状態像に応じた支援のあり方**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援専門調査員　石原　隆司　氏 【報告者】 岩見沢市生活サポートセンターりんく センター長　湯澤　真吾　氏 浦安市 健康福祉部 社会福祉課 課長補佐　梅澤　岳　氏
17:50～18:10 （20 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	
18:10～18:30	交流会会場へ移動	
18:30～19:30 （60 分）	交流会（任意参加・当日申込可能）	

日 程 表

【第 2 日目】　10 月 11 日（水）

時　間	科　目	講　師
9:00～9:30	受　付	
9:30～9:40 （10 分）	オリエンテーション	
9:40～14:35 （休憩 15 分） <昼食>12:00～13:00 （60 分） （研修 220 分）	**【講義と演習⑤】** **本人の特性に応じた支援のあり方**	NPO スチューデント・サポート・ フェイス　　代表　谷口　仁史　氏
14:35～14:50 （15 分）	休　憩	
14:50～15:50 （60 分）	**【講義⑥】** **対象者別の特性理解（１）**	レター・ポスト・フレンド 相談ネットワーク 理事長　田中　敦氏
15:50～16:00 （10 分）	休　憩	
16:00～17:10 （70 分）	**【事例発表⑦】** **対象者別の特性理解（２）**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏 【報告者】 社会福祉法人　すいせい 中川　英治　氏 社会福祉法人　虹の会 就労準備支援　ホップ 管理者　藪内　正子　氏
17:10～17:30 （20 分）	研修の振り返り（第２日目）	
17:40～18:40 （60 分）	テーマ別交流会（任意参加）	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏 NPO スチューデント・サポート・ フェイス　　代表　谷口　仁史　氏

日 程 表

【第 3 日目】　10 月 12 日（木）

時　間	科　目	講　師
9:00～9:30	受　付	
9:30～9:40 （10 分）	オリエンテーション	
9:40～11:00 （80 分）	**【講義⑧】** **支援関係の構築Ⅰ**	明治学院大学 教授　新保　美香　氏
11:00～11:15 （15 分）	休　憩	
11:15～14:10 <昼食>12:00～13:00 （60 分） （研修 115 分）	**【講義と演習⑨】** **支援関係の構築Ⅱ**	【コーディネーター】 明治学院大学 教授　新保　美香　氏 【報告者】 NPO スチューデント・サポート・ フェイス　　代表　谷口　仁史　氏 那覇市パーソナルサポートセンター 統括責任者　名嘉　泰　氏
14:10～14:25 （15 分）	休　憩	
14:25～16:30 （125 分）	**【事例発表⑩】** **支援メニューの開発**	【コーディネーター】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　米丸　洋　氏 【報告者】 京都自立就労サポートセンター 主任就労支援相談員 高橋　尚子　氏 仙台市パーソナル・サポート・センター 理事　立岡　学　氏
16:30～16:45 （15 分）	休　憩	
16:45～18:25 （100 分）	**【講義と演習⑪】** **本人の状態に応じた多様なメニュー開発**	沖縄県おしごと応援センター One×One（ワンバイワン） 次長 兼 パーソナル・サポーター 岡野　みゆき　氏
18:25～18:45 （20 分）	研修の振り返り（第３日目）	

日 程 表

【第４日目】　10 月 13 日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～9:00	受　付	
9:10～12:15 （研修 185 分） （休憩 15 分含）	**【講義と演習⑫】** **４日間の振り返りとまとめ**	明治学院大学 教授　新保　美香氏 NPO スチューデント・サポート・ フェイス　　代表　谷口　仁史氏
12:15～12:35 （20 分）	振り返り（第４日目） 修了式	

3　受講対象者

就労準備支援事業において就労準備支援担当者として配置されている者。

なお、対象者の選定に当たっては、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる人材が望ましい。

※受講者は選考を行い決定する。選考は下記に基づいて行われる。

- 「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）
- 「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）

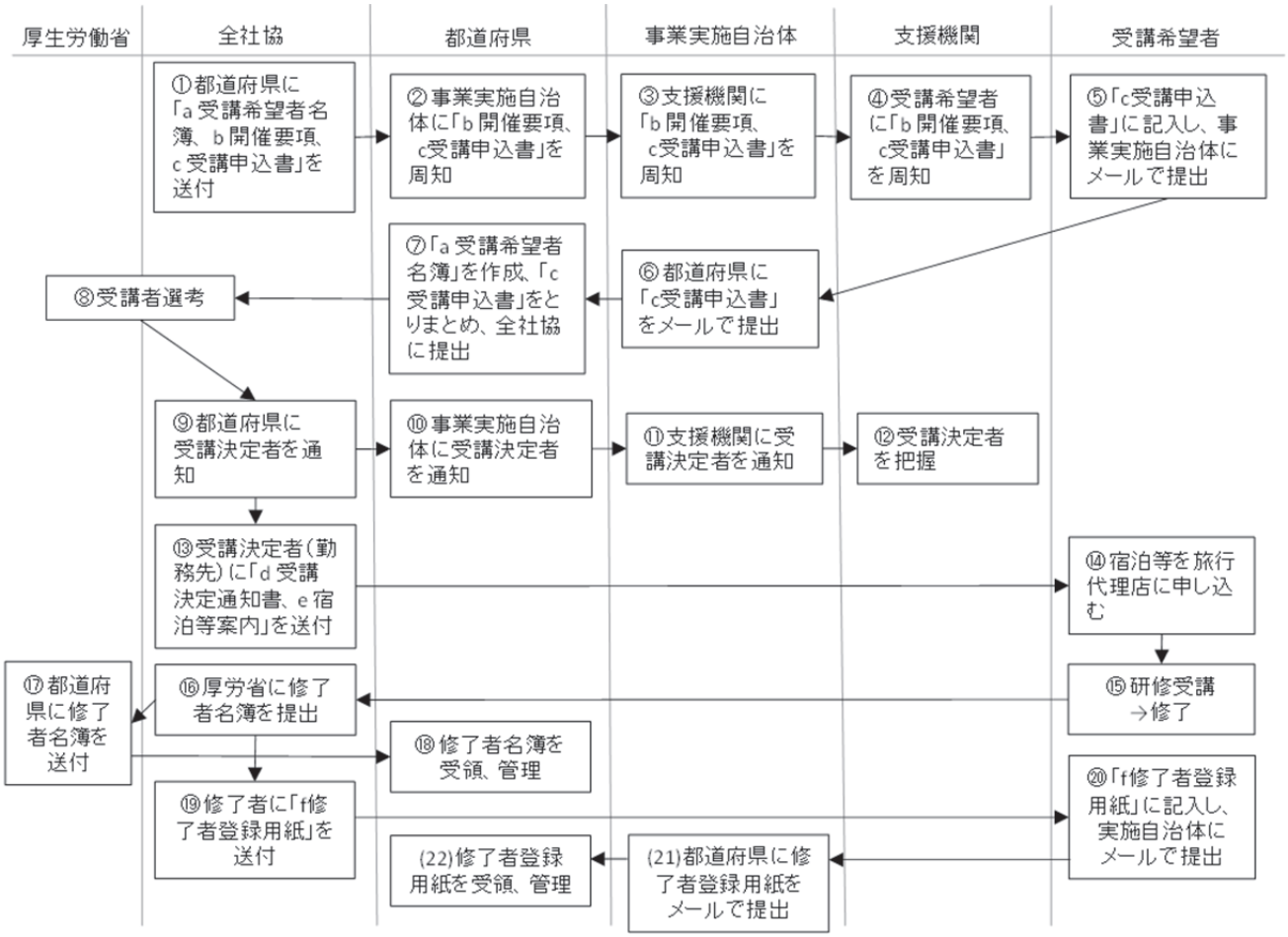
4　研修の受講定員

120 名

5　テキスト

テキストとして、有償の書籍は使用しない。

6　申込みから受講までの流れ



7　修了証書の交付

（1）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付する。

（2）修了要件は以下のとおりである。

①すべての科目に出席すること。

（3）修了証書は、研修終了時に受講者本人に授与する。

（4）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿を送付する。

◆家計相談支援事業従事者養成研修

1　研修の目的および種類

生活困窮の背景にある根源的な課題を相談者とともに理解し、相談者自身が主体的に「家計を管理しよう」という意欲を引き出すための、支援姿勢や方法等を学ぶことを目的とする。加えて、相談者が再び生活困窮状態になることを予防する観点からも、家計相談支援のねらいや基本的な考え方を十分に理解したうえで、効率的かつ確実に支援を行うための技術を習得し、家計相談支援事業に従事する者の資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の家計相談支援事業において配置される 家計相談支援員を対象とした養成研修を実施した。研修は 2 回実施したが、各回の内容は同様。

2　プログラムの概要　日程表、会場

研 修 名	日　程	定員	会　場
第1回 家計相談支援 事業従事者養成研修	6月6日（火）～ 6月9日（金）	60名	全社協・会議室
第2回 家計相談支援 事業従事者養成研修	12月19日（火）～ 12月22日（金）	60名	全社協・会議室

＜会場＞

全国社会福祉協議会（5 階 会議室）

〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル

平成 29 年度　家計相談支援事業従事者養成研修【第 1 回】

日 程 表

【第１日目】　６月６日（火）

時　間	科　目	講　師
12:40～13:20	受　付	
13:20～13:40 （20 分）	挨拶・オリエンテーション	
13:40～15:00 （80 分）	**【講義①】** **家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について①**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 相談支援係長　安蒜　丈範
	【講義②】 **家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について②**	全国社会福祉協議会　民生部 副部長　伊藤　浩司
15:00～15:15	休　憩	
15:15～16:45 （90 分）	**【講義③-1】** **利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解①**	野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐　生水 裕美 氏
16:45～16:55 （10 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	
16:55～17:05	交流会会場へ移動	
17:05～18:05 （60 分）	交流会（任意参加・当日申込可能）	

日 程 表

【第２日目】　６月７日（水）

時　間	科　目	講　師
9:00～ 9:30	受　付	
9:30～10:30 （60 分）	【講義③-2】 利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解②	日本司法支援センター 弁護士　工藤　舞子 弁護士　馬場　真由子
10:30～10:40	休　憩	
10:40～11:40 （60 分）	【講義④】 ある相談窓口の事例から家計相談支援へのアプローチを探る～自立の第一歩につながる家計相談支援～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡　みち子　氏
11:40～12:40 （60 分）	昼　食　休　憩	
12:40～14:40 （研修 110 分） （休憩 10 分）	【講義⑤-1】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 近澤　和子　氏
14:40～14:55	休　憩	
14:55～16:25 （90 分）	【講義⑤-2】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 中島　明美　氏 近澤　和子　氏 東近江市社会福祉協議会 相談支援課主幹　細野　淳子　　氏
16:25～16:40	休　憩	
16:40～17:30 （50 分）	【講義⑥】 家計相談支援の失敗事例の検討 ～相談時の留意点や連携のあり方～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 一丸　直子　氏
17:30～17:40 （10 分）	研修の振り返り（第２日目）	
17:40～18:30 （50 分）	オプション交流会（任意参加）	

日 程 表

【第３日目】　６月８日（木）

時　間	科　目	講　師
9:00～ 9:30	受　付	
9:30～11:15 （105 分）	【実習①】 家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表作成	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 北島　千恵　氏
11:15～11:25 （10 分）	休　憩	
11:25～12:05 （40 分）	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏
12:05～13:05 （60 分）	昼　食　休　憩	
13:05～15:05 （研修 110 分） （休憩 10 分）	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	
15:05～15:20	休　憩	
15:20～18:00 （160 分）	【実習③-1】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案 （キャッシュフロー表の作成）	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏 中島　明美　氏
18:00～18:10 （10 分）	研修の振り返り（第３日目）	

日 程 表

【第４日目】６月９日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～ 9:00	受　付	
9:00～10:50 （110 分）	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案 （家計再生プランの立案、貸付あっせん書の作成）	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏 藤浦　久美　氏 近澤　和子　氏
10:50～11:00 （10 分）	休　憩	
11:00～12:30 （90 分）	【講義⑦】 家計相談支援の帳票の書き方 全体の質疑・応答	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 北島　千恵　氏
12:30～12:50 （20 分）	振り返り（第４日目） 修了式	

平成 29 年度　家計相談支援事業従事者養成研修【第 2 回】

日 程 表

【第 1 日目】　12 月 19 日（火）

時　間	科　目	講　師
12:40～13:20	受　付	
13:20～13:40 （20 分）	挨拶・オリエンテーション	
13:40～15:00 （80 分）	**【講義①】** **家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について①**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 主査　藤村　貴俊　氏
	【講義②】 **家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について②**	全国社会福祉協議会　民生部 副部長　伊藤　浩司
15:00～15:15	休　憩	
15:15～16:45 （90 分）	**【講義③-1】** **利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解①**	野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐　生水　裕美　氏
16:45～16:55 （10 分）	研修の振り返り（第 1 日目）	
16:55～17:05	交流会会場へ移動	
17:05～18:05 （60 分）	交流会（任意参加・当日申込可能）	

日 程 表

【第 2 日目】　12 月 20 日（水）

時　間	科　目	講　師
9:00～ 9:30	受　付	
9:30～10:30 （60 分）	【講義③-2】 利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解②	日本司法支援センター 弁護士　馬場　真由子　氏 弁護士　工藤　舞子　氏
10:30～10:40	休　憩	
10:40～11:50 （70 分）	【講義④】 相談者に学ぶ家計相談支援のあり方　～家計相談支援とは何か、その基本的なかたち～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡　みち子　氏
11:50～12:50 （60 分）	昼　食　休　憩	
12:50～14:40 （研修 100 分） （休憩 10 分）	【講義⑤-1】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 近澤　和子　氏
14:40～14:55	休　憩	
14:55～16:25 （90 分）	【講義⑤-2】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 中島　明美　氏 北島　千恵　氏 東近江市社会福祉協議会 相談支援課主幹　細野　淳子　氏
16:25～16:40	休　憩	
16:40～17:30 （50 分）	【講義⑥】 家計相談支援の失敗事例の検討 ～相談時の留意点や連携のあり方～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 近澤　和子　氏
17:30～17:40 （10 分）	研修の振り返り（第２日目）	
17:40～18:30 （50 分）	オプション交流会（任意参加）	

日 程 表

【第 3 日目】　12 月 21 日（木）

時　間	科　目	講　師
9:00～ 9:30	受　付	
9:30～11:15 （105 分）	【実習①】 家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表作成	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 北島　千恵　氏 一丸　直子　氏
11:15～11:25 （10 分）	休　憩	
11:25～12:05 （40 分）	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏
12:05～13:05 （60 分）	昼　食　休　憩	
13:05～15:05 （研修 110 分） （休憩 10 分）	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	
15:05～15:20	休　憩	
15:20～18:00 （160 分）	【実習③-1】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案 （キャッシュフロー表の作成）	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏 中島　明美　氏
18:00～18:10 （10 分）	研修の振り返り（第３日目）	

日 程 表

【第 4 日目】12 月 22 日（金）

時　間	科　目	講　師
8:30～ 9:00	受　付	
9:00～10:50 （110 分）	**【実習③-2】** **キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案** **（家計再生プランの立案、貸付あっせん書の作成）**	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 丸山　恵子　氏 藤浦　久美　氏 近澤　和子　氏
10:50～11:00 （10 分）	休　憩	
11:00～12:30 （90 分）	**【講義⑦】** **家計相談支援の帳票の書き方** **全体の質疑・応答**	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 北島　千恵　氏
12:30～12:50 （20 分）	振り返り（第４日目） 修了式	

3　受講対象者

家計相談支援事業において家計相談支援員として配置されている者。

なお、対象者の選定に当たっては、相談支援に関わる知識・技術、家計管理に関わる知識・技術、社会保障制度や金融に関わる知識等を有していることが必要であり、以下の①から⑤のような人材が考えられる。

① 消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー又は消費生活コンサルタントの資格を有する者
② 社会福祉士の資格を有する者
③ 社会保険労務士の資格を有する者
④ ファイナンシャルプランナーの資格を有する者
⑤ 上記①～④に掲げる者と同等の能力または実務経験を有する者

※受講者は選考を行い決定する。選考は下記に基づいて行われる。

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）
・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）

4　研修の受講定員

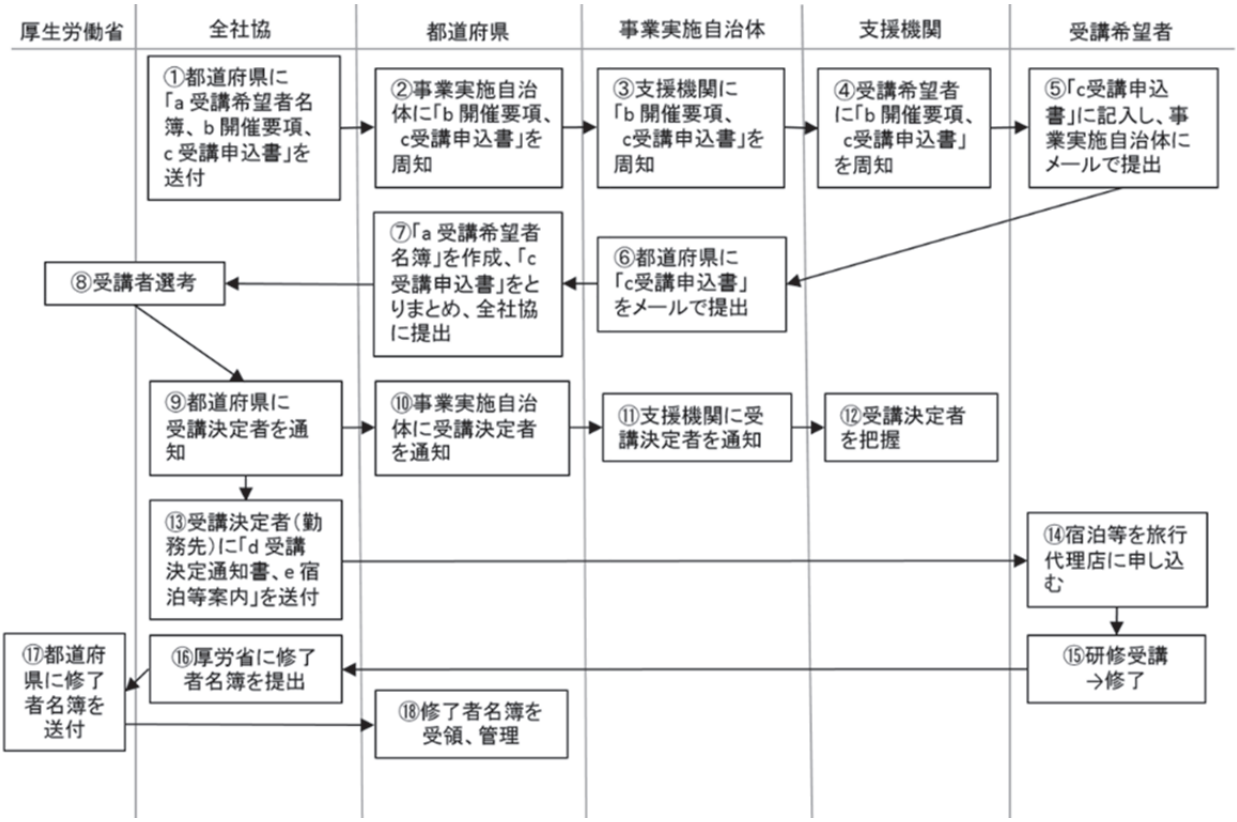
1回あたり 60 名

5　テキストおよびノートパソコン

（1）テキストとして、有償の書籍は使用しない。

（2）第 3 日目においてノートパソコン（Microsoft Word、Microsoft Excel を使用）を使用する。持参できない方に対して、レンタルサービスを提供する。

6　申込みから受講までの流れ



7　修了証書の交付

（1）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付する。

（2）修了要件は以下のとおりである。

①すべての科目に出席すること。

（3）修了証書は、研修終了時に受講者本人に授与する。

（4）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿を送付する。

◆都道府県研修に係る担当者研修

1　研修の目的および種類

自立相談支援事業に従事する者等に対し、都道府県が独自性を持ち、国が実施する研修を基に地域における支援ニーズを加味して行う研修（以下「都道府県研修」という。）の内容の充実を図るため、効果的な都道府県研修の企画検討に関する講義・演習等を行い、都道府県研修の企画立案・運営に携わり中核的な役割を担う者を養成することを目的とした。

都道府県研修の企画検討メンバーおよび予定者を対象とした研修を実施した。

2　プログラムの概要　日程表、会場

研 修 名	日 程	会 場
【前期】 都道府県研修に係る担当者研修	平成 29 年 5 月 31 日（水）	全社協・灘尾ホール
【後期】 都道府県研修に係る担当者研修	平成 30 年 1 月 30 日（火）	全社協・灘尾ホール

＜会場＞

全国社会福祉協議会　灘尾ホール

〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル

平成 29 年度　【前期】都道府県研修に係る担当者研修

日 程 表

5 月 31 日（水）

時　間	科　目	講　師
10:00～10:30 （30 分）	受　付	
10:30～10:40 （10 分）	挨拶・オリエンテーション	
10:40～12:30 （110 分）	**【講義】** **生活困窮者支援における** **人材養成について**	九州大学　客員准教授 加留部 貴行　氏 明治学院大学　教授 新保　美香　氏 《都道府県における研修の取り組み事例発表》 【事例発表】 大阪府 福祉部 地域福祉推進室 社会援護課　生活支援グループ 総括主査　津﨑　信吾　氏 【コーディネーター】 厚生労働省　地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援専門調査員　石原　隆司　氏
12:30～13:30	昼食・休憩	
13:30～16:45 研修（180 分） 途中休憩(15 分)	**【講義と演習】** **効果的な研修の** **企画立案について**	九州大学　客員准教授 加留部 貴行　氏
16:45～16:55 （10 分）	アンケート記入、事務連絡等	
16:55～17:55 （60 分）	**個別相談会（任意参加）** 加留部先生・新保先生に質問や相談をすることができる。	

平成 29 年度　【後期】都道府県研修に係る担当者研修

日 程 表

1 月 30 日（火）

時　間	科　目	講　師
10:30～11:00 （30 分）	受　付	
11:00～11:15 （15 分）	挨拶・オリエンテーション	
11:15～11:30 （15 分）	【行政説明】	厚生労働省　社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室　自立支援企画調整官 鏑木　奈津子　氏
11:30～12:30 （60 分）	【講義と演習】 実施した研修の振り返り	九州大学　客員准教授 加留部 貴行　氏 明治学院大学　教授 新保　美香　氏
12:30～13:30	昼食・休憩	
13:30～15:00 （90 分）	【事例発表】 都道府県における研修の取り組み	【コーディネーター】 厚生労働省　社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室　自立支援専門調査員 石原　隆司　氏 【コメンテーター】 九州大学　客員准教授 加留部 貴行　氏 明治学院大学　教授 新保　美香　氏 【事例発表】 福井県 健康福祉部 地域福祉課 主査　野澤　晴彦　氏 東京都 福祉保健局 生活福祉部 生活支援課 主任　金野　佑子　氏
15:00～15:15 （15 分）	休憩	

15:15～16:50 （95 分）	**公開お悩み相談会**	九州大学　客員准教授 加留部 貴行　氏 明治学院大学　教授 新保　美香　氏 厚生労働省　社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室　自立支援専門調査員 石原　隆司　氏
16:50～16:55 （5 分）	**アンケート記入・事務連絡等**	

3　受講対象者

都道府県研修の企画検討メンバーおよび予定者　※主に①②を想定。

①都道府県の研修担当者

②国が実施する研修の修了者（条件：平成 26-28 年度自立相談支援事業従事者養成研修の修了者）

③その他、都道府県研修の企画立案や実施に関わる者。

4　研修の受講定員

140 名

◆全研修の受講者数と修了者数

	主任相談 支援員 養成研修	相談 支援員 養成研修	就労 支援員 養成研修	就労準備 支援事業 従事者 養成研修	家計相談 支援事業 従事者 養成研修	合計
受講者数※1	239 名	473 名	219 名	136 名	144 名	1,187 名
修了者数	224 名	429 名	195 名	132 名	141 名	1,121 名

※1：受講決定通知を発行した人数

■【前期】共通カリキュラム（実際の受講者数）

【第 1 回】 276 名（主任 152 名、相談 96 名、就労 8 名、前期のみ受講 20 名）

【第 2 回】 235 名（主任 16 名、相談 195 名、就労 9 名、前期のみ受講 15 名）

【第 3 回】 255 名（主任 8 名、相談 110 名、就労 125 名、前期のみ受講 12 名）

【前期免除】54 名（主任 48 名、相談 37 名、就労 40 名）

■ 相談支援員養成研修　受講者数と修了者数の内訳

受講者数　473 名（第 1 回 240 名、第 2 回 233 名）

修了者数　429 名（第 1 回 222 名、第 2 回 207 名）

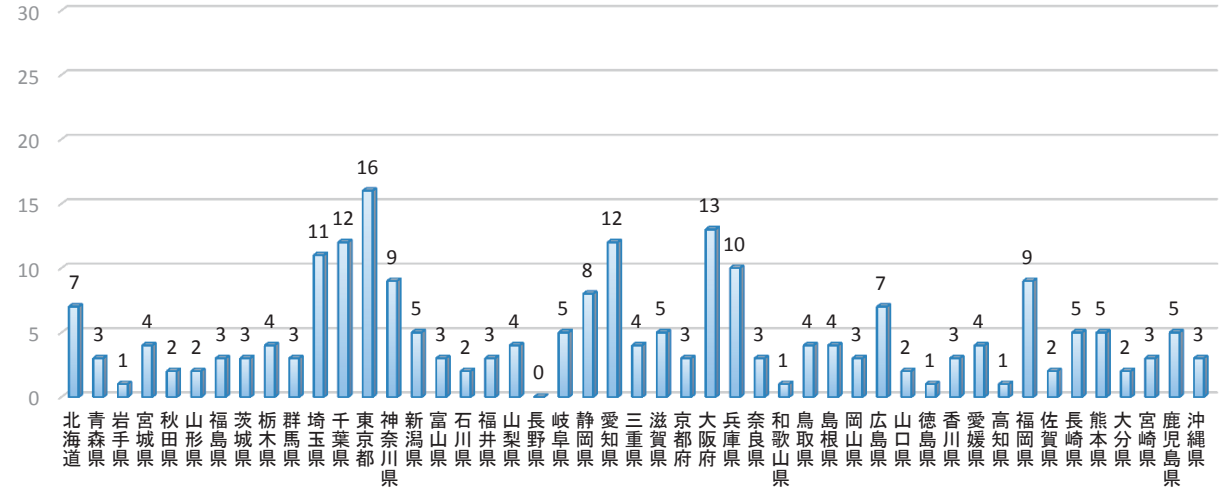
■ 都道府県研修に係る担当者研修

前期　受講者数　60 名

後期　受講者数　50 名

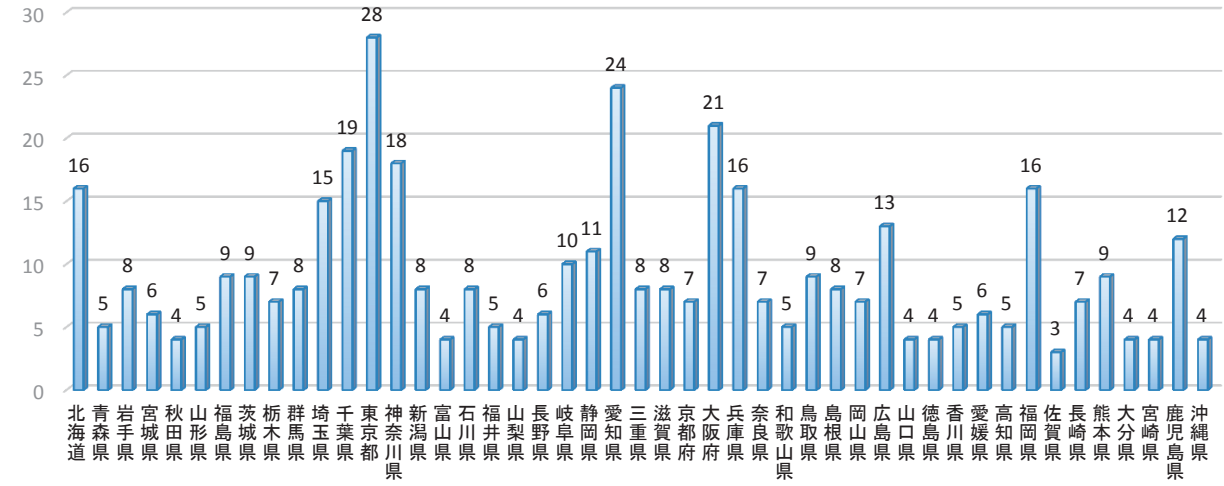
主任相談支援員養成研修　都道府県別　修了者数

修了者224名／受講者239名



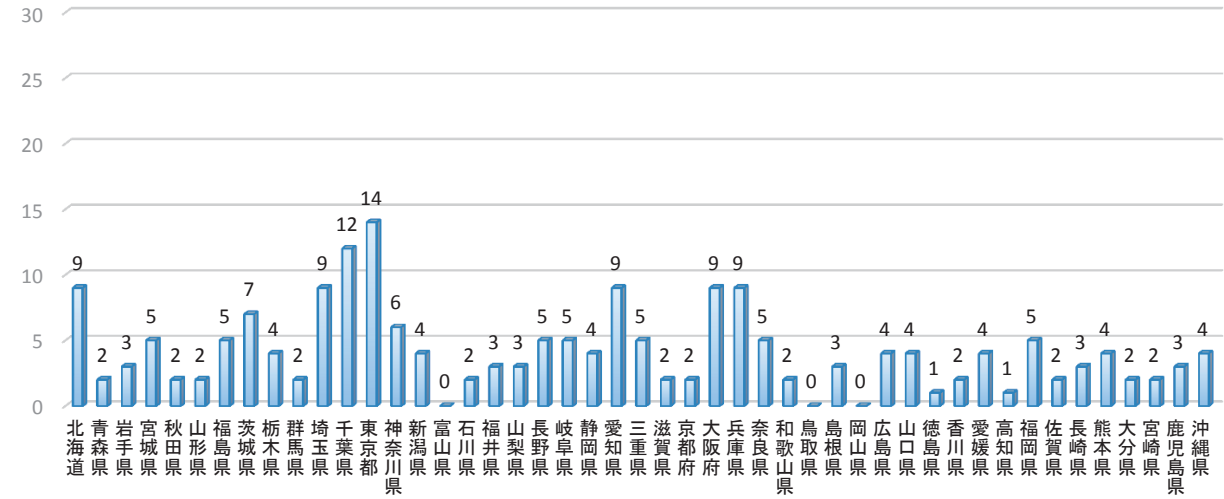
相談支援員養成研修　都道府県別　修了者数

修了者429名／受講者473名



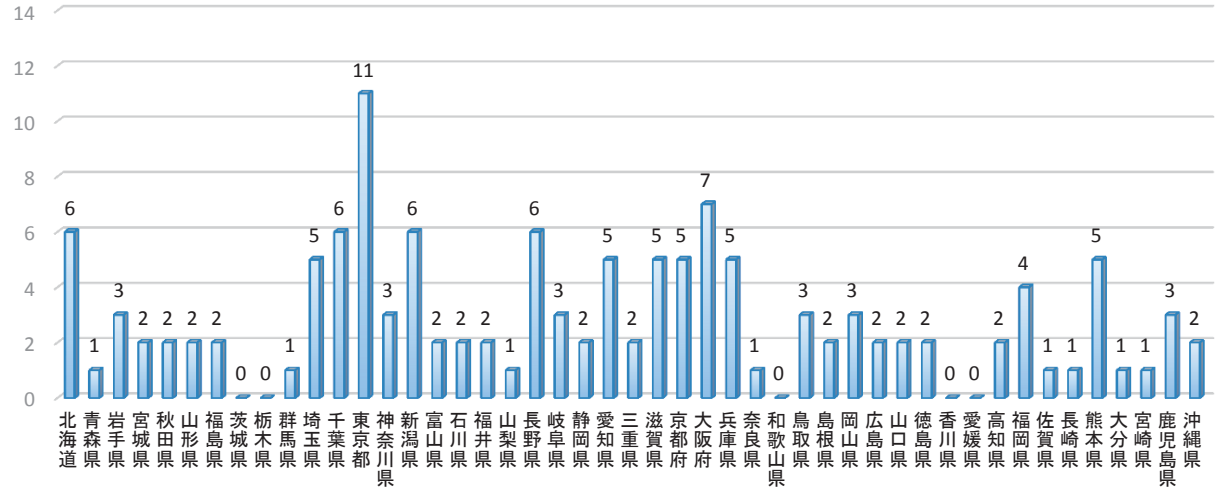
就労支援員養成研修　都道府県別　修了者数

修了者195名／受講者219名



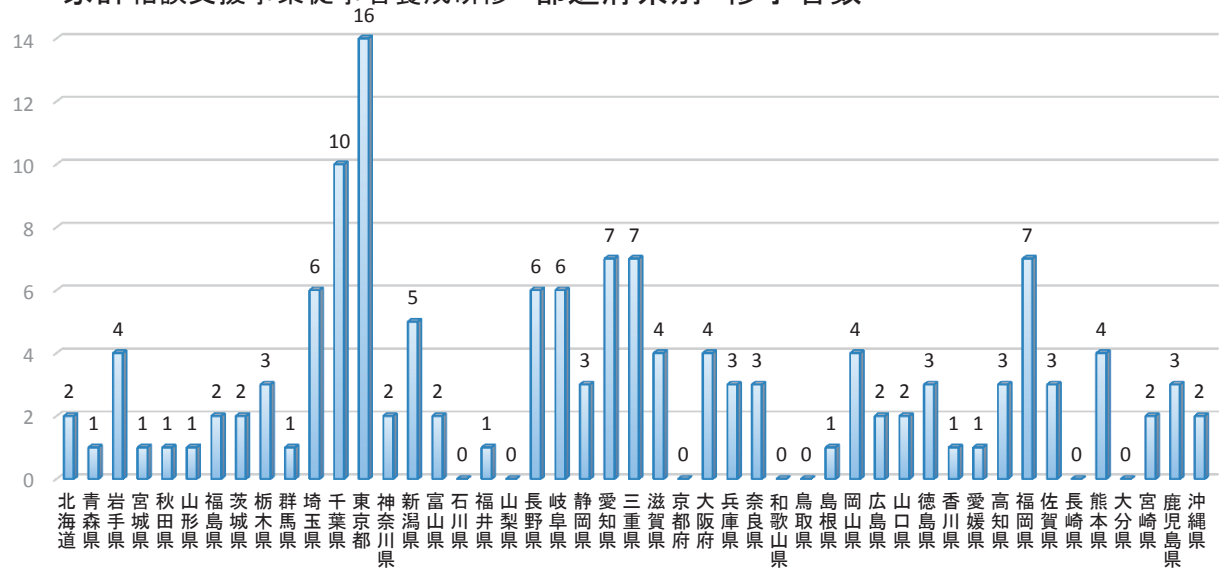
就労準備支援事業従事者養成研修　都道府県別　修了者数

修了者132名／受講者136名



家計相談支援事業従事者養成研修　都道府県別　修了者数

修了者141名／受講者144名



平成29年度
自立相談支援事業従事者養成研修

主任相談支援員養成研修
修了者属性傾向

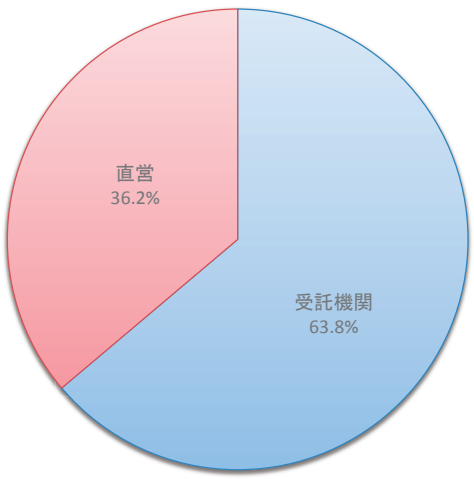
平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の割合

	人数
受託機関	143
直営	81
計	224

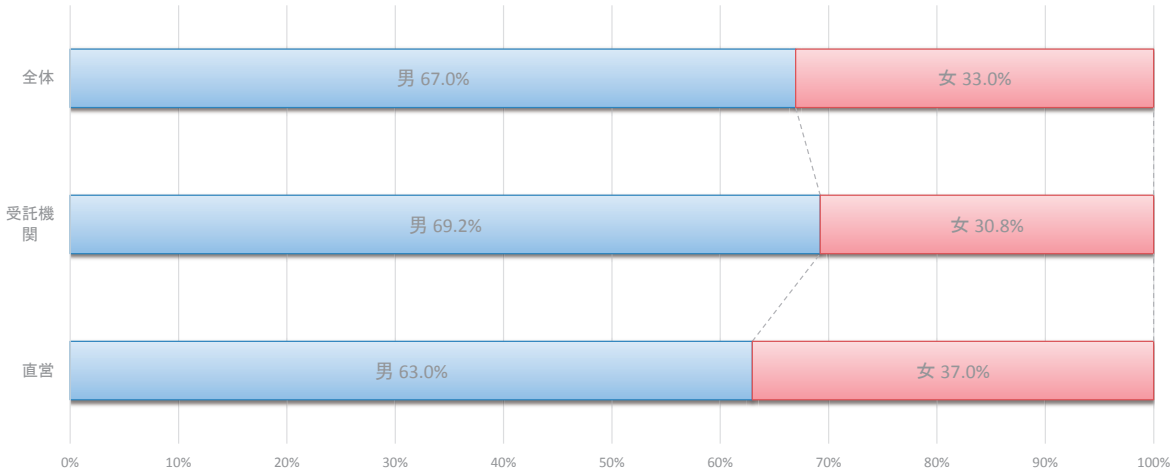
うち

前期免除者	48

※受託機関143のうち
社協は102（約71.3%）
となっている。

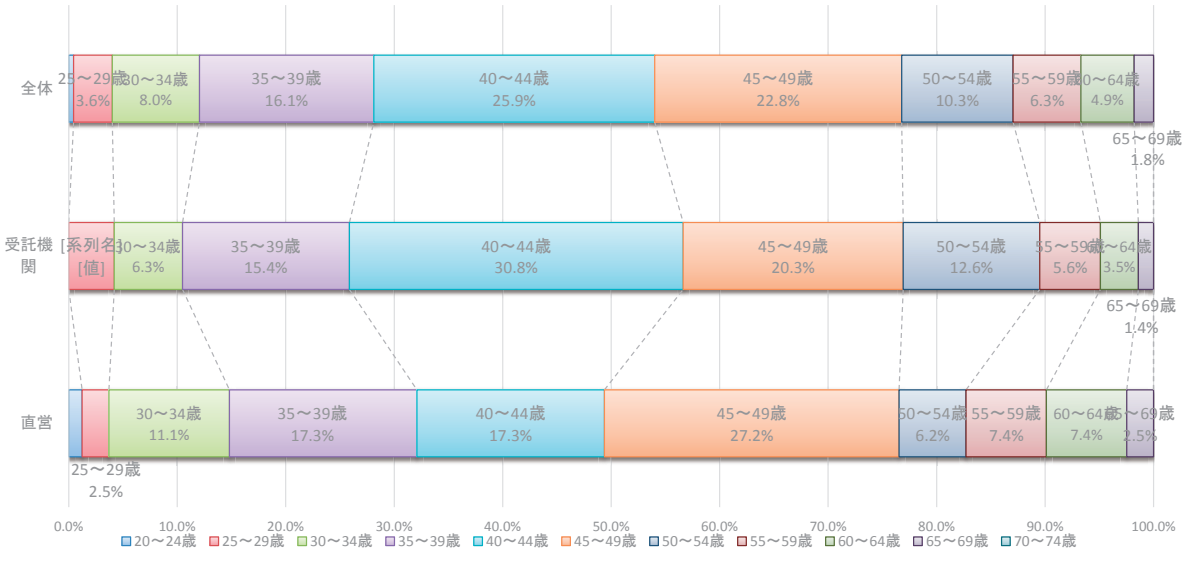


平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の男女比



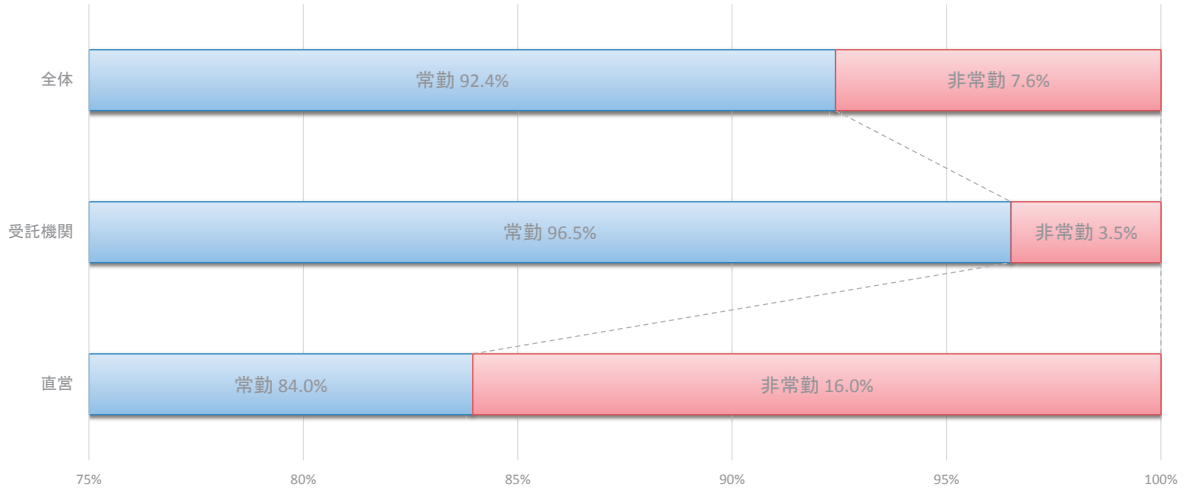
	全体	受託機関	直営
男	150	99	51
女	74	44	30
計	224	143	81

平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の年齢構成



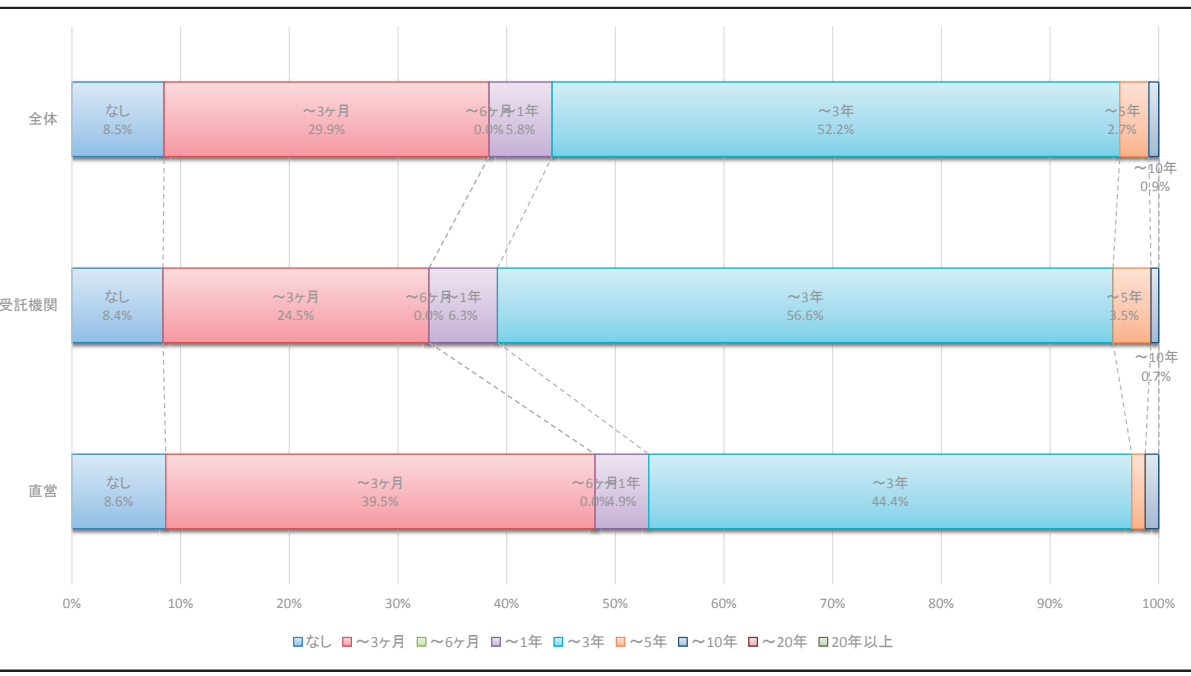
平均年齢は44.4歳

平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の勤務形態

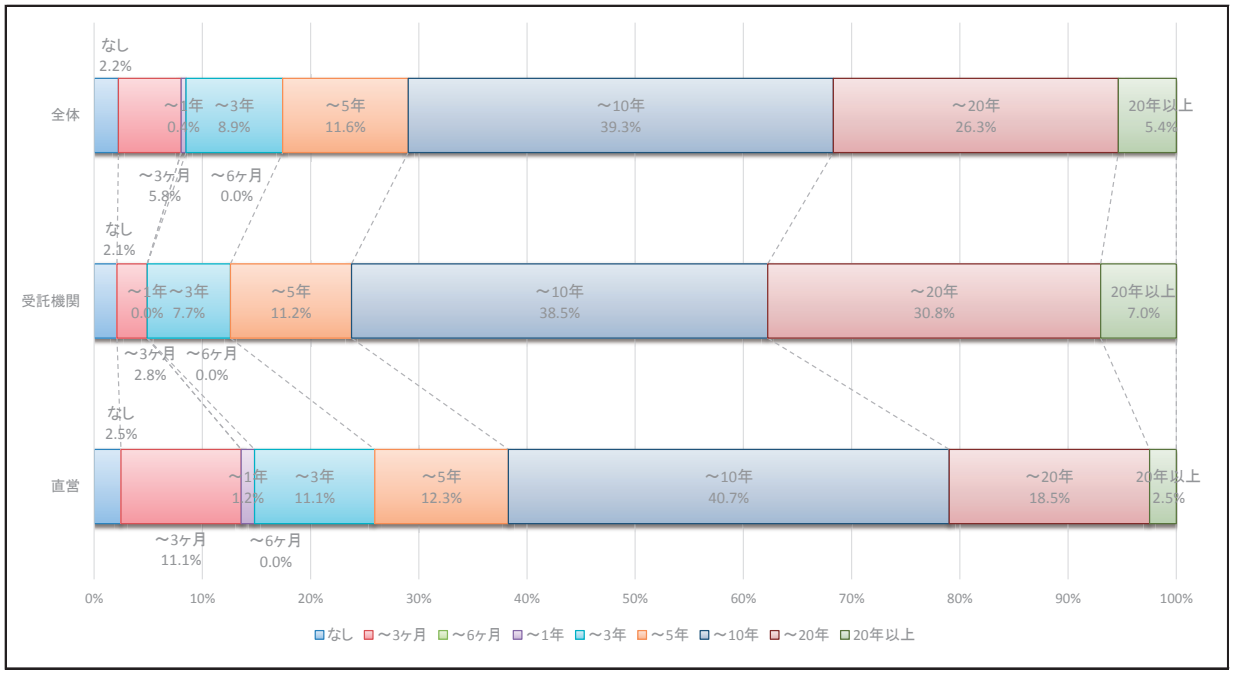


	全体	受託機関	直営
常勤	207	138	68
非常勤	17	5	13
計	224	143	81

平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の現職経験年数

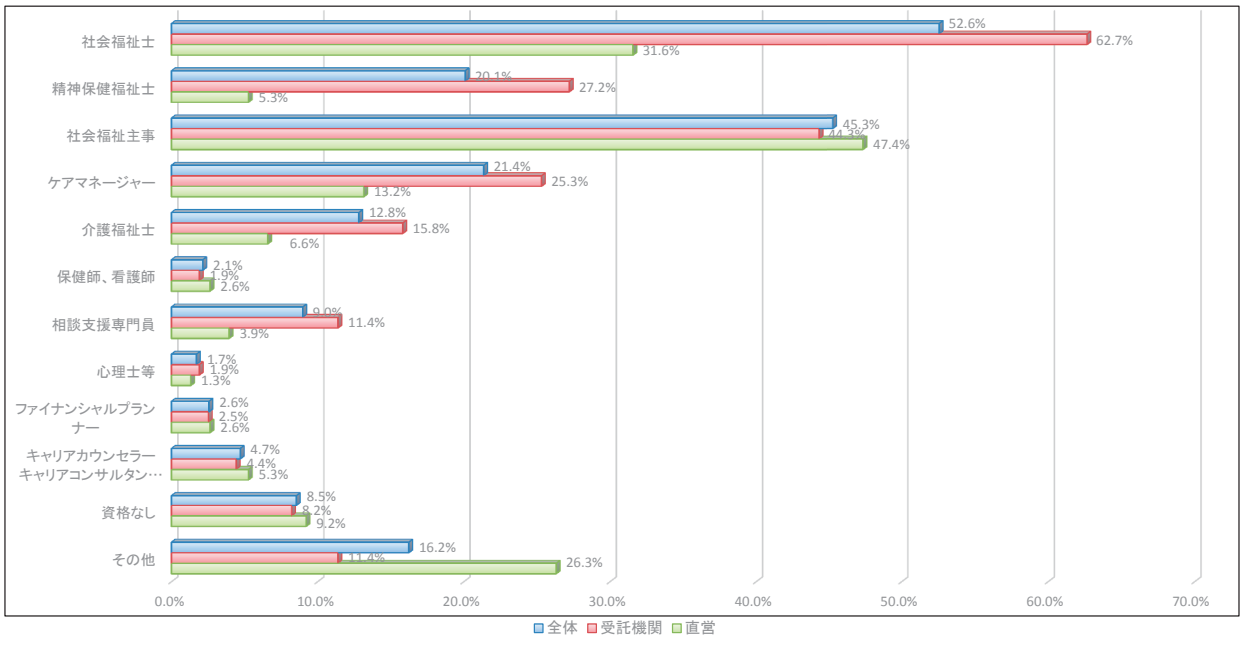


平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の相談就労支援通算経験年数



平成29年度 主任相談支援員養成研修　修了者の資格保有状況

【参考】主任相談支援員養成研修　受講者の資格保有状況



平成29年度

自立相談支援事業従事者養成研修

相談支援員養成研修
修了者属性傾向

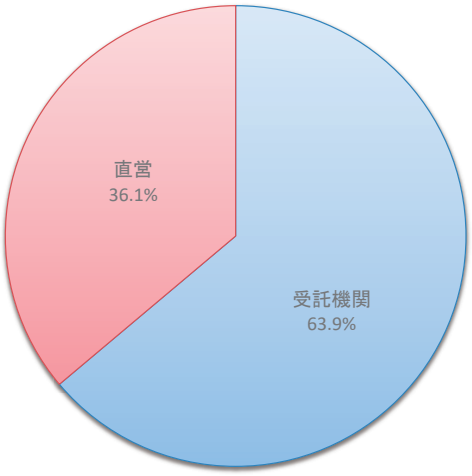
平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の割合

	人数
受託機関	274
直営	155
計	429

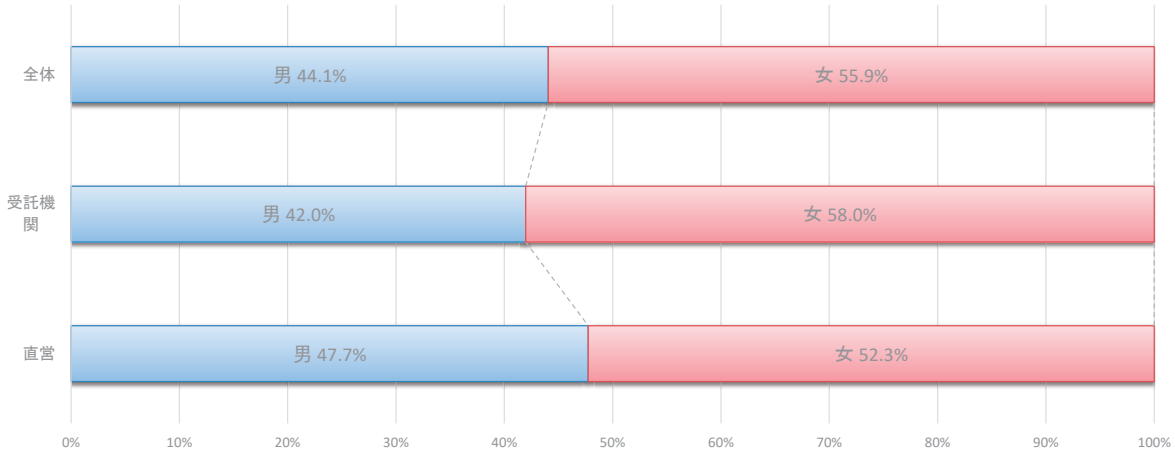
うち

前期免除者	37

※受託機関274のうち
社協は194（約70.8%）
となっている。

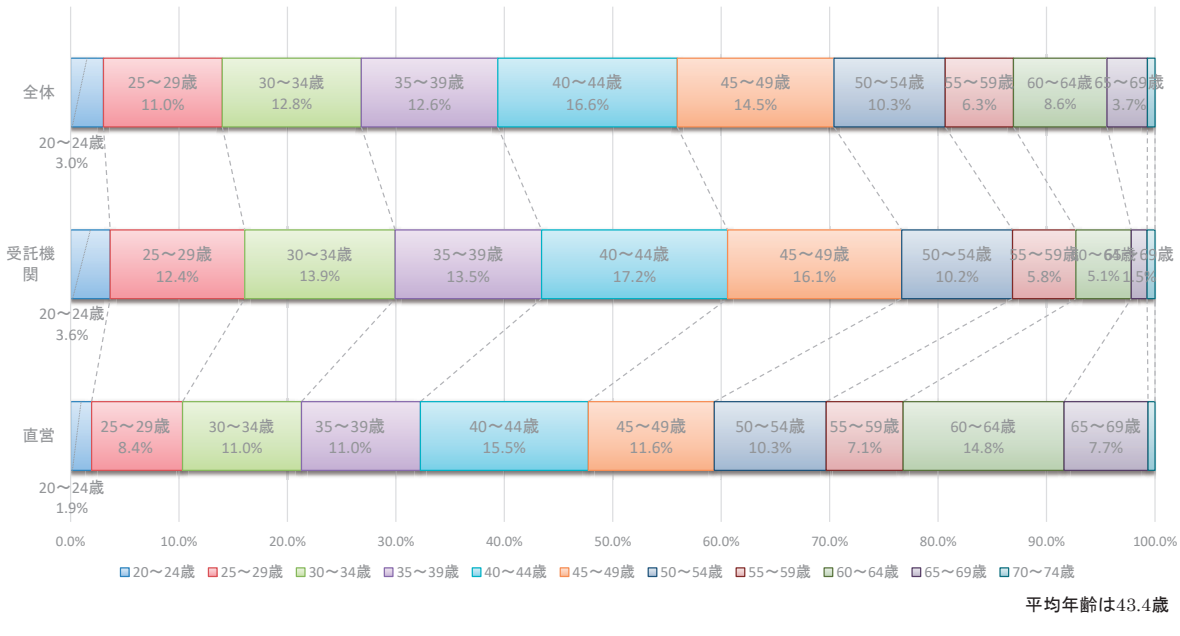


平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の男女比



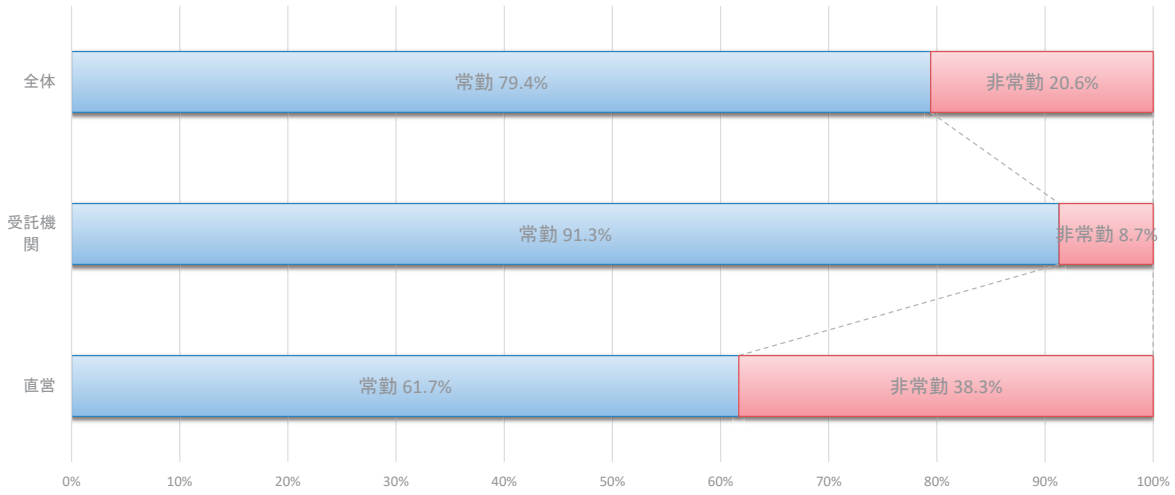
	全体	受託機関	直営
男	189	115	74
女	240	159	81
計	429	274	155

平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の年齢構成



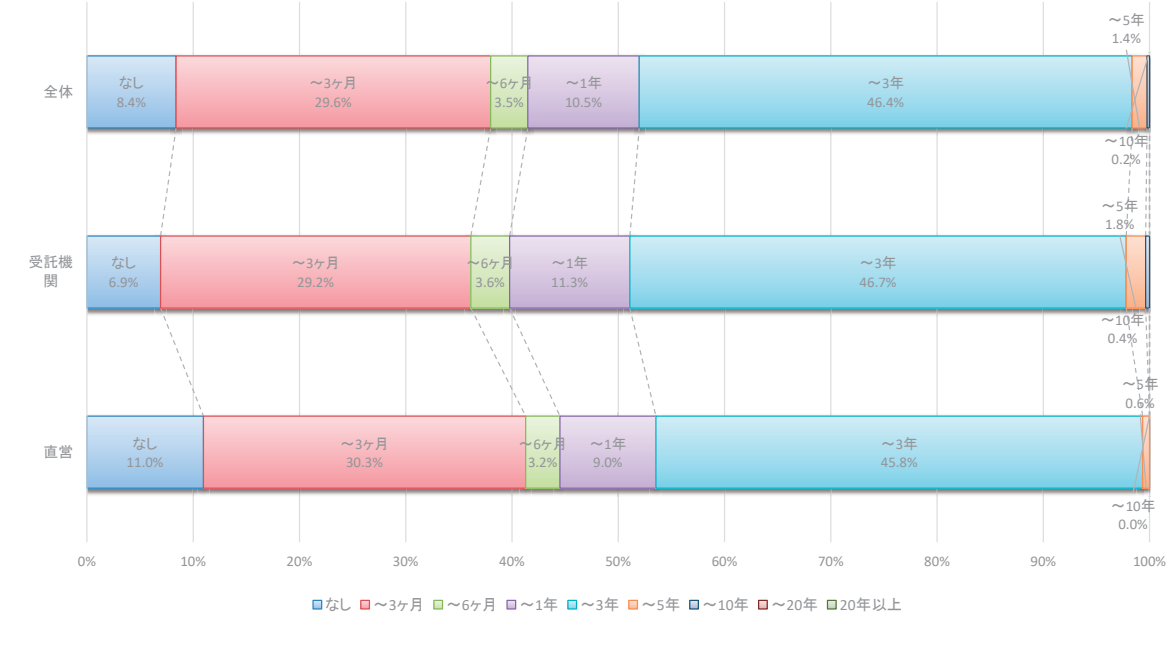
平均年齢は43.4歳

平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の勤務形態

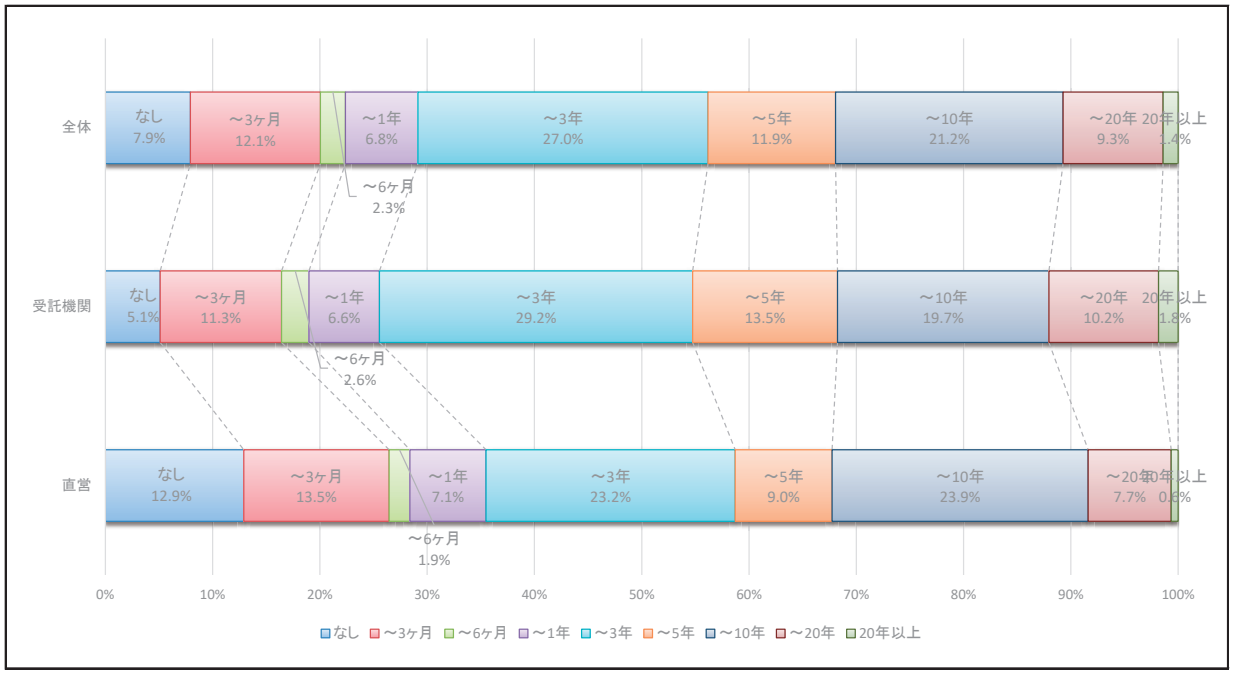


	全体	受託機関	直営
常勤	339	249	90
非常勤	90	25	65
計	429	274	155

平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の現職経験年数

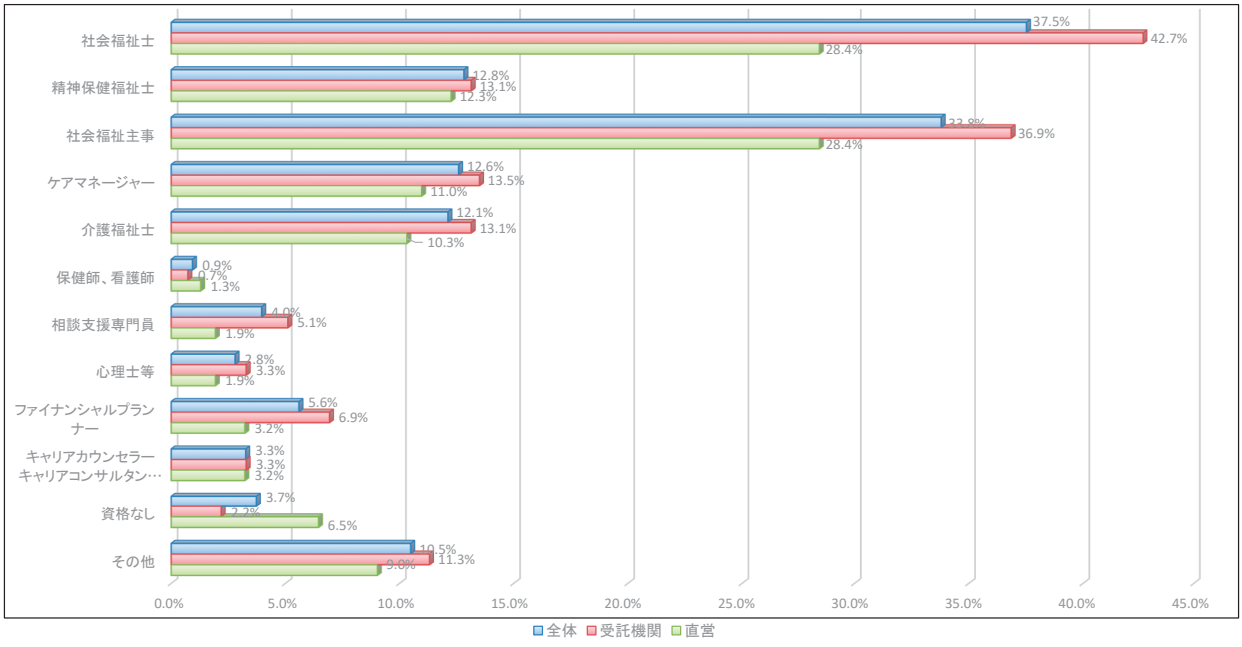


平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の相談就労支援通算経験年数



平成29年度 相談支援員養成研修　修了者の資格保有状況

【参考】主任相談支援員養成研修　受講者の資格保有状況

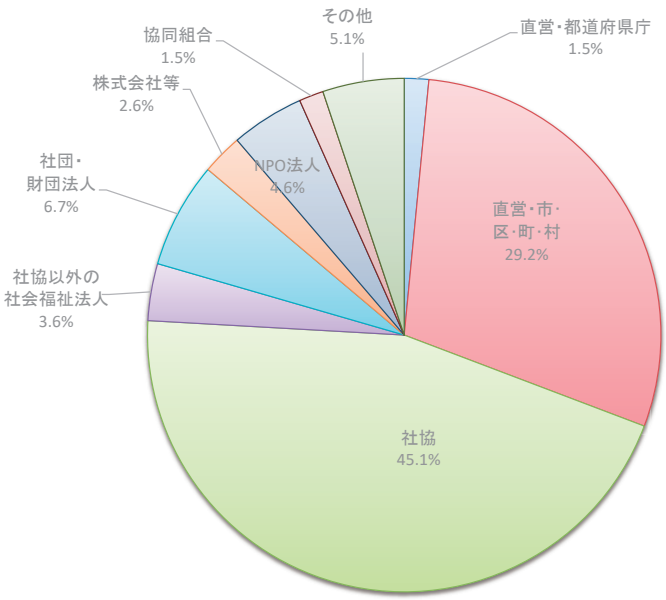


平成29年度
自立相談支援事業従事者養成研修

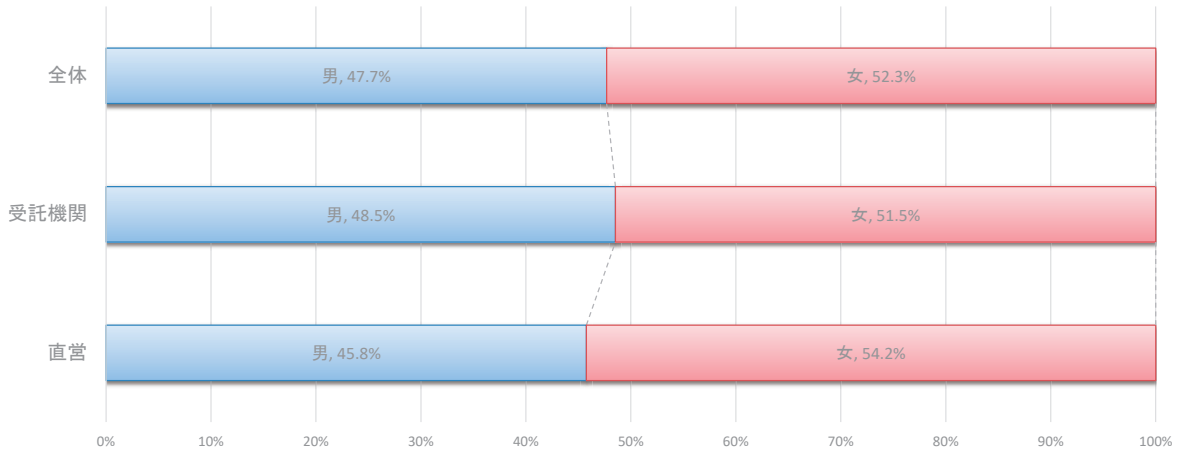
就労支援員養成研修
修了者属性傾向

平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の割合

	人数
直営・都道府県庁	3
直営・市・区・町・村	57
社協	88
社協以外の社会福祉法人	7
社団・財団法人	13
株式会社等	5
NPO法人	9
協同組合	3
その他	10
計	195

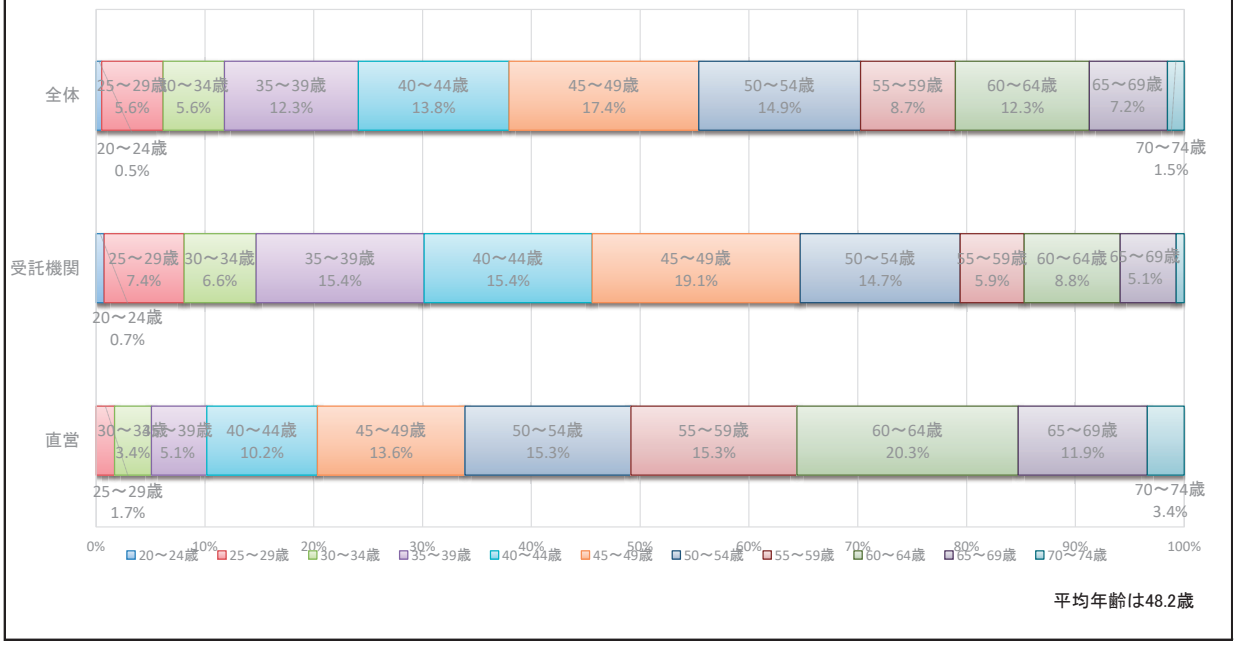


平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の男女比



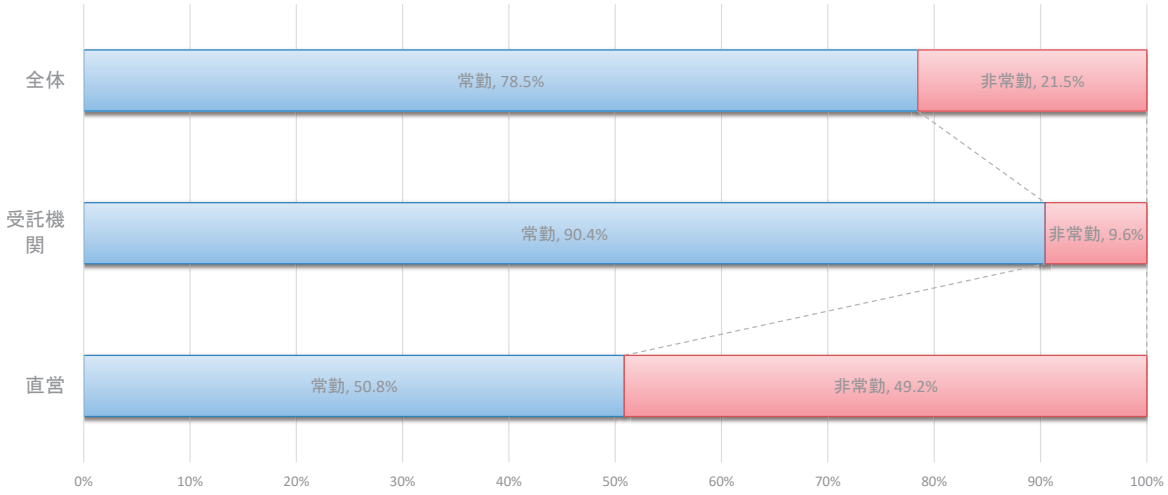
	全体	受託機関	直営
男	93	66	27
女	102	70	32
計	195	136	59

平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の年齢構成



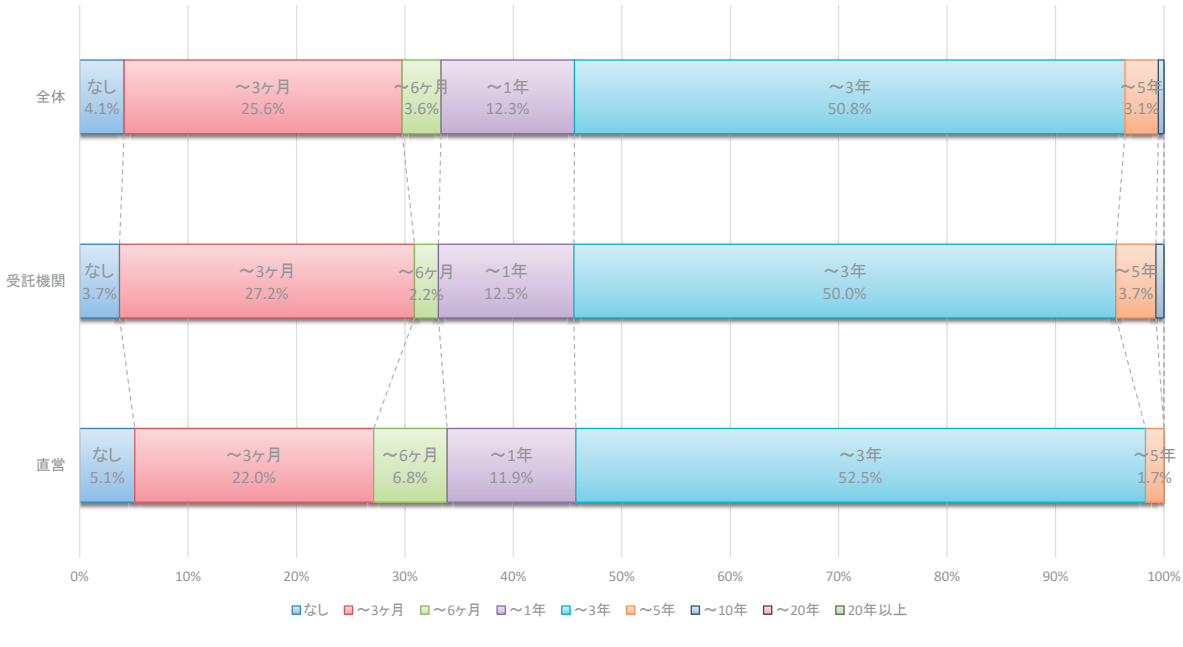
平均年齢は48.2歳

平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の勤務形態

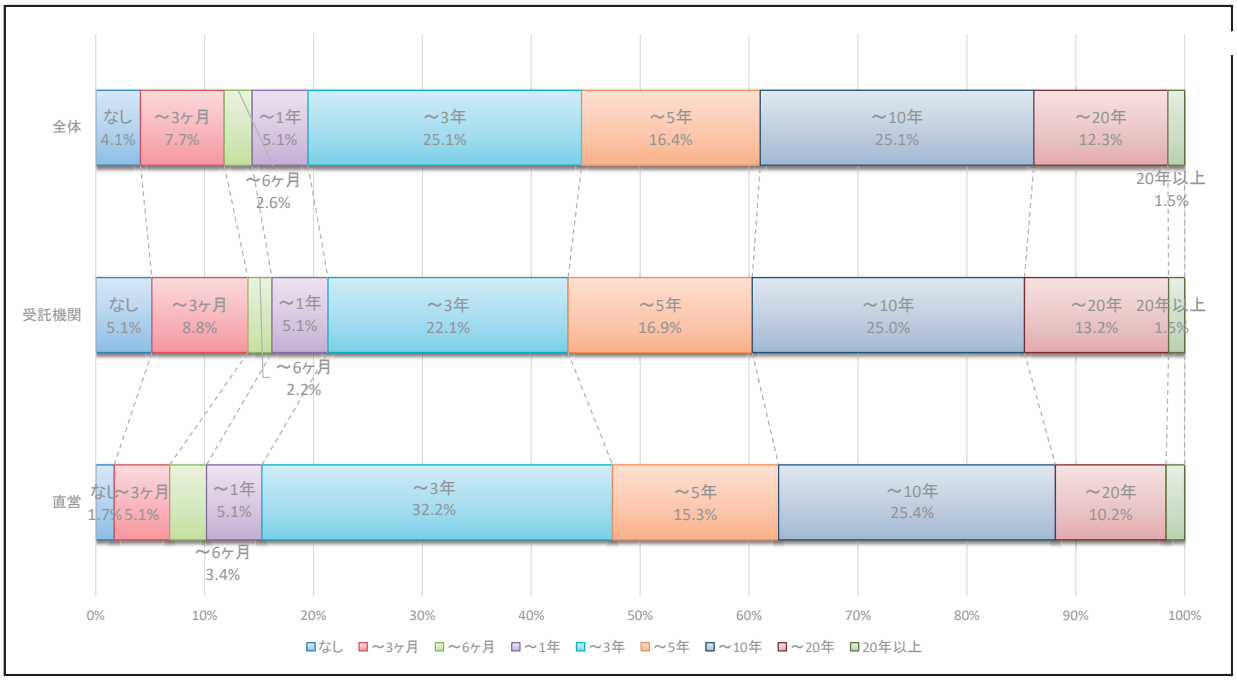


	全体	受託機関	直営
常勤	153	123	30
非常勤	42	13	29
計	195	136	59

平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の現職経験年数

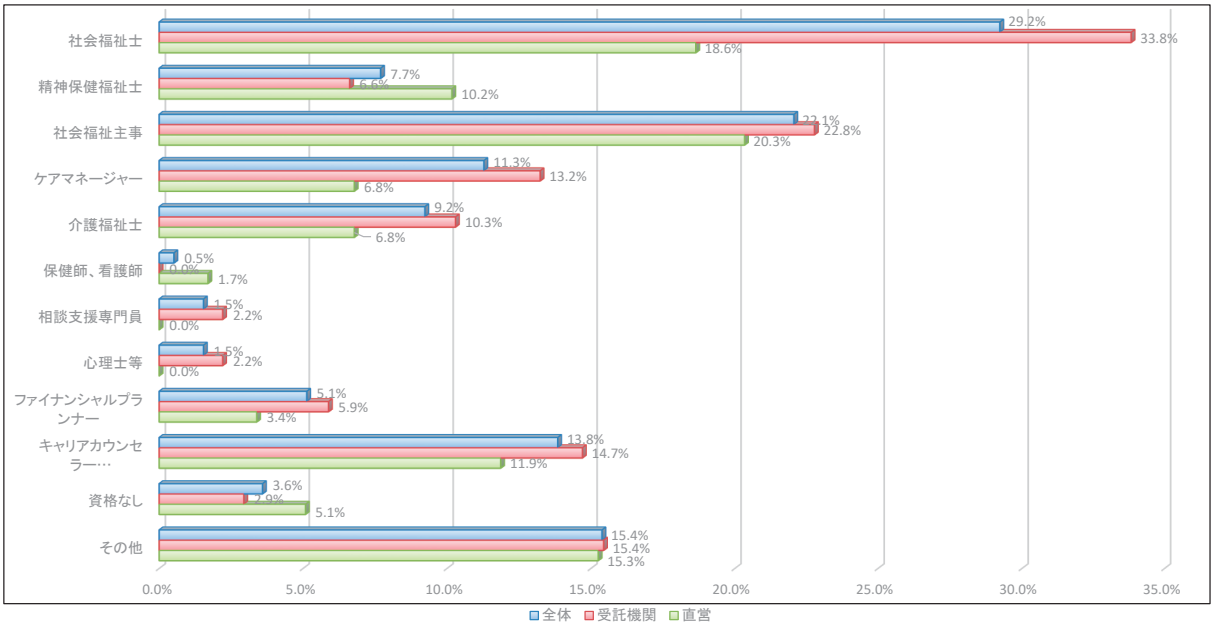


平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の就労支援通算経験年数



平成29年度 就労支援員養成研修　修了者の資格保有状況

【参考】主任相談支援員養成研修　受講者の資格保有状況

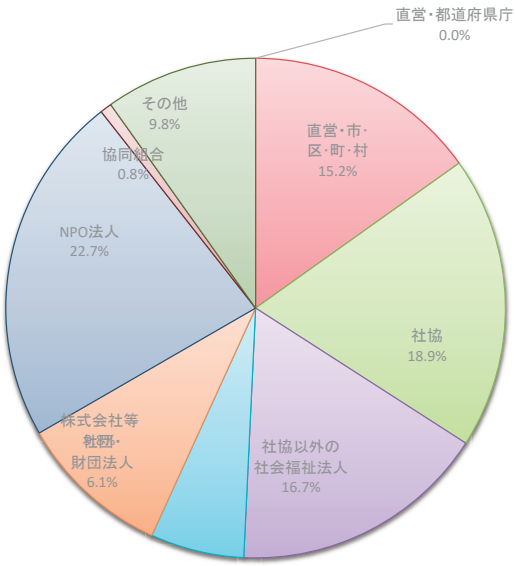


平成29年度
就労準備支援事業従事者養成研修

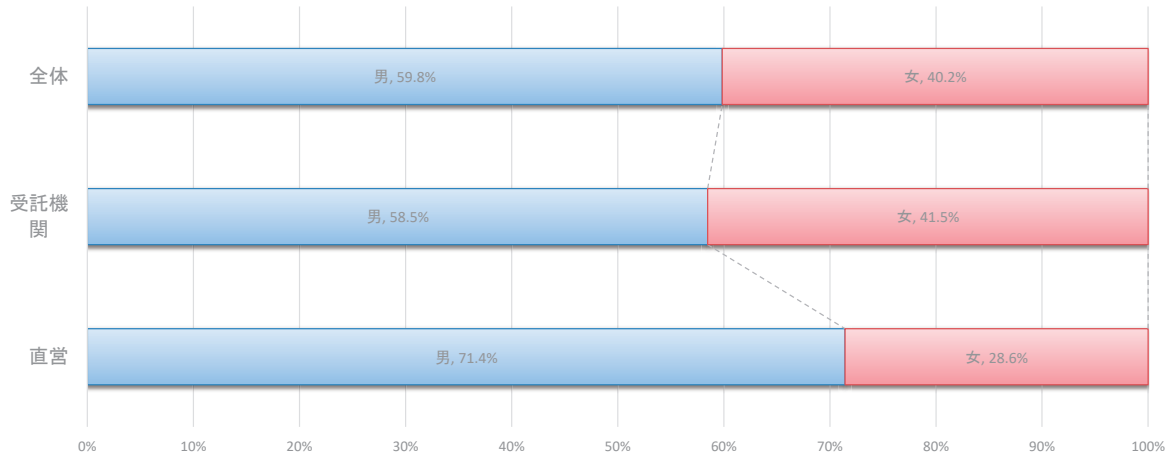
修了者の状況

平29 年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の割合

	人数
直営・都道府県庁	0
直営・市・区・町・村	20
社協	25
社協以外の社会福祉法人	22
社団・財団法人	8
株式会社等	13
NPO法人	30
協同組合	1
その他	13
計	132

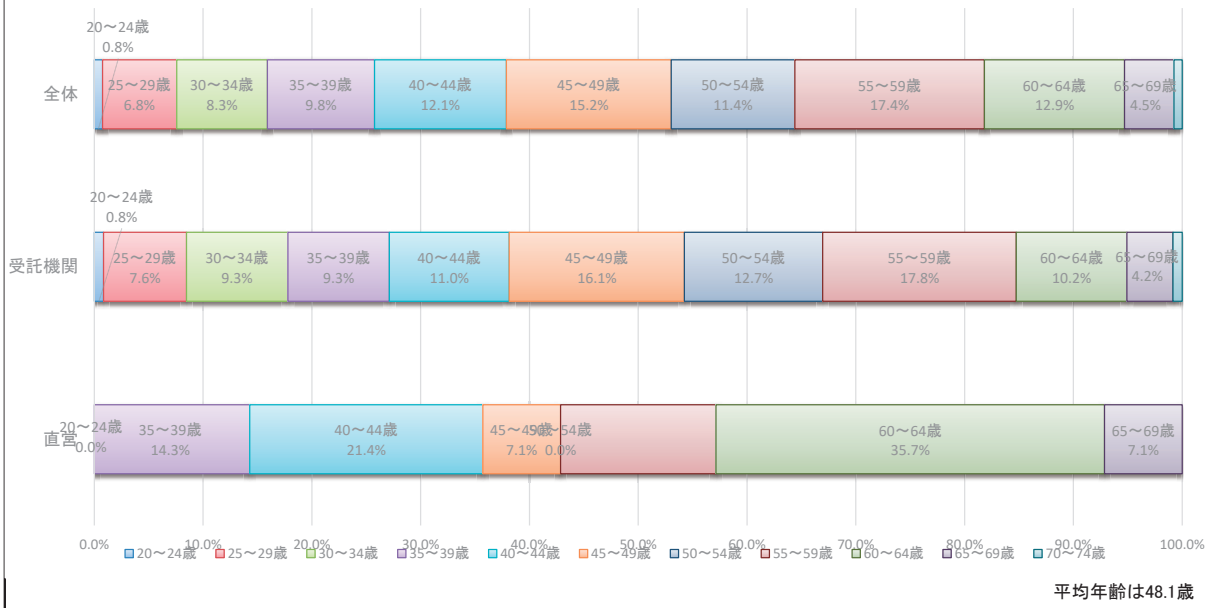


平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の男女比



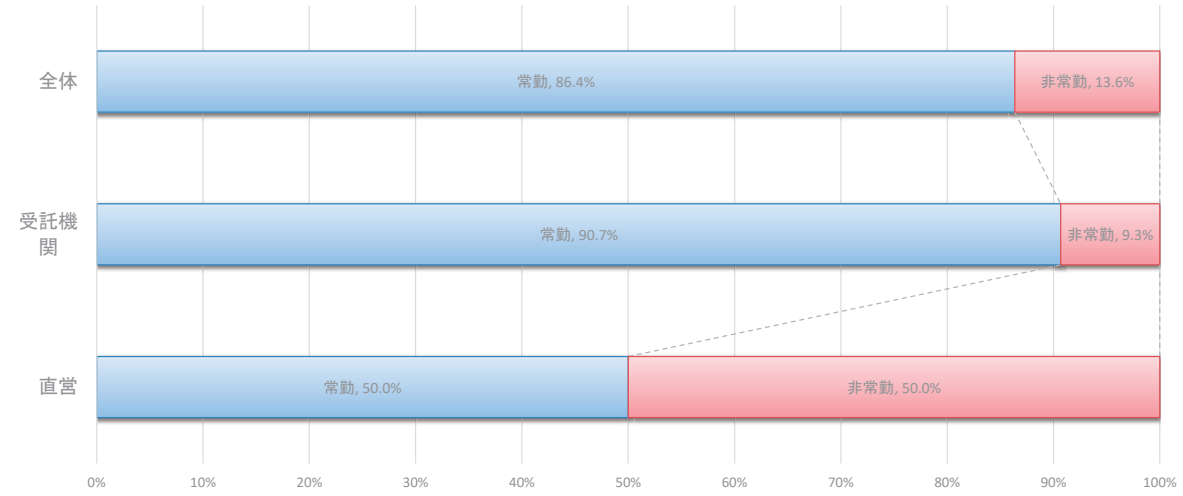
	全体	受託機関	直営
男	79	69	10
女	53	49	4
計	132	118	14

平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の年齢構成



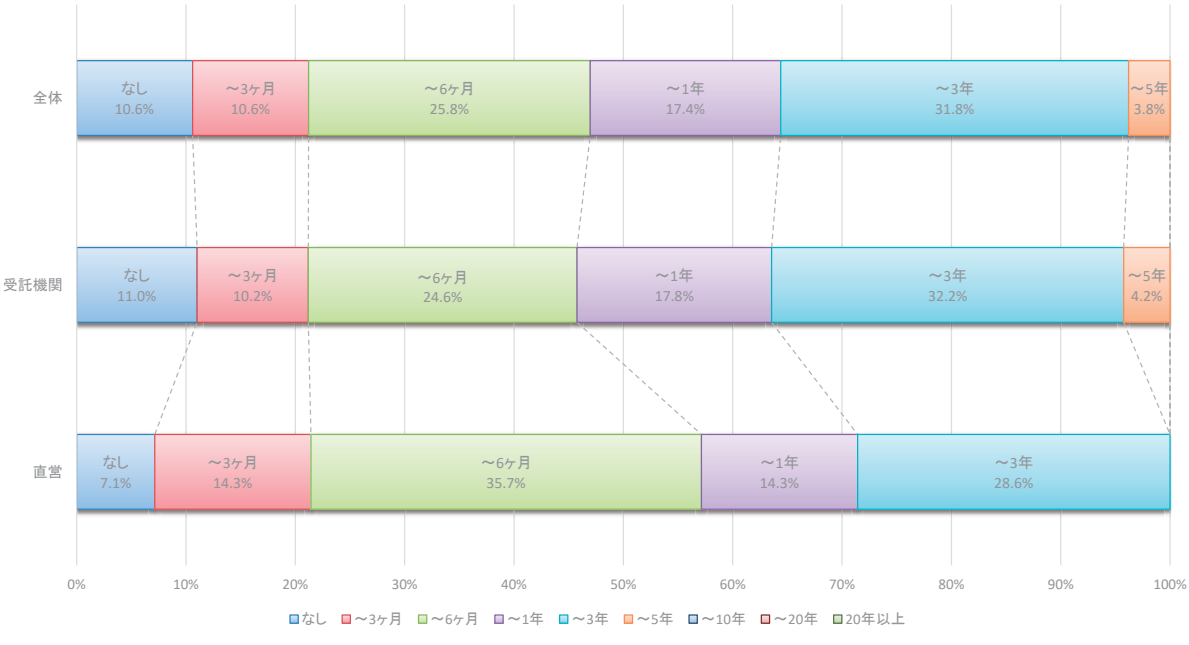
平均年齢は48.1歳

平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の勤務形態

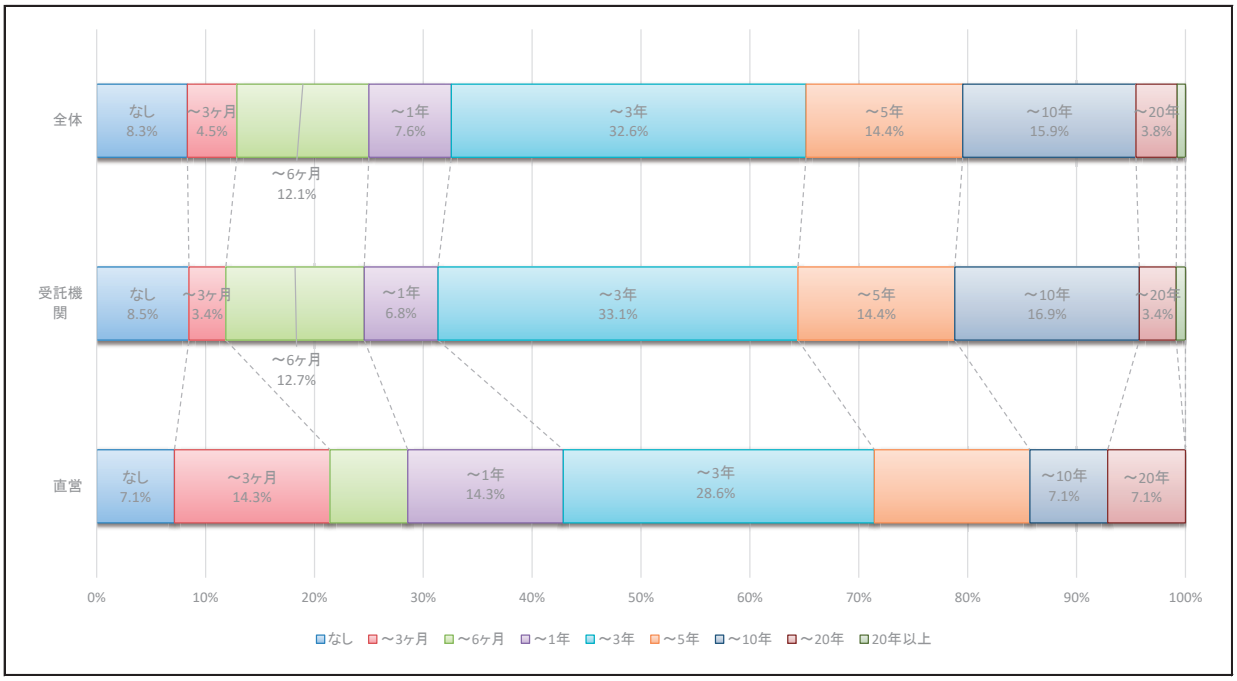


	全体	受託機関	直営
常勤	114	107	7
非常勤	18	11	7
計	132	118	14

平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の現職経験年数

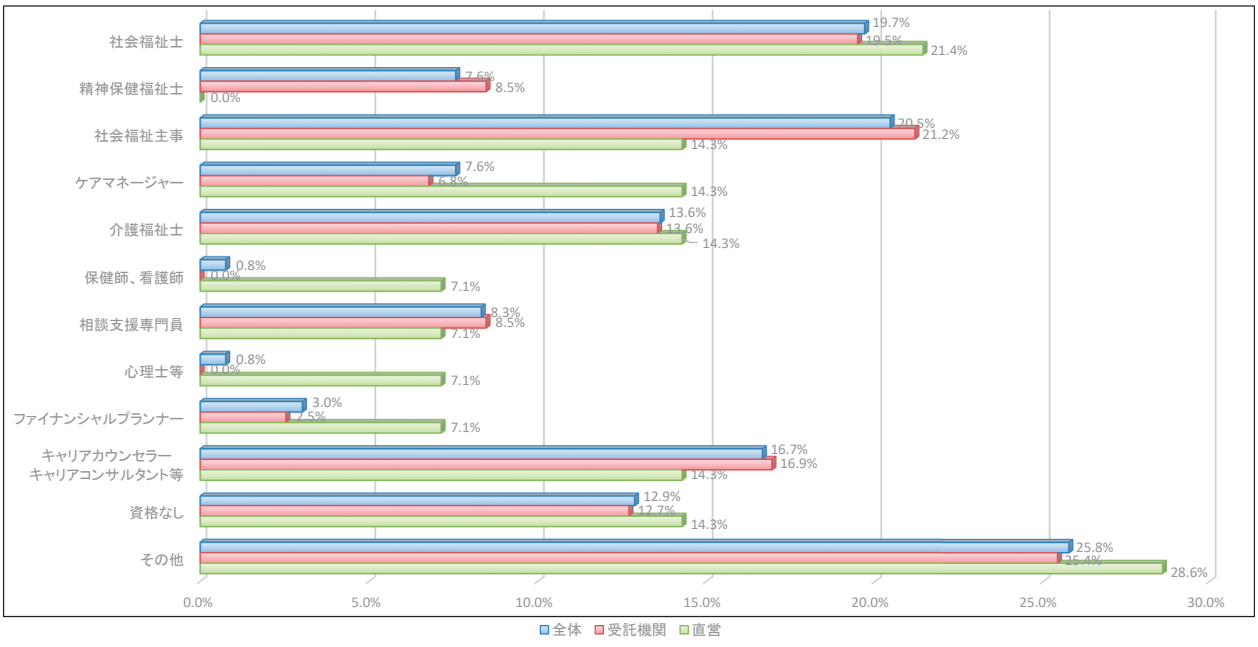


平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の就労支援通算経験年数



平成29年度 就労準備支援事業従事者養成研修　修了者の資格保有状況

【参考】主任相談支援員養成研修　受講者の資格保有状況



平成29年度

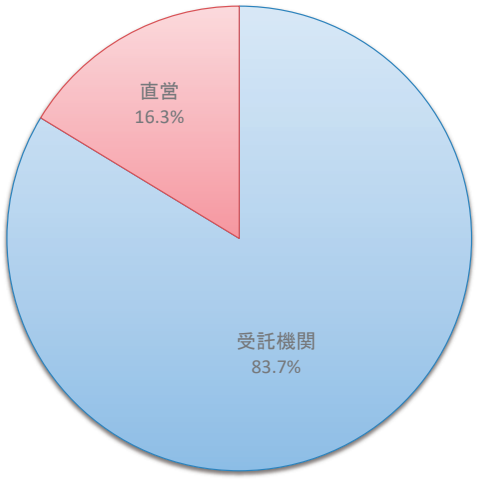
家計相談支援事業従事者養成研修【第1,2回】

修了者の傾向

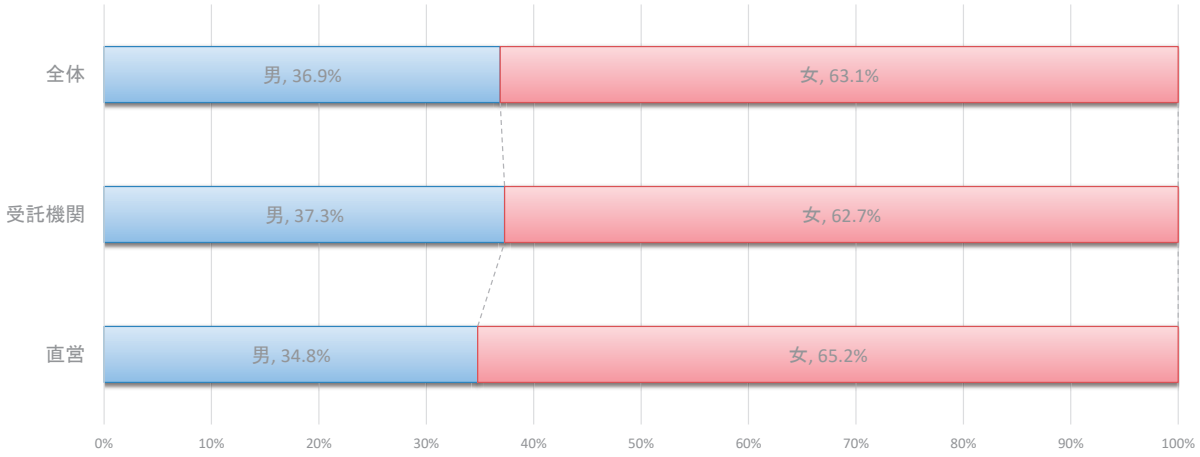
平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の割合

	人数
受託機関	118
直営	23
計	141

※受託機関118のうち社協は83(70.3%)となっている。

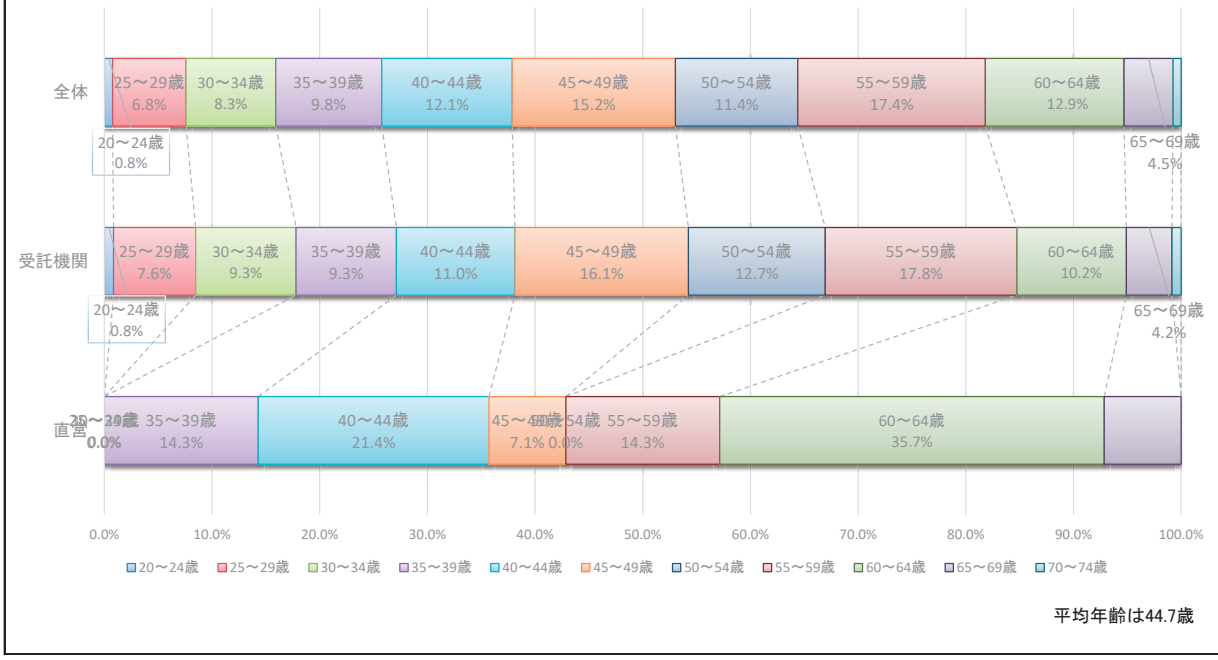


平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の男女比



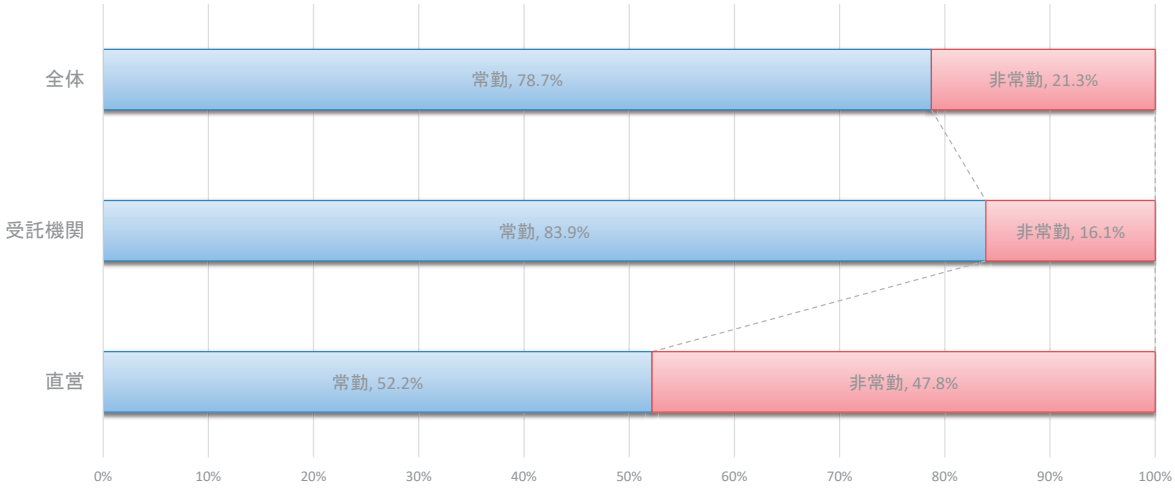
	全体	受託機関	直営
男	52	44	8
女	89	74	15
計	141	118	23

平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の年齢構成



平均年齢は44.7歳

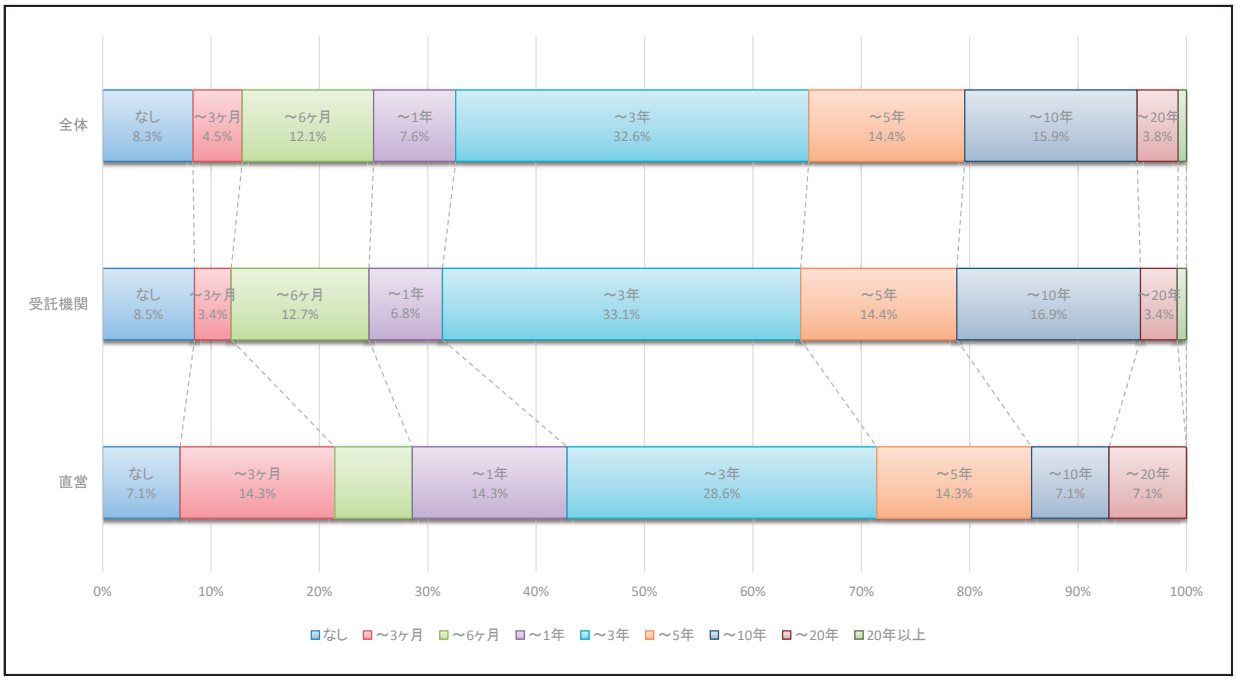
平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の勤務形態



	全体	受託機関	直営
常勤	111	99	12
非常勤	30	19	11
計	141	118	23

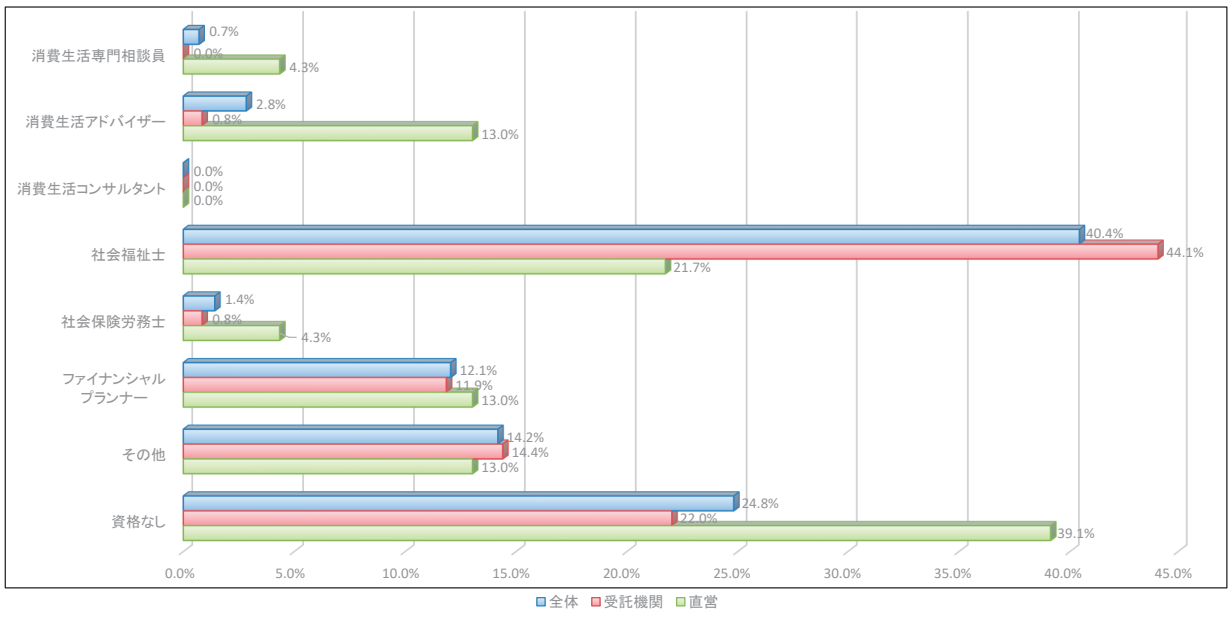
平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の現職経験年数

平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の家計相談支援通算経験年数

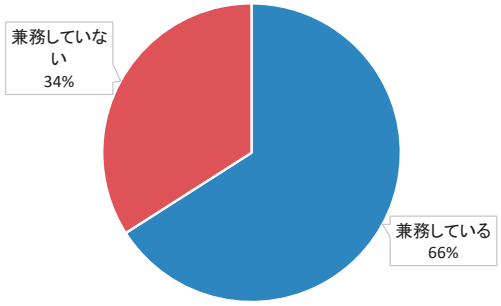


平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　修了者の資格保有状況

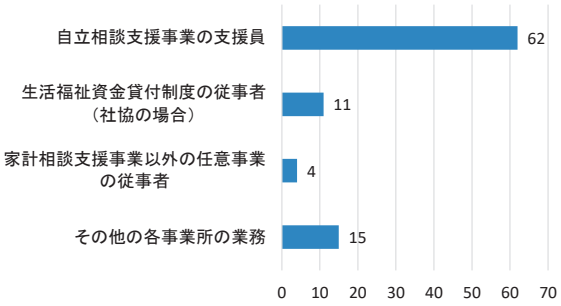
【参考】主任相談支援員養成研修　受講者の資格保有状況



平成29年度 家計相談支援事業従事者養成研修　兼務の状況



兼務の有無N=127



兼務の職種

第２章　研修内容の企画

１　企画委員会の概要

委員名簿

氏名(敬称略)	所属	役職	備考
企画・運営委員会			
朝比奈　ミカ	市川市生活サポートセンター そら（so-ra）	主任相談支援員	
奥田　知志	特定非営利活動法人 抱樸	理事長	
新保　美香	明治学院大学	教授	
髙橋　良太	全国社会福祉協議会 地域福祉部	部長	
谷口　仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	
原田　正樹	日本福祉大学	教授	
行岡　みち子	生活協同組合連合会グリーンコープ連合・共同体	常務理事・生活再生事業推進室長	
和田　敏明	ルーテル学院大学	名誉教授	委員長
自立相談支援研修企画部会　後期主任相談支援員研修チーム			
勝部　麗子	豊中市社会福祉協議会	地域福祉推進室長	
加留部 貴行	九州大学	客員准教授	
新保　美香	明治学院大学	教授	
原田　正樹	日本福祉大学	教授	部会長
和田　敏明	ルーテル学院大学	名誉教授	
自立相談支援研修企画部会　後期相談支援員研修チーム			
朝比奈　ミカ	市川市生活サポートセンター そら（so-ra）	主任相談支援員	部会長
上原　久	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり	所長	
空閑　浩人	同志社大学	教授	
長竹　教夫	文教学院大学	准教授	

自立相談支援研修企画部会　後期就労支援員研修チーム			
加留部　貴行	九州大学	客員准教授	
櫛部　武俊	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会	副代表	
新保　美香	明治学院大学	教授	部会長
谷口　仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	
名嘉　泰	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナル・サポート・センター	統括責任者	
西岡　正次	A'ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）	就労支援室長	
就労準備支援事業従事者養成研修　企画部会			
加留部　貴行	九州大学	客員准教授	
櫛部　武俊	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会	副代表	
新保　美香	明治学院大学	教授	
谷口　仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	部会長
名嘉　泰	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナル・サポート・センター	統括責任者	
家計相談支援事業従事者養成研修　企画部会			
北島　千恵	福岡県自立相談支援事務所（筑紫郡・糟屋郡） くらし・しごと・家計　困りごと相談室	家計相談支援員	
工藤　舞子	日本司法支援センター	弁護士	
細野　淳子	滋賀県・東近江市社会福祉協議会	相談支援課主幹	
行岡　みち子	生活協同組合連合会グリーンコープ連合・共同体	常務理事・生活再生事業推進室室長	
和田　敏明	ルーテル学院大学	名誉教授	部会長
都道府県研修に係る担当者研修　企画部会			
加留部　貴行	九州大学	客員准教授	部会長
新保　美香	明治学院大学	教授	

2　企画に係る委員会・部会の実施状況

	開催日時・場所	主な議題（◆出席者）
第 1 回 企画運営 委員会	平成 29 年 4 月 12 日（水） 10：00～12：00 全日通労働組合　8 階中会議室	1. 前年度研修の振り返り 2.【前期】共通カリキュラムの検討 3.【後期】相談支援員養成研修について ◆朝比奈氏・奥田氏・新保氏・高橋（良）・谷口氏・原田氏・行岡氏・和田氏・厚生労働省
担当者 企画部会	平成 29 年 4 月 22 日（土） 16：30～18：30 明治学院大学　白金校舎 ヘボン館 10 階 1010 号室　新保先生研究室	1. プログラムの企画検討について 2. 今後の進め方 ◆加留部氏・新保氏・厚生労働省
家計相談 企画部会	平成 29 年 4 月 24 日（月） 10：00～12：00 全社協　第 1 会議室	1. 家計相談支援事業従事者養成研修プログラムについて 2. 今後の進め方 3. その他 ◆北島氏・工藤氏・細野氏・行岡氏・和田氏・厚生労働省
主任相談 企画部会	平成 29 年 5 月 2 日（火） 15：00～17：00 全社協　第 7 会議室	1. 主任相談支援員養成研修プログラムについて 2. 今後の進め方 3. その他 ◆加留部氏・新保氏・原田氏・和田氏・厚生労働省
就労準備 企画部会	平成 29 年 6 月 19 日（月） 13：30～15：30 全社協　第 1 会議室	1.就労準備支援事業従事者養成研修プログラムについて 2.今後の進め方 3.その他 ◆櫛部氏・新保氏・谷口氏・名嘉氏・厚生労働省
相談支援 企画部会	平成 29 年 7 月 10 日（月） 15：00～17：00 全社協　第 7 会議室	1. 相談支援員養成研修プログラムについて 2. 今後の進め方 3. その他 ◆朝比奈氏・上原氏・長竹氏・厚生労働省
就労支援 企画部会	平成 29 年 9 月 29 日（金） 15：00～17：00 商工会館　7BC 会議室	1.就労支援員養成研修プログラムについて 2.今後の進め方 3.その他 ◆櫛部氏・新保氏・谷口氏・名嘉氏・西岡氏・厚生労働省

3　個別打合せの実施状況

開催日時・場所	主な議題（◆出席者）
【前期】共通カリキュラム	
平成 29 年 5 月 9 日（火） 13：30～15：30 全社協　第 7 第会議室	(1) 前期共通カリキュラム　相談支援の展開と視点（講義と演習⑧）について (2) その他 ◆朝比奈氏・上原氏・小林氏・長竹氏・松本氏・八木氏・厚生労働省
平成 29 年 5 月 18 日（木） 13：00～15：00 日本福祉大学　美浜キャンパス	(1) 前期共通カリキュラム　生活困窮者支援に必要と考えられる視点（講義と演習⑥）について ◆原田氏・山口氏・厚生労働省
平成 28 年 5 月 19 日（金） 13：30～15：30 全社協　4 階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	(1) 前期共通カリキュラム　就労支援の考え方と実施方法（講義と演習⑦）について ◆新保氏・野々村氏・渡辺氏・厚生労働省
平成 29 年 6 月 2 日（金） 13：30～15：30 商工会館　7B 会議室	(1) 前期共通カリキュラム　相談支援の展開と視点（講義と演習⑧）について (2) その他 ◆朝比奈氏・上原氏・小林氏・長竹氏・松本氏・八木氏・厚生労働省
【後期】主任相談支援員養成研修	
平成 29 年 6 月 9 日（金） 15：00～17：00 全社協　第 7 会議室	(1) 後期主任カリキュラム　支援困難事例の検討（講義と演習④）について ◆上原氏・新保氏・松本氏・厚生労働省
平成 29 年 7 月 4 日（月） 13：00～14：00 全社協　3 階会議室	(1) 後期主任カリキュラム　支援困難事例の検討（講義と演習④）について ◆加留部氏・新保氏
平成 29 年 7 月 10 日（月） 13：30～15：00 全社協　第 7 会議室	(1) 後期主任カリキュラムアセスメント・プラン作成（講義と演習⑤）について ◆朝比奈氏・上原氏・松本氏
平成 29 年 10 月 19 日（木） 18：30～19：30 中央福祉学院	(1) 平成 29 年度　後期主任カリキュラムの振り返りについて ◆朝比奈氏・上原氏・新保氏・松本氏
【後期】相談支援員養成研修	
平成 29 年 6 月 12 日（月） 13：00～16：00 商工会館　7D 会議室	(1) 後期相談カリキュラム　多機関との連携のあり方（講義と演習③）について ◆上原氏・小林氏・長竹氏・森氏
平成 29 年 6 月 19 日（金） 10：00～12：00 全社協　第 2 会議室	(1) 後期相談カリキュラム　多機関との連携のあり方（講義と演習③）について ◆上原氏・小林氏・長竹氏・森氏

平成 29 年 8 月 2 日(水) 9:30～11:30 全社協　3 階会議室	(1) 後期相談カリキュラム　相談支援の展開(講義と演習⑥)について ◆朝比奈氏・上原氏・空閑氏・長竹氏・松本氏
平成 29 年 8 月 21 日(月) 14:00～16:00 全社協　4 階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	(1)　後期相談カリキュラム　アウトリーチの考え方(講義と演習②)について ◆中間氏・厚生労働省
【後期】就労支援員養成研修	
平成 29 年 10 月 17 日(火) 11:30～12:30 全社協　4 階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	(1)　後期就労カリキュラム　就労支援における出口づくり、出口支援　(講義と演習⑧、⑨)について ◆新保氏・厚生労働省
平成 29 年 10 月 30 日(月) 13:00～16:00 全社協　4 階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	(1)　後期就労カリキュラム　支援関係の構築(講義と演習⑦)、就労支援における出口づくり、出口支援(講義と演習⑧、⑨)について ◆名嘉氏・野々村氏・渡辺氏・厚生労働省
就労準備支援事業従事者養成研修	
平成 29 年 7 月 28 日(金) 13:00～15:00 厚生労働省　地域福祉課	(1)就労準備支援事業従事者養成研修　対象者の特性理解(1)(講義⑥)について (2)その他 ◆田中氏・厚生労働省

第３章　研修内容の詳細

1【前期】共通カリキュラム　養成研修

≪【前期】共通カリキュラム　プログラムシート≫

■期日

【第１回】7 月 4 日（火）～6 日（木）

【第 2 回】7 月 31 日（月）～8 月 2 日（水）

【第 3 回】9 月 5 日（火）～7 日（木）

■研修の目標

①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、③伝達できる（講師になれる）

■各科目の内容について

◆科目：生活困窮者支援の基本的考え方（研修 60 分）

日時：第 1 回目＜1 日目＞7/4（火）9：30～10：30

第 2 回目＜1 日目＞7/31（月）9：30～10：30

第 3 回目＜1 日目＞9/5（火）9：30～10：30

登壇者：厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室　室長　本後　健　氏

講義のポイント：制度の動向と、これから目指す姿について

◆科目：他制度の活用・連携（研修 90 分）

日時：第 1 回目＜1 日目＞7/4（火）10：40～12：10

第 2 回目＜1 日目＞7/31（月）10：40～12：10

第 3 回目＜1 日目＞9/5（火）10：40～12：10

登壇者：厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室

生活困窮者対策官　　菊地　英人 氏

野洲市役所 市民生活相談課　課長補佐　生水 裕美 氏

講義のポイント：各種制度の減免・給付制度の活用の実際、医療、介護、障害、年金、住居に関する制度との連携について

※事例を用いて解説。

◆科目：住まい確保のための支援について（研修 50 分）

日時：第 1 回目＜1 日目＞7/4（火）13：10～14：00

第 2 回目＜1 日目＞7/31（月）13：10～14：00

第 3 回目＜1 日目＞9/5（火）13：10～14：00

登壇者：厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室　室長補佐

渡邊　由美子氏(第 1 回)

厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室　室長補佐

進士　順和　氏(第 2.3 回)

厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室　主査

梅本　政隆　氏(第 1.2.3 回)

講義のポイント：居住支援について　※地域との連携について事例を用いて解説。

◆科目：支援員に求められる倫理・基本姿勢を支える人材育成と職場づくり（研修 210 分+休憩 15 分）

日時：第 1 回目＜1 日目＞7/4（火）14：10～17：55
　　第 2 回目＜1 日目＞7/31（月）14：10～17：55
　　第 3 回目＜1 日目＞9/5（火）14：10～17：55

登壇者：明治学院大学　教授　新保 美香 氏
　　九州大学 客員准教授　加留部 貴行 氏

講義のポイント：①3 つの基本倫理と 8 つの基本姿勢について演習を用いて説明【新保先生】
　　②より良い職場づくり、チームづくりについて【新保先生・加留部先生】
　　③職場や都道府県研修での伝達方法について（動機づけ）【加留部先生】

進行：

進行時刻	内容
14:10～15:10	１．新保先生の講義（60 分） ・講義の導入で自己紹介フリップを活用する
15:10～15:25	【休憩(15 分)】
15:25～17:55 終了	２．加留部先生の講義（150 分） ・途中で小休憩を入れる予定

◆科目：生活困窮者支援を通じた地域づくり（研修 165 分+休憩 15 分）

日時：第 1 回目＜2 日目＞7/5（水） 9：00～12：00
　　第 2 回目＜2 日目＞8/1（火） 9：00～12：00
　　第 3 回目＜2 日目＞9/ 6（水）9：00～12：00

登壇者：【講師】ルーテル学院大学　和田　敏明氏
　　【コメンテーター】豊中市社会福祉協議会　勝部 麗子　氏
　　釧路社会的企業創造協議会　櫛部 武俊　氏
　　【修了者】兵庫県宍粟市福祉事務所社会福祉課　生活福祉係　大塚　正雄　氏

学びのポイント：①生活困窮者支援を通じた地域づくりに関する概念や課題解決の糸口を学ぶ。
　　②先駆者の報告だけでなく、受講者と近い立場にある修了者の方にご報告いただくことで、自分が取り組むことができる地域づくりの具体的なイメージを持っていただく。

進行：

進行時刻	内容
9:00～9:20	１．講師（和田先生）によるプログラムの趣旨説明・講義（20 分）
9:20～9:50	２．修了者（大塚氏）の報告（30 分） ①修了者の報告（15 分） ②報告に対して、和田先生から参考になる点や疑問点等についてインタビュー（10 分） ③和田先生のまとめ（5 分）
9:50～10:05	【休憩(15 分)】
10:05～11:45	３．実践者（①勝部氏、②櫛部氏）の報告（105 分）
①　勝部氏	勝部　氏
10:05～10:38	①実践者 1 人の報告（勝部氏から）（15 分） ②報告に対して、講師から参考になる点や疑問点等についてインタビュー（15 分） ※受講者は①報告、②インタビューを聞きながら、付箋に「参考になったこと」、「報告者に質問したいこと」をメモする。 ③個人ワークで上記を整理し付箋に記入する（3 分）
②　櫛部氏	櫛部　氏
10:38～11:11	①　実践者 1 人の報告（櫛部氏）（15 分） ②報告に対して、講師から参考になる点や疑問点等についてインタビュー（15 分） ※受講者は①報告、②インタビューを聞きながら、付箋に「参考になったこと」、「報告者に質問したいこと」をメモする。 ③　個人ワークで上記を整理し付箋に記入する（3 分） ④　大塚　氏　への質問もあれば　記入する
11:11～11:20	①　同じ机 3 人で付箋の内容を共有（9 分）
11:20～11：50	②　会場からの質問を受ける（10 分） ③実践者、講師それぞれからまとめのコメント（20 分） 付箋は回収しない。
11:50～12:00	４．講師（和田先生）によるプログラムのまとめ（10 分）

◆科目：生活困窮者支援に必要と考えられる視点（１）

―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―（研修 275 分＋休憩 30 分）

日時：第 1 回目＜2 日目＞7/5（水） 13：00～18：05
第 2 回目＜2 日目＞8/1（火） 13：00～18：05
第 3 回目＜2 日目＞9/ 6（水） 13：00～18：05

登壇者：【講師】日本福祉大学　原田　正樹氏
【実践者】生駒市福祉部　福祉健康部　地域包括ケア推進課　課長　田中　明美　氏
有限会社 SNOW DREAM　代表　山口　久美　氏
一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長　遠藤 智子 氏
神奈川県立田奈高等学校　教諭　金澤 信之 氏

学びのポイント：対象者の特性に合った支援のあり方について学ぶ
テーマ①　精神障害者への支援（田中氏）
テーマ②　発達障害者への支援（山口氏）
テーマ③　ＤＶ被害者への支援（遠藤氏）
テーマ④　若者支援（金澤氏）

進行：

進行時刻	内容
13:00～13:05	原田先生　講義の目的等について説明（5 分）
13:05～13：35	報告①　精神障害者支援（田中氏）（30 分）
13:35～13:55	原田先生から報告者にインタビュー(20 分)
13:55～14:05	受講者が机 3 人でバズセッション（10 分）
14:05～14:10	「青（参考になった点)」と「ピンク（課題)」のカードを作って、話し合う。 全体としての質問や共有（5 分）
14:10～14:20	【休憩（10 分)】
14:20～14:50	報告②　発達障害者支援（山口氏）（30 分）
14:50～15:10	原田先生から報告者にインタビュー(20 分)
15:10～15:20	受講者が机 3 人でバズセッション（10 分） 「青（参考になった点)」と「ピンク（課題)」のカードを作って、話し合う。
15:20～15:25	全体としての質問や共有（5 分）
15:25～15:35	【休憩（10 分)】
15:35～16:05	報告③　DV 被害（遠藤氏）（30 分）
16:05～16:25	原田先生から報告者にインタビュー(20 分)
16:25～16:35	受講者が机 3 人でバズセッション（10 分）

進行時刻	内容
	「青（参考になった点)」と「ピンク（課題)」のカードを作って、話し合う。
16:35～16:40	全体としての質問や共有（5 分休憩）
16:40～16:50	【休憩（10 分)】
16:50～17:20	報告④　若者支援（金澤氏）（30 分）
17:20～17:40	原田先生から報告者にインタビュー(20 分)
17:40～17:50	受講者が机 3 人でバズセッション（10 分）
17:50～17:55	「青（参考になった点)」と「ピンク（課題)」のカードを作って、話し合う。
	全体としての質問や共有（5 分）
17:55～18:05	まとめ　原田先生

◆科目：就労支援の考え方と実施方法（研修 180 分+休憩 15 分）

日時：第 1 回目 ＜3 日目＞ 7/6（木）9：00～12：15

第 2 回目 ＜3 日目＞ 8/2（水）9：00～12：15

第 3 回目 ＜3 日目＞ 9/7（木）9：00～16：15

登壇者：【講師】明治学院大学　教授　新保 美香 氏

【実践者】草の根ささえあいプロジェクト　渡辺 ゆりか 氏

東近江圏域働き・暮らし応援センター　野々村　光子氏

学びのポイント：①就労支援の基本的な考え方について、テキスト 6 章第 1 節を中心に学ぶ

②実践者から基本的な考え方と実践方法について学ぶ

進行：

進行時刻	内容
9:00～9:50	１．講師（新保先生）によるプログラムの趣旨説明・講義（50 分）【基礎編】
9:50～10:00	２．実践者の紹介（計 10 分）【実践編】
	①新保先生から、実践編について趣旨説明（2 分）
	②渡辺氏の自己紹介（3 分程度）
	③野々村氏の自己紹介（3 分程度）
10:00～10:15	【休憩（15 分)】
10:15～11:05	３．渡辺氏の講義（計 50 分）
	①渡辺氏の講義（40 分）
	⇒就労支援で大切にしていること（10 分）
	※渡辺氏の「就労支援３カ条」をふまえてお話
	実践報告（30 分）
	②参加者バズセッション（5 分）
	③補足説明（5 分）

11:05～11:55	４．野々村氏の講義（計 50 分） ①野々村氏の講義（40 分） ⇒就労支援で大切にしていること（10 分） ※野々村氏の「就労支援３カ条」をふまえてお話ください。 実践報告（30 分） ②参加者バズセッション（5 分） ③補足説明（5 分）
11:55～12：15	５．まとめ（20 分） 渡辺氏、野々村氏の発表のなかで共通するエッセンスを共有する。

◆科目：相談支援の展開と視点（研修 160 分+休憩 15 分）

日時：第 1 回目＜3 日目＞7/6（木）13：15～16：10
第 2 回目＜3 日目＞8/2（水）13：15～16：10
第 3 回目＜3 日目＞9/7（木）13：15～16：10

登壇者：福島県立医科大学　放射線医学県民健康管理センター　特任准教授　八木　亜紀子氏(第 1 回)
市川市サポートセンターそら(so-ra)主任相談支援員　朝比奈 ミカ氏(第 1.2.3 回)
社会福祉法人聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター 所長　上原 久氏(第 1.2.3 回)
我孫子市役所健康福祉部社会福祉課　主査　松本　拓馬氏(第 1.2.3 回)

講義のポイント：①相談支援の展開について基本的な流れ、構図を理解する。
②実践（事例）を通して支援の視点を理解する。
③本事業における終結を理解する。

資料構成：

① 全体説明 PPT
② 事例 1～2
③ 事例３
④ 事例３ワーク用アセスメントシート
⑤ みずほ報告書（表紙、44 ページと 64～65 ページのみ。帳票は含めず。）
⑥ 事例４
⑦ 日本総研　相談員ハンドブック（Q14 のみ）

進行：

進行時刻	内容
13:15～13：25 （10 分）	１．導入 ・本プログラムのねらいの説明（→事例を通じて学んでいくことを説明） ・相談支援のプロセス
13:25～13:32 (7 分)	２．事例１検討（把握・アウトリーチ・相談受付） ・事例の読み上げ、共有、
13:32～13:40 （8 分）	３．事例２検討（アセスメント・プラン作成（支援調整会議）） ・事例の読み上げ、共有
13:40～15:00 （80 分）	４．事例３検討・ワーク（支援の実施・モニタリング（再アセスメント）） ・事例の読み上げ、共有、（資料③） （ワーク）帳票の記入（課題の背景要因等）（45 分間）、グループからの報告、解説
15:55～15:15 （15 分）	【休憩（15 分）】
15:15～16:00 （45 分）	５．事例４検討・ワーク（プラン評価・終結） ・今回の事例検討に「終結」を加えた理由の説明 ・事例の読み上げ、共有 （ワーク）ワークシートを用いてバズセッション 「終結の根拠とは」（事例のどの部分に着目して「終結」とみなしたのか。
16:00～16:10 （10 分）	６．まとめ

【前期】共通カリキュラム　研修会の様子

2　【後期】主任相談支援員養成研修

≪後期】主任相談支援員養成研修　プログラムシート≫

■期日　8 月 23 日（水）～25 日（金）　　■受講者数　225 名　　■会場　太宰ホール（3 日間）

■会場の着席形式　3 日間終日グループ形式

最小単位を 3 人のグループとして、2 つのグループ（計 6 人）で着席する。

1 日目：地域、所属、年齢、性別及び人口規模を考慮し編成

2 日目：近隣

3 日目　1 日目の 3 人グループは同じメンバーで、組み合わせるグループを別にする

■各科目の内容について

◆科目：【①講義と演習】主任相談支援員の役割と期待

◆日時：＜1 日目＞ 8/23（水） 10：10～10：40（30 分）

◆登壇者：厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課　生活困窮者自立支援室

生活困窮者対策官　菊池　英人 氏

◆学びのポイント：〇主任相談支援員の役割、期待される機能について

・全国の事業実施体制等の現状と課題について

・厚生労働省が求める現在の主任相談支援員の役割、期待について　等

※午後のプログラムの関係で 6 人のグループ形式で着席

◆科目：【②講義】生活困窮者支援と地域づくりの意義

◆日時：＜1 日目＞ 8/23（水） 10：40～11：40（60 分）

◆登壇者：ルーテル学院大学　名誉教授　和田 敏明　氏

◆学びのポイント：〇なぜ困窮者支援に地域づくりが必要なのか

〇生活困窮者自立支援と地域福祉計画

〇生活困窮者自立支援と他の分野との連携

※午後のプログラムの関係で 6 人のグループ形式で着席

◆科目：【③講義と演習】職員の資質向上と職場（組織）づくり

◆日時：＜1 日目＞ 8/23（水） 12：40～16：55（研修 240 分、昼食休憩 60 分、休憩 15 分　合計 315 分）

◆登壇者：明治学院大学　教授　新保　美香　氏

九州大学　客員准教授　加留部　貴行　氏

◆学びのポイント：〇職員の育成・教育に向けた方法を学ぶ。

〇自立相談支援機関の職場特性を踏まえた職場づくりのあり方を考える。

〇スーパービジョンの方法を学ぶ。支援における視点の偏りや、権利擁護の視点の必要性についても取り上げる。

◆進行

進行時刻	内容
12:40～13:25	１．講義：新保先生（45 分） 前期研修の振り返り、事前課題（困難事例）について（支援を育てる等)、スーパービジョンの解説等
13:25～15:50	２．演習：加留部先生（130 分【途中休憩 15 分】） 演習はロールプレイを行う。同じ机の 3 人で、主任相談支援員、相談支援員、相談者（自分の事例の相談者）の役割で進める。 ①相談支援員と相談者だけで相談の面談をする。このとき主任は話を背中越しに聴く。 ②主任相談支援員と相談支援員がスーパーバイザーの視点で面談をする。その様子を相談 者役が聴いている。 ③相談支援員から相談者役に内容を伝える。 ④主任相談支援員へ面談の方法と内容の両面からフィードバックを行う。
13:25～13:40	・進め方の説明（15 分）
13:40～14:15	・1 人目（30 分＋入替 5 分）
14:15～14:45	・2 人目（30 分）
14:45～15:00	・休憩（15 分）
15:00～15:30	・3 人目（30 分）
15:30～15:50	・振り返り（20 分）
15:50～16:55	３．講義のまとめ：新保先生、加留部先生（65 分）
15:50～16:45	①全体振り返り（ワールド・カフェ）
16:45～16:55	②全体まとめ

※13:25～　6 人の島形式、備品なし

※15:50～　6 人の島形式で、各島に模造紙 1 枚、プロッキー1 セット、Ａ４用紙を人数分

◆科目：【④講義と演習】支援困難事例の検討

◆日時：＜3 日目＞ 8/24（木） 9：00～12：15（研修 180 分、休憩 15 分　合計 195 分）

◆登壇者：ファシリテーター：明治学院大学　教授　新保　美香　氏

スーパーバイザー：聖隷福祉事業団

浜松市生活自立相談支援センターつながり　所長　上原　久　氏

◆位置づけ：研修のまとめ（個別支援、職場づくり、地域づくり）

◆学びのポイント：①高度な相談支援（困難ケース）について、具体的な支援の考え方やその方法について学ぶ。

②主任研修であるため、個別支援とともに地域支援の視点も取り入れる。

※受講者は事前課題「支援が困難である（であった)）」支援事例を提出。事前課題をもとに演習を展開する。

◆進行

進行時刻	内容
9:00～9:20 （20 分）	１．導入：新保先生（20 分）※6 名×１グループで着席する ①登壇者紹介、本講義・演習のすすめかたの説明（10 分） ②支援事例の振り返り（研修で「事前課題」の事例に対して、どのような示唆が与えられたか各自で振り帰り、報告の準備をする）（10 分）
9:20～10:20 （60 分）	２．演習・ピアスーパービジョン：新保先生（60 分） ①報告者が「事例の概要と今後の対応の方向性」を報告し、報告者以外のメンバーは付箋にスーパービジョンの視点をふまえた「ひとことメッセージ」を記入する。 →　報告：5 分　＋　付箋：3 分　　計 8 分×6 人分　＝48 分 ②ピアスーパービジョンの振り返り（約 10 分）
10:20～10:35 （15 分）	【休憩】
10:35～12:05 （90 分）	３．事例検討（スーパーバイザーによるスーパービジョン：上原氏（90 分） 演習協力・事例報告者（受講者）：武田　宏氏（宮崎県・串間市） （１）見立て（45 分） ①事例の基本情報 ②この事例を選んだ理由 ③事例との出会い ④支援経過の説明 （２）手立て（45 分） ①アイディア出し ②支援目標の選定→並べ替え ③支援計画の策定 ４．まとめ（新保先生、上原氏） ①参加者振り返り（ひとことフィードバック） ②本講義・演習を振り返り、締めくくりのメッセージを伝える（新保氏）
12:05～12:15 （10 分)）	

◆科目：【⑤講義と演習】アセスメント・プラン作成

◆日時：＜2 日目＞ 8/25（木） 13：15～17：00 （研修 210 分＋休憩 15 分）

◆登壇者：・市川市生活サポートセンター　そら（so-ra）主任相談支援員　朝比奈　ミカ　氏
・聖隷福祉事業団　浜松市生活自立相談支援センター　つながり　所長　上原　久　氏
・我孫子市役所　健康福祉部　社会福祉課　主査　松本　拓馬　氏

◆学びのポイント：〇主任相談支援員の役割や視点、スーパービジョンについて学ぶ。

〇事例を通して、主任相談支援員としての「考え」と「対応」について実践的に学ぶ。

※受講形式は 6 人 1 組のグループ（属性ランダム）

※壇上　（下手）朝比奈氏、上原氏、松本氏　（スクリーン）　（上手）

◆進行

進行時刻	内容
13:15～13：45 （30 分）	１．解説：主任の視点・スーパービジョンについて学ぶ：上原氏（30 分） ①導入（5 分） ②レジュメに基づき解説（25 分）
13：45～13：55	２．演習：主任の役割とスーパービジョンの実践（165 分＋休憩 15 分） ①導入（朝比奈氏）（10 分） 演習の趣旨、進め方とグループの役割分担（発表者）等を説明する。
13：55～14：35	②事例シートの紹介（松本氏）（40 分）
14：35～15：25	③グループ協議（50 分） 事例をもとに主任としての「考え」と「対応」について協議する。 協議内容についてワークシート（個人）として整理する。
15：25～15：40	【休憩（15 分）】
15：40～16：40 （60 分）	④グループ発表（３～４グループ×5 分=15～20 分）＋解説（40 分） グループ協議の発表をもとに、主任としての役割やスーパービジョンの実践方法等の理解を深める。 →助言は朝比奈氏が上原氏と松本氏に振り分ける。
16:40～17:00	⑤演習全体のまとめ（20 分） 主任相談支援員の視点・スーパービジョンについて解説（上原氏） まとめ・コメント（朝比奈氏、松本氏）

◆研修資料

①自立相談支援事業における使用標準様式の実用化に向けた調査研究 報告書（みずほ情報総研　平成 26 年度）PP.64-65　「課題のまとめと支援の方向性」を導き出すための実践上のポイント（事務局）

②事例から学ぶ自立相談支援の基本（みずほ情報総研　平成 27 年度）PP.2-3　本人理解にもとづく相談支援の考え方（事務局）

③解説レジュメ（上原氏）

③事例シート（松本氏）

※平成 28 年度の事例シート 1 と 2、インテーク・アセスメントシート参考案、プラン兼事業等利用申込書参考案等の内容を整理・統合

④演習：個人ワークシート（事務局）※当日配布

＊テーマ「主任相談支援員であるあなたは、どのように考え、どのように対応しますか」

参考資料…様式：インテーク・アセスメントシート、兼事業等利用申込書記入済

◆科目：【⑥講義と演習】個を支える地域づくり

◆日時：＜3 日目＞ 8/25（金） 9：00～12：15（研修 180 分＋休憩 15 分）

◆登壇者：【講師】日本福祉大学　教授　原田　正樹　氏

【コメンテーター】花園大学　教授　川島　ゆり子　氏

【実践者】豊中市社会福祉協議会　福祉推進室長　勝部　麗子　氏

◆学びのポイント：〇個と地域の一体的支援や地域住民への福祉教育の推進について学ぶ。

〇事例を通して地域を作る必要性や地域づくりを他人事にせず、一体的に考える必要性を伝える。

〇コミュニティアセスメントの視点を学ぶ。

◆進行

進行時刻	内容
	前半：ソーシャルサポートネットワークを作るプロセスを学ぶ（90 分）
9:00～9:10	１．講義の目的（原田先生）+事例紹介①「会う前」（勝部氏） 10 分 事例概略シートで紹介する
9:10～9:20	２．個人ワーク　エコマップ①書き方説明（原田先生）+作成 10 分
9:20～9:30	３.事例紹介②「会ってから現在」（勝部氏） 10 分　※勝部氏実践の DVD 使用
9:30～9:35	４.個人ワーク　エコマップ②作成 5 分
9:35～9:45	５.個人ワーク　プロセスレポートシートの整理 10 分
9:45～10:00	６.グループワーク　プロセスレポートシート共有 15 分
	７.グループワーク　支援のポイント共有 10 分
10:00～10:10	８.全体共有　グループ発表+解説（原田先生）、コメント（川島先生、勝部氏） 各 10 分
10:10～10:30	
	◆休憩 15 分
10:30～10:45	
	後半：ソーシャルサポートネットワークの作り方を学ぶ（90 分）
	1.講義の目的（原田先生） 2 分
10:45～10:47	2.事例紹介（勝部氏）10 分
10:47～10:57	3.個人ワーク　ワークシート記入 8 分
10:57～11:05	4.グループワーク　支援内容について討議 20 分
11:05～11:25	5.グループワーク　報告・ディスカッション 10 分×2 セット
11:25～11:45	6.解説・事例紹介仕組みづくりについて（原田先生、川島先生、勝部氏）20～30 分
11:45～	
12:15 終了	

◆資料の基本構成

（前半）

①ケースの概略シート（エコマップ記入シート付）

②プロセスレポートシート個人記入用 A3

（後半）

①ケースメソッド　3 つの事例

②予防と新しい支援の仕組みを考えるワークシート（個人用 A3）

③予防と新しい支援の仕組みを考えるワークシート（グループ用 A1）

※受講者は 6 人 1 組のグループ

※壇上　（下手）原田先生、川島先生、勝部氏（スクリーン）（上手）

◆科目：【⑦講義と演習】社会資源とネットワークの開発

◆日時：＜3 日目＞ 8/25（金） 13：05～16：20 （研修 180 分＋休憩 15 分）

◆登壇者：【講師】日本福祉大学　教授　原田　正樹　氏

【コメンテーター】花園大学　教授　川島　ゆり子　氏

【実践者】・豊中市社会福祉協議会　福祉推進室長　勝部　麗子 氏

・東海村社会福祉協議会　生活支援ネットワーク係長　古市　こずえ　氏

・金沢市地域包括支援センターとびうめ　センター長　中　恵美 氏

◆学びのポイント：〇社会資源開発や創出の必要性と、他分野との具体的な連携の作法を学ぶ。

〇ニーズにもとづく社会資源の開発、ネットワークづくり（多層的なネットワーク、多職種・多機関連携等）における主任相談支援員の役割を学ぶ。

※【講義と演習】「個を支える地域づくり」を受けての講義・演習。

※受講者は 6 人 1 組のグループ

※壇上　（下手）原田先生、川島先生　（スクリーン）　中氏、古市氏、勝部氏（上手）

◆進行

進行時刻	内容
13:05～13:10	１．講義の目的等について説明：原田先生（5 分）
13:10～13:20	２．実践者の自己紹介：原田先生（合計 10 分） （①勝部氏、）②古市氏、③中氏　※勝部氏は午前中から登壇、必要に応じて。
13:20～13:35	３.【シンポジウム】事例を通した実践者の報告（合計 80 分） ①中氏から事例の報告（15 分）
13:35～13:50	②【問 1】中氏の事例を踏まえ、同じソーシャルワーカーとして、 どのように対応するのかプロセスについて発言（計 15 分） 古市氏、勝部氏（各 5 分）、中氏補足等（5 分）
13:50～14:05	③【問 2】中氏の事例を踏まえ、他機関連携の視点からの発言（計 15 分） 古市氏（多機関協働の観点から、特に地域づくりの視点からどのように対応するのか） 勝部氏（CSW（社協）として、どのように対応するのか）、（各 5 分）、 中氏補足等（5 分）

14:05～14:20	④【問 3】各実践者が考える社会資源開発において大切にしていることやポイント、留意点を紹介（計 15 分） 勝部氏、中氏、古市氏（各 5 分）
14:20～14:30	⑤会場からの質問対応（10 分）
14:30～14:40	⑥コメント、まとめ：川島先生（10 分）
14:40～14:55	【休憩(15 分)】

【後半】

	４.【演習】ニーズにもとづく社会資源の開発に向けた検討（合計 85 分） 【目的】 「相談支援包括化推進会議」の取り組みと事例検討をもとに、生活困窮者の個別ニーズと地域ニーズを整理したうえで、具体的な支援に必要となる社会資源を確認するとともに、既存の社会資源の活用や新たな資源開発について検討する。 【プログラム】
14:55～15:00	①演習の目的：原田先生（5 分）
15:00～15:10	②事例紹介（古市氏：相談支援包括化推進会議の取り組みと支援事例）（10 分）
15:10～15:15	③演習の進め方：原田先生（5 分）
15:15～15:40	④演習Ⅰ（25 分） 支援事例をもとに個別ニーズと地域ニーズ、また必要な社会資源を確認する。
15:40～16:05	⑤演習Ⅱ（25 分） ④で確認した必要な社会資源の有無、既存の社会資源の活用や新たな資源開発に向けた具体的な取り組みを検討する。
16:05～16:20	⑤発表、コメント（原田先生、川島先生、勝部氏、古市氏、中氏）（15 分）
	【演習】ニーズにもとづく社会資源の開発に向けた検討の進め方 ★事例報告：古市氏から東海村での「相談支援包括化推進会議」の取り組みと具体的な支援事例を報告 ※各グループに模造紙 2 枚（演習Ⅰ、演習Ⅱの各 1 枚）、マジック一式を配布、付箋（赤、青）は配布済。 演習Ⅰ（前半）模造紙を半分にしてラインをマジックで書き、左右にする。 左側：上「個別ニーズ」、下「地域ニーズ」、右側「解決のための会議

	メンバー」とする。右側については中央に点線を引き、右側の個別ニーズと地域ニーズをイメージした議論を進めるようにする。 演習Ⅱ（後半）模造紙を半分にしてライン（点線）をマジックで書き、左右にする。左側「個別ニーズに対する社会資源」と「地域ニーズに対する社会資源」とする。 演習Ⅰ ①支援事例（古市氏）をもとに「個別ニーズ」と「地域ニーズ」を整理し、グループで共有する。模造紙の左側に張り出してグループで協議・確認をする。なお、時間短縮のため、事前に古市氏に当該事例に係る「個別ニーズ」と「地域ニーズ」を整理していただき、会場に映写する。 ②①を踏まえ、当該ニーズに基づき、支援に必要となる地域の諸機関、取り組み（解決のための会議メンバー）を模造紙の右側に張り出してグループで協議・確認をする。 演習Ⅱ ①演習Ⅰをもとに、事例の支援において必要となる社会資源について、「個別ニーズに対する社会資源」、「地域ニーズに対する社会資源」の視点（双方に関わる資源もある）から、既存資源の活用と新たな社会資源の開発について検討する。模造紙の左右に張り出してグループで協議・確認する。また、新たな社会資源についてはその開発に向けた取り組み・工夫について議論する。なお、議論においては、目指すべき支援とともに目指す地域の姿を念頭におくことに留意する。 ②いくつかのグループに報告をしてもらい、講師・実践者からコメントする。

◆実践者にご用意いただく資料（発言内容）:

勝部氏、古市氏、中氏

…①ご自身や所属団体の紹介（各自 5 分）（パワポ形式、フォーマット自由）

②問 3. 社会資源開発の留意点（各自 5 分）（パワポ形式、フォーマットあり）

中氏

…個別支援を通してネットワークを構築した事例（15 分）

（資料：パワポ形式、フォーマット自由、個人が特定できない内容）

●テーマは「8050 問題を抱える世帯への支援」で包括、社協、（自立相談支援機関）等が関わる事例です。

古市氏

…「相談支援包括化推進会議」運営のポイント、活性化に向けた取り組み、具体的な支援に関する事例（10 分）

（資料：パワポ形式、フォーマット自由）

参考）平成 28 年度「つながり応援センターよろず運営委員会」の事例報告

勝部氏、古市氏

…　中氏が作成する事例を受けて、下記の 2 つの問にお答えください。
※資料は必要に応じて作成をお願いいたします。

問 1. 同じソーシャルワーカーとして（各 5 分）
この事例にどのように対応するのかプロセスを教えてください

問 2.　他機関連携の視点から（各 5 分）
勝部氏 社協として、どのように対応するのか教えてください（5 分）
古市氏 多機関協働による包括的相談支援の観点から、どのように対応するのか教えてください（5 分）

◆科目：【⑧講義】研修の振り返り・まとめ
◆日時：＜3 日目＞ 8/25（金） 16：30～17：30 （60 分）
◆登壇者：日本福祉大学　教授　原田 正樹 氏
◆学びのポイント：〇3 日間の研修を振り返り・まとめ
〇主任相談支援員の役割、期待
〇地域共生社会の実現に向けた施策と必要な実践等

生活困窮者自立支援制度における主任相談支援員の役割

○ 個人への丁寧な相談支援とともに、地域づくりを視野に入れた、チームによる包括的な支援体制を整備する視点を持つ必要がある。
○ 社会資源が不足している場合には、地域の関係機関のネットワークを強化したり、新たに社会資源を開発することが求められる。
○ なお、支援困難事例に対応するとともに、スーパービジョンや人材養成を通して、支援の抜け漏れや偏りを防ぐことも重要である。
○ また、支援員一人一人が自らの専門性を発揮し、より良い実践を展開していけるよう、職場づくりやリスクマネジメントにも取り組む必要がある。

⇒ 主任相談支援員自身も、自分の強みを理解し、弱みを補うためにノウハウを学び、考え、実践しましょう。

“きちんと”

丁寧な相談支援

- 支援困難な事案への対応
- 高度な相談支援の展開
- 包括的、個別的、早期的、継続的、創造的な支援の実施

“しっかり”

相談業務のマネジメント

- スーパービジョンや人材育成
- 支援内容及び進捗状況の確認、助言、指導
- 業務全体のリスクマネジメント
- 理念の共有に向けた働き掛け
- リーダーシップの発揮

“みんなで”

チームによる支援

- 関係機関との連携、協働
- 自立相談支援事業と任意事業との一体的支援
- より良い職場づくり
- 相談支援員、就労支援員との協働・支援

“つながる・つくる”

社会資源の活用と開発

- 関係機関・者とのネットワークの構築
- 働く場、参加する場の開拓
- 地域住民への普及、啓発活動
- 地域の支援レベルの向上に向けた取組

平成29年度【後期】主任相談支援員養成研修　学びの見取り図

		“きちんと”			“しっかり”					“みんなで”				“つながる・つくる”			
		丁寧な相談支援			相談業務のマネジメント					チームによる支援				社会資源の活用と開発			
	科目	支援困難な事案への対応	高度な相談支援の展開	包括的、個別的、早期的、継続的、創造的な支援の実施	スーパービジョンや人材育成	支援内容及び進捗状況の確認、助言、指導	業務全体のリスクマネジメント	理念の共有に向けた働きかけ	リーダーシップの発揮	関係機関との連携、協働	自立相談支援事業と任意事業との一体的支援	より良い職場づくり	相談支援員、就労支援員との協働・支援	関係機関・者とのネットワークの構築	地域住民への普及、啓発活動	働く場、参加する場の開拓	地域の支援レベルの向上に向けた取り組み
1日目	【講義と演習①】主任相談支援員の役割と期待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【講義②】生活困窮者支援と地域づくりの意義							○		○				○	○	○	○
	【講義と演習③】職員の資質向上と職場（組織）づくり				○	○	○	○	○			○	○				
2日目	【講義と演習④】支援困難事例の検討	○	○	○	○				○	○	○		○	○		○	○
	【講義と演習⑤】アセスメント・プラン作成	○	○	○	○	○	○	○									
3日目	【講義と演習⑥】個を支える地域づくり			○		○				○			○	○	○		○
	【講義と演習⑦】社会資源とネットワークの開発			○				○		○			○	○	○	○	○
	【講義と演習⑧】研修の振り返り・まとめ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【後期】主任相談支援員養成研修　研修会の様子

3【後期】相談支援員養成研修

≪【後期】相談支援員養成研修【第 1 回　プログラムシート】≫

■期日　10 月 18 日（水）～10 月 20 日（金）　■受講者数 228 名　■会場　全社協・中央福祉学院

■会場の着席形式　3 日間終日 6 人のグループ形式で着席する。全 38 グループ。

1 日目：地域、所属、年齢、性別、人口規模を偏りなく

2,3 日目：地域、所属、年齢、性別を偏りなく、人口規模を合わせる（2,3 日目は同じグループ）

■備品　受講者には予め赤と青の付箋を配付している

■各科目の内容について

◆科目：【講義と演習①】個別支援の基本

◆日時等：【第 1 日目】10 月 18 日（水）、11 月 20 日（月）

10:10-12:30　研修 130 分、休憩 10 分　合計 140 分

◆登壇者：日本大学　文理学部　社会福祉学科　准教授　後藤 広史 氏

聖隷福祉事業団　浜松市生活自立相談支援センターつながり　所長　上原 久 氏

◆学びのポイント：〇個別支援の基本姿勢について学ぶ。

〇援助関係を構築するとはどういう意味を持つのか、構築することでどういう援助が可能になるのかを学ぶ。

〇前半は講義、後半は事例検討を行う。扱う事例は地域と個別支援の関係性が分かる内容とする。

◆ステージ：（下手側）演台、机 2 本　後藤先生、上原氏

◆備品：なし

◆進行

進行時刻	内容
	※グループミーティングがあるため、事前にパワポで名刺交換等を促す。 ※10:00-10:10 オリエンテーションにて、学びの見取り図、3 日間の流れが説明される。 ※事前に「後藤先生レジュメ」「事例シート」、「ワークシート」を配付済み
10:10-10:30	①講義（20 分）【後藤先生】 ※テキスト 4 章 2 節を中心に、パワーポイントで説明する。また、前期研修で使用する支援のプロセスの図も使用する。
10:30-10:55	②事例の提供（25 分）【上原氏】・・・・「1. 世帯の経過と現在の状況」～「3. 初回訪問」まで 6 人グループでロールプレイ（読み合わせ）・・・「4. 訪問 2 回目」～「6. 訪問 4 回目」まで ※ロールプレイにおける配役決め等の進行は、【後藤先生】が担当する。
10:55-11:05	③個人ワーク（10 分）【後藤先生】ワークシートの設問 1 について、記入する。
11:05-11:15	④グループミーティング（10 分）【後藤先生】（付箋を使用して整理もあり） 6 人グループで共有する。発表する 3 つのグループを鏑木氏が選定する。挙手もあり。
11:15-11:25	⑤グループ発表（10 分）【後藤先生】
11:25-11:32	⑥グループ発表に対するコメント（7 分）【後藤先生、上原氏】
11:32-11:42	【休憩】（10 分）省略する場合あり

11:42-11:52	⑦個人ワーク（10 分）【後藤先生】ワークシートの設問 2 について、記入する。
11:52-12:02	⑧グループミーティング（10 分）【後藤先生】6 人グループで共有する。
12:02-12:12	⑨グループ発表（10 分）【後藤先生】
12:12-12:20	⑩グループ発表に対するコメント（8 分）【後藤先生、上原氏】
-12:30 終了	⑪総括（10 分）【後藤先生】

◆研修資料

01 後藤先生レジュメ

02 事例シート

03 ワークシート

◆科目：【講義と演習②】アウトリーチの考え方

◆日時等：10 月 18 日（水）13:30-17:20（神奈川会場）研修 210 分、休憩 15 分　合計 225 分

11 月 20 日（月）13:30-17:20（大阪会場）研修 210 分、休憩 15 分　合計 225 分

◆登壇者：【コーディネーター】厚生労働省　生活困窮者自立支援室　生活困窮者対策官　菊地　英人氏

【実践者】豊中市社会福祉協議会　福祉推進室長　勝部　麗子氏

特定非営利法人　抱撲　センター長　中間　あやみ氏

◆学びのポイント：〇アウトリーチの基本的考え方と概要を説明する（テキスト追補に掲載した、アウトリーチの３つの種類についても説明）。

〇具体的な実践事例や具体的な支援方法を説明する。

◆ステージ：（下手）机 1 本 菊池氏（スクリーン）机 2 本 勝部氏、中間氏（上手）

◆備品：各受講者に青と赤の付箋を 1 冊、グループに黄の付箋を 1 冊

◆進行

進行時刻	内容
	１．講義（前半）（計 130 分）
13:30-13:40	菊地対策官から、セッションの趣旨、付箋の使い方、アウトリーチの考え方について説明（10 分）
	※付箋の使い方…講師の講義を聴きながら、各自で付箋に「参考になったこと」（青）、「今の自分や地域では難しいと感じたこと」（赤）、「質問したいこと」（黄）を記入する。
13:40-13:50	
13:50-14:10	中間氏、勝部氏の自己紹介（お一人 5 分×2 人　計 10 分）
14:10-14:40	アウトリーチの目的別種類 4 つのテーマについて解説（菊地対策官：20 分）
14:40-14:50	中間氏の実践報告（30 分）
14:50-15:20	インタビュー（10 分）
15:20-15:30	勝部氏の実践報告（30 分）
15:30-15:40	インタビュー（10 分）
	まとめ（菊地対策官：10 分）
15:40-15:55	

	【休憩】（15 分）
15:55-16:10	２．演習（後半）（計 80 分）
	①記入した付箋を使って、6 人グループで意見をシェア（15 分）
16:10-16:25	講師陣は会場を回る。
	②シェアした内容を発表（15 分）
16:25-16:55	3 グループ程度を予定。2 つのグループは講師が指名。1 つのグループは挙手。
16:55-17:05	③質疑応答（30 分）ここの時間で進行を調整する。
	④アクションポリシーを作成（10 分）
	各自でワークシートに「今日からできること」と「長期的に取り組みたいこと」を記入してもらう。時間があれば、グループ内で共有してもらう。
17:05-17:20	
	３．まとめ（15 分）
	菊地対策官、勝部氏、中間氏から受講者へメッセージ

◆科目：【講義と演習③】「多機関との連携のあり方」

◆日時等：10 月 19 日（木）　11 月 21 日（火）9：00～11：55　160 分＋休憩 15 分（合計 175 分）

◆登壇者：

【実践報告者】

国立市役所健康福祉部総務課福祉相談係　森　幸雄氏　（行政（直営）の立場から）

社会福祉法人新栄会厚生事業部　小林　悦子氏（民間（委託）の立場から）

【コーディネーター】

文京学院大学　准教授　長竹　教夫氏

浜松市自立相談支援センター　所長　上原　久氏

【壇上】＜下手＞上原氏、長竹先生（スクリーン）森氏、小林氏＜上手＞

◆学びのポイント

複合的課題を抱える生活困窮者支援には、多機関との連携は欠かすことのできない支援手法である。しかし、「連携」という概念は多義的に用いられていることが多く、支援技法として統一された概念とは言い難い実情がある。そこで本講義では、①連携概念の整理、②実務的な課題の整理、③課題解決に向けた取組の整理、④「明日から使える方法」の整理を行うことにより、生活困窮者支援の核となる「多機関との連携」について実践的で役に立つ解を見出すことを目的とする。

◆進行

時刻	時間	内容
9:00 ～9:20	20 分 （20 分） 【上原氏】	**①研修 2 日目の導入** 学びの見取り図、2 日目の研修構成、3 日目へのつながり等を説明 **②プログラムの導入** ・「連携のあり方」について学ぶことを目的とする。 ・学びを深めるために、①「連携」に関する実践報告をうけながら、②「連携する上での諸課題」について整理し、③「連携の概念とは何か」を概観し、④「明日から使える連携手法」をともに考える。
9:20 ～9:50	30 分 （50 分） 【報告者】	**実践報告①：連携の諸課題「こんなこと あんなこと！」** 【1 人 15 分以内】
9:50 ～10:10	20 分 （70 分） 【長竹氏】	**ワーク①：「困りごとはなんですか？」** 実践報告を聞いたうえで、日々の実践に照らし合わせながら次の作業を行う。（説明等 5 分） ※ワークシート①を使用する。 **個人ワーク：皆さんはどうですか？（5 分）** Q：連携の諸課題「こんなこと あんなこと」について、個人で思いつくことを箇条書きしてください。 **Gワーク：お隣さんはどうですか？（10 分）** Q：「こんなこと あんなこと」についてグループで共有し、「対策・解決策を考えたい課題」を 2 つ選んでください。
10:10 ～10:30	20 分 （90） 【報告者】	**実践報告②：「困ってばかりいられない 」** 実践報告①に対応する策として、「こんなコト考えた」「アンナことやってみた」、「その結果こうなった」という実践を報告する。 【1 人 10 分以内】
10:30 ～10:45	15 分 （105）	休憩（15 分）
10:45 ～11:05	20 分 （125 分） 【上原氏】	**ミニ講義：「連携について整理しよう」** 学術文献をもとに「連携とは何か」について、次の 3 点を概念的に整理します。 (1)「連携」の実情 (2)「連携」の定義とプロセス (3)「連携」の質（関係性）

11:05 ～11:35	30 分 （155 分） 【上原氏】 【長竹氏】	**ワーク②：「いいね！」をチョイス** 実践報告②、ミニ講義を聞いて、Ｇごとに下記の点について作業を行う。（説明等 5 分） ※ワークシート②を使用する。 **Ｇワーク(1)：対応策を考えよう。** (1)実践報告②およびミニ講義を参考にしながら、ワークシート①で選択した諸課題について「対応策」を検討。【検討時間 10 分】 **Ｇワーク(2)：「コレ、いいね！」** (2)ワークの中で「コレいいね！」と思うものを 1 つ取り上げ、発表（挙手制）。　【1Ｇ5 分　5 分×3Ｇ=15 分】 ※事務局が発表したグループのワークシートの写真を撮る。
11:35 ～11:45	10 分 【報告者】 （165 分）	**エールを送ろう！** 実践報告者が、ワーク②で取り上げられた内容について「応援のエール」を送る。※コメントを記入するシートあり。
11:45 ～11:55	10 分 （175 分） 【長竹氏】	**まとめのコメント** まとめとして、下記 3 点を中心にコメントを行います。 ①連携とは、1 つの支援手法。∴「作法」や「スキル」が不可欠。 ②連携後のメンテナンスが、「その後の連携」を深める。 ③生困事業では「連携の広がりは地域作りに発展する」と考える。 ※コメントを記入するシートあり

【研修資料】

01 上原氏レジュメ（講義の位置づけと目的）
02 日本総研 相談員ハンドブック（Q1～5）
03 森氏　実践報告
04 小林氏　実践報告
05 ワークシート①「困りごとはなんですか？」
06 ワークシート②「いいね！」をチョイス
07 エールを送ろう記入シート
08 まとめのコメント記入シート

◆科目：【講義と演習④】援助関係をつくりにくい人への支援

◆日時等：10 月 19 日（木）12:55-14:40（中央福祉学院）研修 105 分

◆登壇者：厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　障害福祉課　障害児・発達障害者支援室
発達障害対策専門官　日詰　正文　氏

◆学びのポイント：〇援助関係をつくりにくい人への日常生活支援や就労支援の考え方本人との関わり方について学ぶ。
〇支援場面を想定した事例検討やロールプレイを盛り込む

◆備品：なし　　◆進行案：講義形式

◆科目：【講義と演習⑤】地域を基盤とした相談支援のあり方

◆日時等：10 月 19 日（木） 14:55-16:35 （中央福祉学院）研修 100 分

◆登壇者：東洋大学 社会学部社会福祉学科 准教授 加山 弾 氏

氷見市社会福祉協議会 事務局次長 地域福祉・ボランティア推進課長 森脇 俊二 氏

◆学びのポイント：〇インフォーマルな支援をどのように展開していくのか。

〇地域社会から協力者をどのように増やし、地域の活動にどのようにつなげていくのかということについて学ぶ。

◆ステージ：（下手側）演台、机 2 本 加山先生、森脇氏

◆備品： 模造紙グループに 1 枚、付箋、プロッキー

◆進行

進行時刻	内容
	※直前に事例シート、ワークシート①②を配付する。
	1．前半（合計 40 分） 「事例概要シート」
14:55-15:00	①プログラムの趣旨説明（5 分） 加山先生 以降、進行＝加山先生
15:00-15:10	②「事例」の共有（10 分） 森脇氏 氷見市社協の概況と事例の簡単な概要を紹介する。
15:10-15:15	③個人ワーク（5 分） この事例をどのように診立てるか（アセスメント） 「ワークシート 1」について、記入する。
15:15-14:25	④グループミーティング（10 分） 6 人グループで共有する。
15:25-15:35	⑤講師からのアセスメントに関する解説（10 分） 森脇氏・加山先生
	2．後半（合計 60 分）
15:35-15:40	①事例の診立て（アセスメント）をふまえての支援の展開についての簡単な説明 森脇氏
15:40-15:45	①個人ワーク（5 分）インフォーマルな支援を巻き込んでどのよう支援していくか 「ワークシート 2」について、記入する。
15:45-16:00	②グループミーティング（15 分） 6 人グループで共有する。
16:00-16:20	③グループ発表（20 分）
16:20-16:35	④講師まとめ（15 分）

生活困窮者自立支援制度における相談支援員の役割

○ 相談者は自尊感情や自己有用感を喪失していることから、相談者との信頼関係を構築し、ストレングス視点を持って支援を展開していくことが重要である。
○ また、良い支援を支援者に提供するためには、関係機関と連携しチームアプローチによる支援を展開していくことが求められる。
○ なお、社会資源が不足している場合には、地域の関係機関のネットワークを強化したり、新たに社会資源を開発していく視点を持つ必要もある。
⇒ **相談支援員自身も、自分の強みを理解し、弱みを補うためにノウハウを学び、考え、実践しましょう。**

“きちんと”

丁寧な相談支援

- 包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成
- 支援のコーディネートと適切な支援の提供
- 信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援
- ストレングスに着目した本人主体の支援

“みんなで”

チームによる支援

- 主任相談支援員、就労支援員との協働
- 関係機関との連携、協働
- 自立相談支援事業と任意事業との一体的支援

“ずっと”

切れ目のない支援

- アウトリーチによる発見・支援
- 寄り添いながらの包括的、継続的支援
- 定着支援や終結後のフォローアップ
- 見守りのネットワークの構築

“つながる・つくる”

社会資源の活用と開発

- 各種制度や地域資源に関する情報収集と活用
- 関係機関・者のネットワークの構築
- 働く場、参加する場の開拓

【後期】相談支援員養成研修（第１回）　学びの見取り図

平成29年度【後期】相談支援員養成研修　学びの見取り図

			“きちんと”				“ずっと”				“みんなで”			“つながる・つくる”		
			丁寧な相談支援				切れ目のない支援				チームによる支援			社会資源の活用と開発		
	科目	講師	包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成	支援のコーディネートと適切な支援の提供	信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援	ストレングスに着目した本人主体の支援	アウトリーチによる発見・支援	寄り添いながらの包括的、継続的支援	定着支援や終結後のフォローアップ	見守りのネットワークの構築	主任相談支援員、就労支援員との協働	関係機関との連携、協働	自立相談支援事業と任意事業との一体的支援	関係機関・者とのネットワークの構築	各種制度や地域資源に関する情報収集と活用	働く場、参加する場の開拓
1日目	**【講義と演習①】個別支援の基本**	日本大学　後藤 広史 氏 聖隷福祉事業団　上原　久　氏	○	○	○	○	○	○								
1日目	**【講義と演習②】アウトリーチの考え方**	厚生労働省　菊地 英人 氏 豊中市社会福祉協議会　勝部 麗子 氏 抱樸　中間 あやみ 氏	○			○	○					○		○	○	
2日目	**【講義と演習③】多機関との連携のあり方**	聖隷福祉事業団　上原　久　氏 文京学院大学　長竹教夫 氏 新栄会　小林 悦子 氏 国立市役所　森 幸雄 氏									○	○	○	○	○	○
2日目	**【講義と演習④】援助関係をつくりにくい人への支援**	厚生労働省　日詰　正文　氏	○	○	○	○		○								
2日目	**【講義と演習⑤】地域を基盤とした相談支援のあり方**	東洋大学　加山　弾 氏 氷見市社会福祉協議会　森脇　俊二 氏					○	○	○	○				○	○	○
2日目 3日目	**【講義と演習⑥】相談支援の展開**	市川市生活サポートセンターそら(so-ra)　朝比奈　ミカ　氏 聖隷福祉事業団　上原　久　氏 我孫子市役所　松本　拓馬　氏 文京学院大学　長竹 教夫 氏 同志社大学　空閑　浩人 氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【後期】相談支援員養成研修（第１回）　研修会の様子

≪【後期】相談支援員養成研修【第 2 回】プログラムシート≫

■期日　11 月 20 日（月）～22 日（水）　■受講者数 213 名　　■会場　OMM C ホール

■会場の着席形式　3 日間終日 6 人のグループ形式で着席する。全 36 グループ。

1 日目：地域、所属、年齢、性別、人口規模を偏りなく

2,3 日目：地域、所属、年齢、性別を偏りなく、人口規模を合わせる（2,3 日目は同じグループ）

■備品　受講者には予め赤と青の付箋を配付している

■各科目の内容について

◆科目：【講義と演習①】個別支援の基本

◆日時等：【第 1 日目】11 月 20 日（月）

10:10-12:30　研修 130 分、休憩 10 分　合計 140 分

◆登壇者：日本大学　文理学部　社会福祉学科　准教授　後藤 広史 氏

聖隷福祉事業団　浜松市生活自立相談支援センターつながり　所長　上原 久 氏

◆学びのポイント：〇個別支援の基本姿勢について学ぶ。

〇援助関係を構築するとはどういう意味を持つのか、構築することでどういう援助が可能になるのかを学ぶ。

〇前半は講義、後半は事例検討を行う。扱う事例は地域と個別支援の関係性が分かる内容とする。

◆ステージ：（下手側）机 2 本　後藤先生、上原氏

◆備品：なし

◆進行

進行時刻	内容
	※グループミーティングがあるため、事前にパワポで名刺交換等を促す。 ※10:00-10:10 オリエンテーションにて、学びの見取り図、3 日間の流れが説明される。 ※事前に「後藤先生レジュメ」「事例シート」、「ワークシート」を配付済み
10:10-10:30	①講義（20 分）【後藤先生】 ※テキスト 4 章 2 節を中心に、パワーポイントで説明する。また、前期研修で使用する支援のプロセスの図も使用する。
10:30-10:55	②事例の提供（25 分）【上原氏】・・・・「1. 世帯の経過と現在の状況」～「3. 初回訪問」まで 6 人グループでロールプレイ（読み合わせ）・・・「4. 訪問 2 回目」～「6. 訪問 4 回目」まで ※ロールプレイにおける配役決め等の進行は、【後藤先生】が担当する。
10:55-11:05	③個人ワーク（10 分）【後藤先生】ワークシートの設問 1 について、記入する。
11:05-11:15	④グループミーティング（10 分）【後藤先生】（付箋を使用して整理もあり） 6 人グループで共有する。
11:15-11:25	⑤グループ発表（10 分）【後藤先生】
11:25-11:32	⑥グループ発表に対するコメント（7 分）【後藤先生、上原氏】
11:32-11:42	【休憩】（10 分）省略する場合あり

11:42-11:52	⑦個人ワーク（10 分）【後藤先生】ワークシートの設問 2 について、記入する。
11:52-12:02	⑧グループミーティング（10 分）【後藤先生】6 人グループで共有する。
12:02-12:12	⑨グループ発表（10 分）【後藤先生】
12:12-12:20	⑩グループ発表に対するコメント（8 分）【後藤先生、上原氏】
-12:30 終了	⑪総括（10 分）【後藤先生】

◆研修資料

01 後藤先生レジュメ

02 事例シート

03 ワークシート

◆科目：【講義と演習②】アウトリーチの考え方

◆日時等：11 月 20 日（月）13:30-17:20（大阪会場）研修 215 分、休憩 15 分　合計 230 分

◆登壇者：【コーディネーター】厚生労働省　生活困窮者自立支援室　生活困窮者対策官　菊地　英人氏

【実践者】豊中市社会福祉協議会　福祉推進室長　勝部　麗子氏

特定非営利法人　抱撲　センター長　中間　あやみ氏

◆学びのポイント：〇アウトリーチの基本的考え方と概要を説明する（テキスト追補に掲載した、アウトリーチの３つの種類についても説明）。

〇具体的な実践事例や具体的な支援方法を説明する。

◆ステージ：（下手）机 1 本 菊地氏（スクリーン）机 2 本中間氏、勝部氏（上手）

◆備品：各受講者に青と赤の付箋を 1 冊、グループに黄の付箋を 1 冊とＡ４コピー用紙 1 枚

◆進行案

進行時刻	内容
	1．講義（前半）（計 120 分）
13:30-13:40	菊地対策官から、セッションの趣旨、付箋の使い方、アウトリーチの考え方について説明（10 分） ※付箋の使い方…講師の講義を聴きながら、各自で付箋に「参考になったこと」（青）、「今の自分や地域では難しいと感じたこと」（赤）、「質問したいこと」（黄）を記入する。
13:40-13:50	中間氏、勝部氏の自己紹介（お一人 5 分×2 人　計 10 分）
13:50-14:20	アウトリーチの目的別種類 4 つのテーマについて解説（菊地対策官：30 分）
14:20-14:50	中間氏の実践報告（30 分）
14:50-14:55	インタビュー（5 分）
14:55-15:25	勝部氏の実践報告（30 分）
15:25-15:30	インタビュー（5 分）
15:30-15:45	【休憩】（15 分）
	2．演習（後半）（計 85 分）
15:45-16:05	①記入した付箋を使って、6 人グループで意見をシェア（20 分）

	講師陣は会場を回る。
16:05-16:20	②シェアした内容を発表（15 分）
	3 グループ程度を予定。2 つのグループは講師が指名。1 つのグループは挙手。
16:20-16:50	③質疑応答（30 分）ここの時間で進行を調整する。
16:50-17:10	④アクションポリシーを作成（10 分）
	各自でワークシートに「今日からできること」と「長期的に取り組みたいこと」を記入してもらう。
	⑤アクションポリシーをグループでシェア（10 分）
17:10-17:20	３．まとめ（10 分）
終了	菊地対策官、勝部氏、中間氏から受講者へメッセージ

◆科目：【講義と演習③】「多機関との連携のあり方」

◆日時等： 11 月 21 日（火）9：00～11：55　160 分＋休憩 15 分（合計 175 分）

◆登壇者：

【実践報告者】

国立市役所健康福祉部総務課福祉総合相談係　森　幸雄氏　（行政（直営）の立場から）

社会福祉法人新栄会厚生事業部　小林　悦子氏　（民間（委託）の立場から）

【コーディネーター】

文京学院大学　准教授　長竹　教夫氏

浜松市自立相談支援センター　所長　上原　久氏

【壇上】＜下手＞机 2 本　上原氏、長竹先生（スクリーン）机 2 本　森氏、小林氏＜上手＞

【ねらい】

複合的課題を抱える生活困窮者支援には、多機関との連携は欠かすことのできない支援手法である。しかし、「連携」という概念は多義的に用いられていることが多く、支援技法として統一された概念とは言い難い実情がある。そこで本講義では、①連携概念の整理、②実務的な課題の整理、③課題解決に向けた取組の整理、④「明日から使える方法」の整理を行うことにより、生活困窮者支援の核となる「多機関との連携」について実践的で役に立つ解を見出すことを目的とする。

【進行表】

時刻	時間	内容
9:00 ～9:20	20 分 （20 分） 【上原氏】	**①研修 2 日目の導入** 学びの見取り図、2 日目の研修構成、3 日目へのつながり等を説明 **②プログラムの導入** ・「連携のあり方」について学ぶことを目的とする。 ・学びを深めるために、①「連携」に関する実践報告をうけながら、②「連携する上での諸課題」について整理し、③「連携の概念とは何か」を概観し、④「明日から使える連携手法」をともに考える。

9:20 ～9:50	30 分 (50 分) 【報告者】	**実践報告①：連携の諸課題「こんなこと あんなこと！」** 【1 人 15 分以内】
9:50 ～10:10	20 分 (70 分) 【長竹氏】	**ワーク①：「困りごとはなんですか？」** 実践報告を聞いたうえで、日々の実践に照らし合わせながら次の作業を行う。(説明等 5 分) ※ワークシート①を使用する。 **個人ワーク：皆さんはどうですか？（5 分）** Q：連携の諸課題「こんなこと あんなこと」について、個人で思いつくことを箇条書きしてください。 **Gワーク：お隣さんはどうですか？（10 分）** Q：「こんなこと あんなこと」についてグループで共有し、「対策・解決策を考えたい課題」を 2 つ選んでください。
10:10 ～10:30	20 分 (90) 【報告者】	**実践報告②：「困ってばかりいられない 」** 実践報告①に対応する策として、「こんなコト考えた」「アンナことやってみた」、「その結果こうなった」という実践を報告する。 【1 人 10 分以内】
10:30 ～10:45	15 分 (105)	休憩（15 分）
10:45 ～11:05	20 分 (125 分) 【上原氏】	**ミニ講義：「連携について整理しよう」** 学術文献をもとに「連携とは何か」について、次の 3 点を概念的に整理します。 (1)「連携」の実情 (2)「連携」の定義とプロセス (3)「連携」の質（関係性）
11:05 ～11:35	30 分 (155 分) 【上原氏】 【長竹氏】	**ワーク②：「いいね！」をチョイス** 実践報告②、ミニ講義を聞いて、Gごとに下記の点について作業を行う。(説明等 5 分) ※ワークシート②を使用する。 **Gワーク(1)：対応策を考えよう。** (1)実践報告②およびミニ講義を参考にしながら、ワークシート①で選択した諸課題について「対応策」を検討。【検討時間 10 分】 **Gワーク(2)：「コレ、いいね！」** (2)ワークの中で「コレいいね！」と思うものを 1 つ取り上げ、発表（挙手制）。 【1G5 分 5 分×3G=15 分】 ※事務局が発表したグループのワークシートの写真を撮る。
11:35 ～11:45	10 分 【報告者】	**エールを送ろう！** 実践報告者が、ワーク②で取り上げられた内容について「応援のエール」を

	（165 分）	送る。※コメントを記入するシートあり。
11:45 ～11:55	10 分 （175 分） 【長竹氏】	**まとめのコメント** まとめとして、下記 3 点を中心にコメントを行います。 ①連携とは、1 つの支援手法。∴「作法」や「スキル」が不可欠。 ②連携後のメンテナンスが、「その後の連携」を深める。 ③生困事業では「連携の広がりは地域作りに発展する」と考える。 ※コメントを記入するシートあり

【研修資料】

01 上原氏レジュメ（講義の位置づけと目的）
02 日本総研 相談員ハンドブック（Q1～5）
03 森氏　実践報告
04 小林氏　実践報告
05 ワークシート①「困りごとはなんですか？」
06 ワークシート②「いいね！」をチョイス
07 エールを送ろう記入シート
08 まとめのコメント記入シート

◆科目：【講義と演習④】援助関係をつくりにくい人への支援

◆日時等：11 月 21 日（火）12:55-14:40（大阪会場）研修 105 分

◆登壇者：厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　障害福祉課　障害児・発達障害者支援室
発達障害対策専門官　日詰　正文　氏

◆学びのポイント：〇援助関係をつくりにくい人への日常生活支援や就労支援の考え方本人との関わり方について学ぶ。
〇支援場面を想定した事例検討やロールプレイを盛り込む

◆備品：なし　◆進行案：講義形式

◆科目：【講義と演習⑤】地域を基盤とした相談支援のあり方

◆日時等：11 月 21 日（火） 14:55-16:35（大阪 OMM）研修 100 分

◆登壇者：東洋大学　社会学部社会福祉学科　准教授　加山　弾　氏
氏見市社会福祉協議会　事務局次長　地域福祉・ボランティア推進課長　森脇　俊二

◆学びのポイント：〇インフォーマルな支援をどのように展開していくのか。
〇地域社会から協力者をどのように増やし、地域の活動にどのようにつなげていくのかということについて。
〇コミュニティ・アセスメントの視点を学ぶ

「地域アセスメント」と「個別アセスメント」との違いとして、以下の２つの視点がある。

①（本事例のように）ご本人の支援の幅や社会生活の質向上のために、地域のフォーマル・インフォーマル資源を広くアセスメントする。

②地域の潜在的な課題を含めて広く発掘し、事例と共通する課題をもつ当事者には組織化（居場所づくり、諸活動など）を図る。また、それと同時に、フォーマル・インフォーマル資源の協働を推進する。

◆ステージ：（下手側）机 2 本　加山先生、森脇氏

◆進行

進行時刻	内容
	※直前に事例シート、ワークシート①②を配付する。
14:55-15:00	①プログラムの趣旨説明（5 分）　加山先生 以降、進行＝加山先生
15:00-15:10	②加山先生から地域アセスメントについて講義（10 分）
15:10-15:20	③「事例」の共有（10 分）　森脇氏 事例の簡単な概要を紹介及びﾌｫｰﾏﾙ部分の支援紹介
15:20-15:30	④個人ワーク（10 分）　この事例をどのように診立てるか（アセスメント） 「この世帯の今後の生活を考えるための見立てとそのために必要な情報は？」について、記入する。
15:30-15:40	⑤グループミーティング（10 分） 6 人グループで共有する。
15:40-15:50	⑥個人ワーク（１０分） 「見立てから考えられるインフォーマル支援は？」
15:50-16:10	⑦グループミーティング（20 分） 6 人グループで共有する。
16:10-16:20	⑧グループ発表（10 分）
16:20-16:30	⑨事例の解説（10 分）森脇氏 提示した事例のｲﾝﾌｫｰﾏﾙ部分の紹介と地域を基盤とした相談支援のﾎﾟｲﾝﾄについて紹介
16:30-16:35	⑩講師まとめ（5 分）加山先生

【後期】相談支援員養成研修（第２回）　学びの見取り図

平成29年度【後期】相談支援員養成研修　学びの見取り図

	科目	講師	“きちんと” 丁寧な相談支援			“ずっと” 切れ目のない支援				“みんなで” チームによる支援			“つながる・つくる” 社会資源の活用と開発		
			包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成	支援のコーディネートと適切な支援の提供	信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援	ストレングスに着目した本人主体の支援	アウトリーチによる発見・支援	寄り添いながらの包括的、継続的支援	定着支援や終結後のフォローアップ	見守りのネットワークの構築	主任相談支援員、就労支援員との協働	関係機関との連携、協働	自立相談支援事業と生活事業との一体的支援	関係機関・者とのネットワークの構築	各種制度や地域資源に関する情報収集と活用	働く場、参加する場の開拓
1日目	**【講義と演習①】個別支援の基本**	日本大学　後藤 広史 氏 聖隷福祉事業団　上原 久 氏	○	○	○	○	○	○								
1日目	**【講義と演習②】アウトリーチの考え方**	厚生労働省　菊地 英人 氏 豊中市社会福祉協議会 勝部 麗子 氏 抱樸　中間 あやみ 氏	○			○	○					○		○	○	
2日目	**【講義と演習③】多機関との連携のあり方**	聖隷福祉事業団　上原 久 氏 文京学院大学　長竹 和夫 氏 新栄会　小林 悦子 氏 国立市役所　森 幸雄 氏									○	○	○	○	○	○
2日目	**【講義と演習④】援助関係をつくりにくい人への支援**	厚生労働省　日詰 正文 氏	○	○	○	○		○								
2日目	**【講義と演習⑤】地域を基盤とした相談支援のあり方**	東洋大学　加山 弾 氏 氷見市社会福祉協議会 森脇 俊二 氏					○	○	○	○				○	○	○
2日目	**【講義と演習⑥】相談支援の展開**	市川市生活サポートセンターぞら(sora) 朝比奈 ミカ 氏 聖隷福祉事業団　上原 久 氏 我孫子市役所　松本 拓馬 氏 文京学院大学　長竹 和夫 氏 同志社大学　空閑 浩人 氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3日目																

【後期】相談支援員養成研修（第 2 回）　研修会の様子

4　【後期】就労支援員養成研修

≪【後期】就労相談支援員養成研修　プログラムシート≫

■期日：12 月 6 日（水）～12 月 8 日（金）　■受講者数：197 名　■会場：中央福祉学院（ロフォス湘南）

■会場の着席形式：机 1 本に 3 人のグループで着席する。3 日間終日机を 2 本合わせたグループ形式で進行。

1,3 日目：地域、所属、年齢、性別を偏りなく、人口規模を合わせる。1,3 日目は同じグループ。

2 日目：地域、所属、年齢、性別、人口規模を偏りなく

■各科目の内容について

◆科目：【講義と演習①】はじめに

◆日時等：12 月 6 日（水）9:15-11:45（90 分）

◆登壇者：【講師】　明治学院大学 教授　新保 美香 氏

◆学びのポイント：〇前期の振り返り

〇生活困窮者自立支援制度における就労支援の内容の確認

〇後期研修の目的

〇「支援を育てる」事例の確認と共有（事前課題に基づき事例を持ち帰る）

◆科目：【行政説明】生活困窮者自立支援制度における就労支援について～労働行政との連携の推進～

◆日時等：12 月 6 日（水）12:45-13:45（60 分）

◆登壇者：【講師】　厚生労働省社会・援護局 地域福祉課生活困窮者自立支援室

室長補佐　米丸　洋　氏

◆学びのポイント：〇労働行政との連携について

〇自立支援部会の議論の動向

◆科目：【講義と演習②】事例紹介、取り組み紹介

◆日時：12 月 6 日（水）14:00～15:30（90 分）

◆登壇者：【コーディネーター】

厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室

生活困窮者対策官　菊地　英人

【報告者】

・江別市社会福祉協議会　くらしサポートセンターえべつ　櫻井　耕平　氏

・厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室

主査　藤村　貴俊　氏（京都府京丹後市）

◆学びのポイント：〇具体的な実践事例について学ぶ。

〇研修終了後に各自でどのようなことに取り組めるかを検討する。

◆ステージレイアウト：（下手）菊池氏（スクリーン）櫻井氏、藤村氏（上手）

◆備品：各受講者に青と赤の付箋を１冊、グループにＡ３「目標シート」、プロッキー

進行：

進行時刻	内容
14:00～14:05	1　導入:趣旨説明及び登壇者紹介（5分） ※付箋の使い方…講師の講義を聞きながら、各自で付箋に「参考になったこと」（青)、「今の自分や地域では難しいと感じたこと」（赤）を記入する。
14:05～14:45	2　櫻井さん、藤村さんの取組紹介（お一人20分×2　計40分）
14:45～15:00	3　グループワーク①（15分） ・情報交換（各自の取組内容や課題の共有、付箋に記載した内容のシェア）
15:00～15:10	4　グループワーク②（10分） ・グループ全員が研修終了後に現場に戻ってから取り組むことができる目標を設定し、目標シートへ記入。
15:10～15:20	5　グループ発表（10分） ・時間の許す限り、数グループから設定した目標について発表。
15:20～15:30	6　まとめ（10分） ・講師より受講者へメッセージ

◆日時等：12月6日（水）15:45～17:45（120分）

◆登壇者：【コーディネーター】九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏

【報告者】・釧路社会的企業創造協議会　副代表　櫛部 武俊 氏

・鳥取県北栄町福祉事務所長　西尾　浩一　氏

◆学びのポイント：〇就労支援を通じた地域づくりの考え方と実践を学ぶ。

◆ステージレイアウト：（下手）加留部氏（スクリーン）櫛部氏、西尾氏（上手）

進行案（仮）：実践発表（各30分×2人＝60分）

質疑応答

ミニシンポジウム

◆科目：【講義と演習④】アウトリーチの実際と危機管理

◆日時等：12月7日（木）9:10-11:20（130分）

◆登壇者：【講師】　NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事　谷口 仁史 氏

◆学びのポイント：〇アウトリーチの実際

〇危機管理の視点など

◆科目：【講義と演習⑤】多様なプログラムづくり

◆日時等：12 月 7 日（木）11:35-12:15（40 分）講義　／　13:05-14:05（60 分）講義

◆登壇者：【講師】　沖縄県労働者福祉基金協会　那覇市パーソナルサポートセンター
統括責任者　名嘉　泰　氏

◆学びのポイント：〇プログラム作りの方法や考え方
〇スモールステップを意識した支援の考え方
〇就労準備支援事業所との連携についても触れる

◆科目：【講義と演習⑥】就労支援と自治体の役割

◆日時等：12 月 7 日（木）14:15～15:55（100 分）

◆登壇者：【コーディネーター】九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏
【報告者】・A’ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター）就労支援室　室長　西岡 正次 氏
・大阪府福祉部地域福祉推進室社会援護課 生活支援グループ主査　津﨑 信吾 氏

◆学びのポイント：〇自治体が行う就労支援の現状と強みについて。
〇就労訓練事業との連携についても触れる。

(例)訓練事業所に人材を送り出した後にすべきことについて考える演習とすることも考えられる。
なお、訓練事業所がない受講生の場合には、企業体験やインターンの場合で検討する。

◆進行

進行時刻	内容
	※講義前にアンケート配布
14:15～14:55（40 分）	講義「就労支援と自治体の役割」（西岡氏）
14:55～15:15（20 分）	グループ討議　「就労支援員の役割　今後の課題を探る」 各自アンケートの内容を披露しながら、講義内容を参照しながら議論する。 アンケートでは、就労支援員の日常活動の現状を類型化して質問します。 一方、講義では、自治体の就労支援の現状を整理してみます。以上を踏まえ、グループ討議では、就労支援員の役割、自治体の役割、今後の課題を話し合ってもらいます。
15:15～15:45（30 分）	（事例報告）「大阪府と府内市町村が共同で進める就労支援」（津﨑氏）
15:45～15:55（10 分）	質疑とアンケート記入・提出 最後に、講義２つ、グループ討議を含め、このコマ全体に関する感想、疑問、意見等を記入してもらって、回収します。

◆科目：【講義と演習⑦】支援関係の構築

◆日時等：12 月 7 日（木）16:10-17:35（85 分）

◆登壇者：【コーディネーター】厚生労働省社会・援護局 地域福祉課生活困窮者自立支援室
自立支援企画調整官　鏑木 奈津子 氏
【報告者】・東近江圏域　働き・暮らし応援センター“Tekito-”センター長　野々村　光子　氏

・沖縄県労働者福祉基金協会　那覇市パーソナルサポートセンター
統括責任者　名嘉　泰 氏

◆講義・演習のねらい：＜テーマ＞　支援員と相談者の関係性の構築に向けた関わり方
＜目標＞　就労意欲が低い人、支援員との関係性が構築できにくい（と支援員が感じている）人との関わり方や関係性の作り方。

◆ステージレイアウト：（下手）鏑木氏、名嘉氏、野々村氏

◆進行

進行時間	内容
１６：１０－ １６：１３	１．導入：ねらいの説明　（３分） ・スライドに基づき鏑木が説明。
１６：１３－ １６：１８	２．登壇者自己紹介　　（５分） ・スライドに書かれている 2 点についてお一人 2 分程度で自己紹介
１６：１８－ １６：５０	３．支援のあり方を考える①　（３０分） ・インシデントにもとづき、受講生に対応を検討してもらい、最後に名嘉氏、野々村氏であればどうするかお話いただく。 ①「インシデント」の説明（５分） ②個人での検討（３分） ③チームによるわかちあい（５分） ④名嘉氏のお話（５分）→野々村氏のお話（５分） ⑤会場からの質問（５分） ４．就労に向けたモチベーションを高めるために「支援に生かせる３つのポイント」野々村氏の講義＋バズ等（２０分）
１６：５０－ １７：１０	①野々村氏の講義（１５分程度） 「支援に生かせる３つのポイント」として、就労意欲が低い方や、準備が必要な方への支援にあたりポイントとなることを３つに絞り、お話していただく。 ②参加者バズセッション（５分） 野々村氏のお話における「気づき」をチームで共有する。 ５．就労に向けたモチベーションを高めるために「支援に生かせる３つのポイント」名嘉氏の講義＋バズ（２０分）
１７：１０－ １７：３０	①名嘉氏の講義（１５分程度） 「支援に生かせる３つのポイント」として、就労意欲が低い方や、準備が必要な方への支援にあたりポイントとなることを３つに絞り、お話していただく。 ②参加者バズセッション（５分） 名嘉氏のお話における「気づき」をチームで共有する。

１７：３０－ １７：３５	６．まとめ　（５分） ・鏑木氏が名嘉氏、野々村氏のご講義の全体を振り返ってのまとめ。テキストの内容を踏まえて解説。

◆科目：【講義と演習⑧】就労支援における出口づくり　出口支援（対地域、自治体、企業）
～企業開拓の方法

◆日時等：12 月 8 日（金）9:15-11:30（135 分）

◆登壇者：【コーディネーター】明治学院大学　教授　新保 美香 氏
【報告者】一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事　渡辺　ゆりか 氏

◆学びのポイント：〇企業開拓の手法について
・企業の選出、本人のプロフィールシートや顔合わせの方法について

◆進行

分		内容	テキスト	演習
10	1	生活困窮者の就労支援における基本姿勢	〇	
9:15 ー 9:25		◇理念： 生活困窮者を社会にとって「なくてはならない人」と捉える就労支援 ◇基本姿勢 ① 本人を変えない、「環境」を合わせる ② 企業と本人の「文化」を大切にする ③「働きたい」という想いを叶えるために「生活支援」も視野に入れる	・解説資料（PP）	
15	2	「環境支援型」就労支援の流れの説明	〇	
9:25 ー 9:40		①インテークによる動機付け ②面談等による本人アセスメント ③プロフィールシートの作成（本人アセスメントの落とし込み） ④企業選択（ハローワーク訪問）と企業開拓 ⑤企業訪問による企業文化のアセスメント ⑥顔合わせによる環境支援の調整（実習シートの作成） ⑦実習等による最終調整 ⑧定着支援	・従来型キャリア支援と環境支援型の違い（解説） ・企業文化チェックシート	
35	3	本人のアセスメント		〇
9:40 ー 10:15		①本人のアセスメント a. 困難さの見極め ／ b. ストレングスの発見 ／ c. 生活環境のチェック ②プロフィールシートの作成 ③企業文化の見極め		・７つの困難タイプ ・生活支援チェックリスト ・プロフィールシート ・ストレングス発見シート ・企業文化見極めシート
30	4	企業開拓と企業アセスメント		〇
10:15 ー 10:45		①企業選択の方法（優先順位のつけかた） ②企業開拓トークの作成 ③４つの企業文化の見極め（企業訪問）		・企業事例（表紙） ・トークマニュアル ・企業事例（内容） ・企業文化チェックシート
5		休憩		

25	5	マッチングと環境設定　～企業と本人の文化を大切にした環境支援～		○
10:50 ー 11:15		①ストレングスから見る業務の選択 ②業務から見た本人の困難抽出 ③環境設定のアイディア出し		・情報出しシート＆ふせん ・環境設定対応表
11:15 ー 11:30	6	まとめ		

◆科目：【講義と演習⑧】就労支援における出口づくり　出口支援（対地域、自治体、企業）
～企業開拓の方法

◆日時等：12 月 8 日（金）12:30-13:45（75 分）

◆登壇者：【コーディネーター】明治学院大学　教授　新保 美香 氏
【報告者】東近江圏域　働き・暮らし応援センター　“Tekito-”
センター長　野々村　光子　氏
主任補佐　辻村 達久　氏　（途中から登壇　⇒野々村氏より紹介）

◆学びのポイント：〇企業支援の視点について
〇企業との関わり方について

◆科目：【講義と演習⑩】研修全体のまとめ

◆日時等：12 月 8 日（金）14:00-16:00（120 分）

◆登壇者：明治学院大学　教授　新保 美香 氏
九州大学　客員准教授　加留部 貴行 氏

◆学びのポイント：総合演習　受講者自ら就労支援を組み立てる

◆備品：付箋（各自 赤・青 1 冊ずつ）、模造紙（6 人グループ 1 枚）、プロッキー（6 人グループ 1 つ）

◆進行

進行時刻	内容
	1．導入　趣旨説明（10 分） 2．振り返り演習（合計 35 分） ①個人ワーク（10 分）支援検討シートに支援を育てるシートの内容を追記する ②個人ワーク（10 分）1 年後、半年後、3 か月後の見通し記入（各 3 分×3 回） ③グループワーク（15 分）支援の見通し（タイムマシーン法）を 3 名で共有

	３．これからに向けた演習（ワールドカフェ方式）（合計 75 分） テーマ：これからの就労支援であなたが踏み出したい第一歩は何ですか？ ①グループワーク 1（20 分）模造紙に記入 ②グループワーク 2（20 分）一人を残して他グループに移動して模造紙に記入 ③グループワーク 3（15 分）グループに戻り、情報を共有して模造紙に記入 ④個人ワーク（5 分）「あなたが持ち帰って、他職員に伝えたいキーワードは何ですか」を付箋に記入 ⑤講師まとめ（15 分）

生活困窮者自立支援制度における就労支援

生活困窮者の多くは、多様で複合的な課題を抱え、自尊感情や自己有用感を喪失している。
このため、本制度における就労支援は、常に本人を起点とし、

- 就労の意義への理解の支援から、生活面や福祉面での支援までも含めた、包括的な支援の一環として展開する。
- 本人の状態に合わせ、必要に応じてステップアップも意識しながら支援する。

⇒ 就労支援員自身も、自分の強みを理解し、弱みを補うためにノウハウを学び、考え、実践する。

“きちんと”

丁寧な相談支援

- 包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成
- 信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援
- ストレングスに着目した支援
- 就労意欲の喚起

“みんなで”

チームによる支援

- 主任相談支援員、相談支援員との協働
- 就労準備支援事業等の活用
- ハローワークその他の関係機関・者との協働

“ずっと”

切れ目のない支援

- アウトリーチによる発見・支援
- 多様なプログラムの用意
- 個別のニーズに応じた職業紹介
- 定着支援と企業支援

“つながる・つくる”

社会資源の活用と開発

- 関係機関・者のネットワークの構築
- 企業との関係づくり
- 中間的就労や実習場所等の開拓
- 居場所づくり
- 町おこし、地域づくり

平成29年度 【後期】就労支援員養成研修　学びの見取り図

	科目	講師	“きちんと” 丁寧な相談支援				“みんなで” チームによる支援			“ずっと” 切れ目のない支援				“つながる・つくる” 社会資源の開発				
			包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成	信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援	ストレングスに着目した支援	就労意欲の喚起	主任相談支援員、相談支援員との協働	就労準備支援事業等の活用	ハローワークその他の関係機関・者との協働	アウトリーチによる発見・支援	多様なプログラムの用意	個別のニーズに応じた職業紹介	定着支援と企業支援	関係機関・者のネットワークの構築	企業との関係づくり	中間的就労や実習場所等の開拓	居場所づくり	町おこし、地域づくり
1日目	【講義と演習①】 はじめに	明治学院大学　新保美香氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【行政説明】 生活困窮者自立支援制度における就労支援について ～労働行政との連携の推進～	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 米丸洋氏							○			○	○	○	○	○		
	【講義と演習②】 事例紹介、取り組み紹介	・厚生労働省　菊地英人氏 ・江別市社会福祉協議会　櫻井耕平 氏 ・厚生労働省　藤村貴俊氏	○			○			○		○	○		○		○	○	
	【講義と演習③】 就労支援を通じた地域づくり	・九州大学　加留部貴行氏 ・釧路社会的企業創造協議会 　櫛部武俊氏 ・鳥取県北栄町福祉事務所長 　西尾浩一氏					○	○	○					○	○	○	○	○
2日目	【講義と演習④】 アウトリーチの実際と危機管理	NPOスチューデント・サポート・フェイス 谷口仁史氏		○		○				○	○	○		○				
	【講義と演習⑤】 多様なプログラムづくり	沖縄県労働者福祉基金協会 那覇市パーソナルサポートセンター 名嘉泰氏		○	○	○					○	○						
	【講義と演習⑥】 就労支援と自治体の役割	・九州大学　加留部貴行 氏 ・A'ワーク創造館　就労支援室 　西岡正次氏 ・大阪府福祉部地域福祉推進室 　社会援護課　津崎信吾氏						○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	【講義と演習⑦】 支援関係の構築	・厚生労働省　鏑木奈津子氏 ・東近江圏域　働き・暮らし応援センター 　野々村光子氏 ・沖縄県労働者福祉基金協会 　那覇市パーソナルサポートセンター 　名嘉泰氏	○	○	○	○												
3日目	【講義と演習⑧】 就労支援における出口づくり 出口支援～企業開拓の方法	・明治学院大学　新保美香氏 ・草の根ささえあいプロジェクト 　渡辺ゆりか氏							○		○	○	○		○	○		
	【講義と演習⑨】 就労支援における出口づくり 出口支援～企業へのアプローチ	・明治学院大学　新保美香氏 ・東近江圏域　働き・暮らし応援センター 　野々村光子氏									○	○	○		○	○		
	【講義と演習⑩】 研修全体のまとめ	・明治学院大学　新保美香氏 ・九州大学　加留部貴行氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【後期】就労支援員養成研修　研修会の様子

5　就労準備支援事業従事者養成研修

≪就労準備支援事業従事者養成研修　プログラムシート≫

■期日　10 月 10 日（火）～13 日（金）　　■受講者数　134 名　　■会場　タイム 24 ビル（4 日間）

■会場の着席形式　最小単位を 3 人のグループとして、2 つのグループ（計 6 人）で着席する。

■各科目の内容について

◆科目：【講義①】生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の基本的な考え方

◆日時：＜1 日目＞ 10/10（火）13：50～14：35（45 分）

◆登壇者：　厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課　生活困窮者自立支援室
　　室長補佐　米丸　洋氏

◆学びのポイント：〇生活困窮者自立支援制度の創設背景、理念、事業概要等について簡単に説明する
　　〇就労準備支援事業の目的と必要性を理解してもらうとともに、支援の内容と流れを説明する。
　　〇無料職業紹介について説明する。
　　〇社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会の動向について解説する。

◆科目：【講義と演習②】就労準備支援担当の役割と基本姿勢

◆日時：＜1 日目＞ 10/10（火）　14：35～15：35　（60 分）

◆登壇者：厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課　生活困窮者自立支援室
　　生活困窮者対策官　菊地　英人氏

◆学びのポイント：〇研修全体の流れと学びの全体像を示し、研修に向けた動機付けを行う。
　　〇担当者が生活困窮者自立支援制度に携わる支援員の心構えや基本倫理、基本姿勢を演習等を通じて具体的に説明する。

◆科目：【講義③】これまでの取組実績と考え方

◆日時：＜1 日目＞10/10（火）　15:35～16:20（45 分）

◆登壇者：釧路社会的企業創造協議会　副代表　櫛部　武俊氏

◆学びのポイント：〇生活保護行政から生活困窮者制度に至るこれまでの取組と、その中で見えてきた就労準備支援事業の役割や意義について説明する。
　　〇就労準備支援事業の基本的考え方や姿勢を理解すするセッションとする

◆科目：【事例発表④】本人の状態像に応じた支援のあり方

◆日時：＜1 日目＞ 10/10（火）　16：30～17：50（80 分）

◆登壇者：【コーディネーター】
　　厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課　生活困窮者自立支援室
　　自立支援専門調査員　石原　隆司氏
　　【実践報告者】
　　・岩見沢市生活サポートセンターりんく　センター長　湯澤　真吾　氏
　　・浦安市 健康福祉部 社会福祉課　課長補佐　梅澤　岳　氏

◆学びのポイント：〇各地の取組を紹介。
〇事例紹介を通じて、自分達の実践において不足している視点に気付き、参考にできる点は新たに取り入れるきっかけとなるセッションとする。

◆科目：【講義と演習⑤】本人の特性に応じた支援の在り方
◆日時：＜2 日目＞ 10/11（水） 9：40～14：35（研修 220 分＋休憩 15 分＋昼食 60 分）
◆登壇者：NPO スチューデント・サポート・フェイス　代表理事　谷口　仁史氏
◆学びのポイント：〇ひきこもりだった若者等を含めた支援の在り方や支援の視点について学ぶ。
〇支援の過程における、アセスメントの方法について説明する。

◆科目：【講義⑥】対象者別の特性理解（１）
◆日時：＜2 日目＞ 10/11（水） 14：50～15：50 （60 分）
◆登壇者：レター・ポスト・フレンド　相談ネットワーク　理事長　田中　敦氏
◆学びのポイント：〇４０代、５０代のいわゆる大人のひきこもりの人の状況特性を理解する。
〇心理状況やひきこもりに至るプロセスを理解する。
〇ひきこもり脱却に向けた支援の方法やその現場の実態などを理解する。

◆科目：【事例発表⑦】
◆日時：＜2 日目＞ 10/11（水） 16：00～17：10（70 分）
◆登壇者：【コーディネーター】
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室
生活困窮者対策官　菊地　英人 氏
【実践報告者】
社会福祉法人　すいせい　中川　英治　氏
社会福祉法人　虹の会　就労準備支援　ホップ　管理者　藪内　正子氏
◆学びのポイント：〇障害特性を踏まえた支援について理解を深める。
〇障害者支援と困窮者支援における支援の視点の共通点や相違点について理解する。
◆進行

進行時刻	内容
16:00～16:05	１　導入:趣旨説明及び登壇者紹介（5 分）
16:05～16:45	２　登壇者の取組紹介（お一人 20 分×2　計 40 分） ・自治体概況、法人の紹介 ・就労準備支援事業の取組内容 ・障害特性を踏まえた支援（事例を挙げて紹介） ・障害が疑われる方の支援において注意すべき点など

16:45～17:05	３　インタビュー及び補足（お一人 10 分×2　計 20 分） ・コーディネーターよりお二人に質問 ・お二人より補足したいことがあれば追加で紹介
17:05～17:10	４　まとめ（5 分）

◆科目：【講義⑧】支援関係の構築Ⅰ

◆日時：＜3 日目＞ 10/12（木） 9：40～11：00（80 分）

◆登壇者：明治学院大学　教授　新保　美香氏

◆学びのポイント：〇支援関係の構築が全ての支援プロセスにおいて必須であることを理解する。
〇就労意欲の喚起に向けた働きかけの方法や担当者の姿勢を説明する。

◆科目：【講義と演習⑨】支援関係の構築Ⅱ

◆日時：＜3 日目＞ 10/12（木） 11：45～14：10（研修 115 分＋昼食 60 分）

◆登壇者：【コーディネーター】
明治学院大学　教授　新保　美香氏
【実践報告者】
・那覇市パーソナルサポートセンター　統括責任者　名嘉　泰　氏
・NPO スチューデント・サポート・フェイス　　代表　谷口　仁史　氏

◆学びのポイント：〇就労自立の前段階にいる人、まだ就労意欲が低い等、就労に向けた準備がほとんど整っていない段階の人への支援のあり方について理解する。

◆進行

進行時刻	内容
11:15～11:17	１．導入：ねらいの説明　（2 分） ・スライドに基づき新保先生が説明。
11:17～11:25	２．登壇者自己紹介　　（8 分） ・スライドに書かれているテーマに沿ってお一人 2 分程度で自己紹介 ・名嘉氏 → 谷口氏 → 新保先生の順番。
11:25～11:45	３．支援のあり方を考える①　（20 分） ・インシデントにもとづき、受講生に対応を検討してもらい、最後に名嘉氏・谷口氏だったらどうするかお話いただく。 ①「インシデント 1」の説明（2 分） ②個人での検討（3 分） ③ チームによるわかちあい（5 分） ④ 名嘉氏のお話（5 分）→谷口氏のお話（5 分）

11:45～12:05	４．支援のあり方を考える②　（20 分） ・インシデントにもとづき、受講生に対応を検討してもらい、最後に名嘉さん・谷口さんだったらどうするかお話いただく ①「インシデント２」の説明（2 分） ②個人での検討（3 分） ③チームによるわかちあい（5 分） ④名嘉氏のお話（5 分）→谷口氏のお話（5 分）
12:05～13:05	＜＜昼食休憩＞＞
13:05～13:35	５．就労に向けたモチベーションを高めるために：名嘉氏の講義＋バズ等（25 分） ①名嘉氏の講義（20 分） 「支援に生かせる３つのポイント」として、就労意欲が低い方や、準備が必要な方への支援にあたりポイントとなることを３つに絞り、お話していただく。 ②参加者バズセッション（5 分） 名嘉氏のお話における「気づき」をチームで共有する。
13:35～14:00	６．就労に向けたモチベーションを高めるために：谷口氏の講義＋バズ（25 分） ①谷口氏の講義（20 分） 「支援に生かせる３つのポイント」として、就労意欲が低い方や、準備が必要な方への支援にあたりポイントとなることを３つに絞り、お話していただく。 ②参加者バズセッション（5 分） 谷口氏のお話における「気づき」をチームで共有する。
14:00～14:10 終了	７．まとめ　（10 分） ・登壇者が、全体を振り返っての、まとめのコメントを伝える。 名嘉氏　→　谷口氏　→　新保先生

◆科目：【事例発表⑩】支援メニューの開発

◆日時＜3 日目＞10/12（木）14:25～16:30（125 分）

◆登壇者：【コーディネーター】

厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室

室長補佐　米丸　洋　氏

【実践報告者】

・一般社団法人パーソナルサポートセンター理事：立岡　学　氏

・京都自立就労サポートセンター　主任自立就労支援相談員　高橋　尚子　氏

◆学びのポイント：〇企業開拓の手法及び実施するにあたってのポイントを理解する。

（就労体験の場所や実習先の発見・開拓において工夫している点など）

〇支援メニューの開発において企業ニーズや本人の状態を踏まえたメニュー開発において工夫している点などを学ぶ。

進行：

進行時刻	内容
14:25～14:30	１．講演者紹介（５分）（コーディネーター　米丸氏より）
	２．実践発表（90 分）
14:30～15:15	①立岡氏の講義（45 分）
15:15～16:00	②高橋氏の講義（45 分）
16:00～16:30	３．質疑・意見交換（30 分） （質疑の内容について） ◎地域企業との信頼関係の構築について（手法・工夫している点など）（立岡氏、高橋氏） ◎企業の方に対象者を理解してもらうために工夫していること（立岡氏、高橋氏） 〇ハローワークとの連携状況について（立岡氏、高橋氏） 〇キャリコンやジョブカードの活用状況やメリットについて（立岡氏） 〇震災時における支援と困窮制度における支援の連携のあり方について （立岡氏） 〇合宿型就労体験を実施するメリット、工夫している点（高橋氏） 〇自立相談支援事業と就労準備支援事業との連携について（高橋氏） →　自立と準備で実施主体が異なる場合どのように連携・役割分担を図っているか ・　対象者の特性、ステップアップの状況把握など情報共有の方法 ・　自立相談支援事業実施機関と就労準備支援事業実施機関との役割分担 ※上の二つ（◎部分）を中心に議論し時間があれば他の議題についても議論を行う ※時間があればフロアからの質問を受ける

◆科目【講義と演習⑪】本人の状態に応じた多様なメニュー開発

◆日時：＜3 日目＞10/12（木）16：45～18：25（100 分）

◆登壇者：沖縄県おしごと応援センター One×One（ワンバイワン）

次長 兼 パーソナル・サポーター　岡野　みゆき　氏

◆学びのポイント：〇就労準備支援プログラムの作成と多様な支援メニューの準備と開発について学ぶ。

〇対象者の状態に合わせた支援メニューの必要性について理解する。

◆科目：【講義と演習⑨】4 日間の振り返りとまとめ

◆日時：＜4 日目＞ 10/13（金） 9：10～12：15（研修 170 分＋休憩 15 分　計 185 分）

◆登壇者：明治学院大学　教授　新保　美香氏

NPO スチューデント・サポート・フェイス　　代表　谷口　仁史　氏

生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業

生活困窮者の多くは、多様で複合的な課題を抱え、自尊感情や自己有用感を喪失している。
このため、常に本人を中心としながら、

- 就労の意義への理解の支援から、生活面や福祉面での支援までも含めた、日常生活自立・社会生活自立・就労自立に関する支援を行う。
- 本人の状況に応じた多様な支援メニューを用意し、必要に応じてステップアップを意識しながら支援を展開する。

⇒ **支援員自身も、自分の強みを理解し、弱みを補うためにノウハウを学び、考え、実践する。**

“きちんと”

丁寧な相談支援

- アセスメントに基づくプログラムの作成
- 信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援
- ストレングスに着目した支援
- 就労意欲の喚起

“ぴったり”

きめの細かい支援

- 本人の状態像に応じた多様なニューの用意
- 職場定着支援
- 居場所づくり

“みんなで”

チームによる支援

- 自立相談支援機関との一体的支援
- 協力関係事業所やハローワーク、地域の企業等との協働

“つながる・つくる”

社会資源の活用と開発

- 関係機関・者とのネットワークの構築
- 企業との関係づくり
- 就労体験場所や実習場所等の開拓

平成29年度　就労準備支援事業従事者養成研修　学びの見取り図

			“きちんと” 丁寧な相談支援				“ぴったり” きめの細かい支援			“みんなで” チームによる支援		“つながる・つくる” 社会資源の活用と開発		
	科目	講師	アセスメントに基づくプログラムの作成	信頼関係の構築、自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援	ストレングスに着目した支援	就労意欲の喚起	本人の状態像に応じた多様なメニューの用意	職場定着支援	居場所づくり	自立相談支援機関との一体的支援	協力関係事業所やハローワーク、地域の企業等との協働	関係機関・者とのネットワークの構築	企業との関係づくり	就労体験場所や実習場所等の開拓
1日目	**生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の基本的な考え方**	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐　米丸　洋　氏					○	○	○	○	○	○	○	○
	就労準備支援担当者の役割と基本姿勢	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏		○	○						○	○		
	これまでの取組実績と考え方	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表　櫛部 武俊 氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本人の状態像に応じた支援のあり方	厚生労働省 生活困窮者自立支援室 自立支援専門調査員　石原　隆司　氏 岩見沢市生活サポートセンターりんく センター長　湯澤　真吾　氏 浦安市 健康福祉部 社会福祉課 課長補佐　梅澤　岳　氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2日目	**本人の特性に応じた支援のあり方**	NPOスチューデント・サポート・ フェイス　代表　谷口　仁史　氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対象者別の特性理解（1）	レター・ポスト・フレンド 相談ネットワーク 理事長　田中　敦氏	○	○	○	○	○	○	○					
	対象者別の特性理解（2）	厚生労働省 生活困窮者対策官　菊地　英人 氏 社会福祉法人　すいせい 中川　英治　氏 社会福祉法人　虹の会 就労準備支援　ホップ 管理者　藪内　正子氏	○	○	○	○	○	○	○					
3日目	**支援関係の構築Ⅰ**	明治学院大学 教授　新保　美香　氏	○	○	○	○								
	支援関係の構築Ⅱ	明治学院大学 教授　新保　美香　氏 NPOスチューデント・サポート・ フェイス　代表　谷口　仁史　氏 那覇市パーソナルサポートセンター 統括責任者　名嘉　泰　氏	○	○	○	○	○	○	○					
	支援メニューの開発	厚生労働省 生活困窮者自立支援室 米丸　洋　氏 京都自立就労サポートセンター 主任就労支援相談員 高橋　尚子　氏 仙台市パーソナル・サポート・センター 理事　立岡　学　氏					○	○	○	○	○	○	○	○
	本人の状態に応じた多様なメニュー開発	沖縄県おしごと応援センター One×One（ワンバイワン） 次長 兼 パーソナル・サポーター 岡野　みゆき　氏					○	○	○			○	○	○
4日目	**4日間の振り返りとまとめ**	明治学院大学 教授　新保　美香氏 NPOスチューデント・サポート・ フェイス　代表　谷口　仁史氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

就労準備支援事業従事者養成研修　研修会の様子

6　家計相談支援事業従事者養成研修

≪家計相談支援事業従事者養成研修　プログラムシート≫

■期日：【第１回】6 月 6 日（火）～9 日（金）　■受講者数：72 名　■会場：全社協・会議室

■期日：【第 2 回】12 月 19 日（火）～22 日（金）　■受講者数：72 名　■会場：全社協・会議室

【第1日目】【第1回】6月6日（火）【第2回】12月19日（火）

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師
12:40～13:20	受付				
13:20～13:40 （20分）	挨拶 オリエンテーション		・厚生労働省挨拶（5分） ・全社協挨拶（5分） ・グリーンコープ講師紹介（5分） ・事務連絡（5分）		
13:40～15:00 （80分）	【講義①】 家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について①	生活困窮者自立支援法と家計相談支援事業の内容、さらに、生活福祉資金貸付制度について理解する	講義形式	○生活困窮者自立支援制度の創設背景、理念、事業概要等について説明する ○家計相談支援事業の目的と必要性を理解してもらうとともに、支援の内容と流れを説明する。 ○自立相談支援事業及び就労準備支援事業等と家計相談支援事業との関係性や連携のあり方について事例を交えながら理解を促す ○生活困窮者自立支援制度に携わる支援員に求められる基本理念、基本姿勢について説明する ○加えて、家計相談支援員が特に配慮すべき、基本姿勢や倫理等について説明する ○厚生労働省の制度担当者および実施主体である社会福祉協議会の担当者から、制度について説明する。	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課　生活困窮者自立支援室 【1回目】 相談支援係長　安蒜　丈範 【2回目】 主査　藤村　貴俊 全国社会福祉協議会　民生部 副部長　伊藤　浩司
	【講義②】 家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について②	生活福祉資金貸付制度について理解する			
15:00～15:15	休憩				
15:15～16:45 （90分）	【講義③－1】 利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解①	多重・過剰債務問題の理解と、給付、適正化による減免、留保等の利用できる制度や法律など自治体との連携について学ぶ	講義形式	○多重・過重債務を理解するために、債務整理等の基礎や多重・過重債務 　問題の要因を説明する ○活用できる各種の減免、給付制度、生活福祉資金の貸付、その他活用 　できる制度等について説明する 【備考】 ○日本総研が参考資料集を作成 ○事例を交えながら弁護士等へのつなぎ方を示し、具体的にイメージできる 　ようにする	野洲市役所　市民生活相談課 課長補佐　生水　裕美　氏
16:45～16:55 （10分）	振り返り				
17:05～18:05 （60分）	交流会				

【第2日目】【第1回】6月7日（水）【第2回】12月20日（水）

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師
9:00～9:30	開場・受付				
9:30～10:30 （60分）	【講義③－2】 利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解②	多重・過剰債務問題の理解と、債務整理の方法やヤミ金対策について理解する。	講義形式	○多重・過重債務を理解するために、債務整理等の基礎や多重・過重債務 　問題の要因を説明する ○活用できる各種の減免、給付制度、生活福祉資金の貸付、その他活用 　できる制度等について説明する 【備考】 ○日本総研が参考資料集を作成→1日目の3限目に実施するので消去 ○事例を交えながら弁護士等へのつなぎ方を示し、具体的にイメージできる 　ようにする	日本司法支援センター 弁護士　馬場　真由子　氏 弁護士　工藤　舞子　氏
※第2日目の10:30以降はグリーンコープ連合が主体となって講義を行う。プログラムの概案は、日程表に記載のとおりである。					

◆講義４「相談者に学ぶ家計相談支援のあり方」～家計相談支援とは何か、その基本的なかたち～

◆日時：第１回　＜2 日目＞　6/7（水）10：40～11：50（70 分）

第２回　＜2 日目＞　12/20（水）10：40～11：50（70 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合　常務理事・生活再生事業推進室長　行岡　みち子氏

講義4 70分）	10:40	～	11:50	1:10	10分	**講義4「相談者に学ぶ家計相談支援のあり方」** **～家計相談支援とは何か、その基本的なかたち～** （1）ビデオ視聴、説明―20分 2017年8月30日社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会に提供した 家計相談支援事業の利用者からのビデオレターの2人を紹介 （2）演習、講義―50分 ①演習（1） ②演習（2） ③講義「家計相談支援とは何か」	行岡

◆科目：【講義⑤-1】家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ～相談者のエンパワーメントを！！～

◆日時：第１回 ＜2 日目＞　6/7（水）12：50～14：40（研修 100 分＋休憩 10 分、計 110 分）

第２回 ＜2 日目＞ 12/20（水）12：50～14：40（研修 100 分＋休憩 10 分、計 110 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡）家計相談支援員 久留米市・大牟田市・みやま市・小郡市家計相談支援員 藤浦 久美 氏

福岡県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡）自立相談支援事務所 主任相談支援員 一丸 直子 氏

グリーンコープ生活協同組合おおいた生活再生相談室相談員 大分県域（姫島村、日出町、九重町、玖珠町）家計相談支援員 大分市・臼杵市・宇佐市・佐伯市・豊後大野市・豊後高田市・由布市家計相談支援員 近澤 和子氏

講義5-1 100分）	12:50	～	13:30	0:40		**講義5「家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ」** **～相談者のエンパワメントを!!～** **5－1【前半】「家計相談支援の前提となる考え方、基本姿勢や心構えを理解する」** （1）講義 ①「2. 前提となる考え方」「（3）基本姿勢」は、事例を交えながら説明。「3. 家計相談のすすめ方」は、3パターンの流れとそれに使用する帳票が分るように説明。	一丸
	13:30	～	13:40	0:10		休憩	
	13:40	～	14:15	0:35		**講義5－1【後半】「家計相談支援の一連の流れを理解する」** （1）講義 ①相談の流れを理解し、各帳票の作成の流れを理解する。 ②「3）電話対応のすすめ方」は読んでおいていただくとする。 ③「（4）初回面談のすすめ方」は、何を意識して家計をききとるのか、何が課題なのか意識しながら、留意事項に繋がるよう説明する。 ④自立相談支援事業所ほかとの連携の仕方や必要性について理解する。	近澤
	14:15	～	14:35	0:20		⑤事例紹介（母子家庭の相談事例）	藤浦
	14:35	～	14:40	0:05		⑥母子家庭等の収入計算の押さえ方を学ぶ	
					△10分	⑦「5. 家計管理・出納管理・金銭管理の違い」⇒講義4へ移動	行岡

◆科目：【講義⑤-2】家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ～相談者のエンパワーメントを！！～

◆日時：第１回 ＜2 日目＞　6/7（水）14：55～16：25（90 分）

第２回 ＜2 日目＞ 12/20（水）14：55～16：25（90 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合　常務理事・生活再生事業推進室長　行岡 みち子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 県域(朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡)家計相談支援員 久留米市・大牟田市・みやま市・小郡市家計相談支援員 藤浦 久美 氏
福岡県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡） 自立相談支援事務所 主任相談支援員 一丸 直子 氏
熊本県域（熊本市、玉名市、水俣市、天草市を除く全域） 家計相談支援員 中島 明美 氏
グリーンコープ生活協同組合おおいた生活再生相談室相談員 大分県域(姫島村、日出町、九重町、玖珠町)家計相談支援員 大分市・臼杵市・宇佐市・佐伯市・豊後大野市・豊後高田市・由布市家計相談支援員 近澤 和子氏
東近江市社会福祉協議会 相談支援課主幹 細野 淳子 氏

講義5－2 90分	14:55	～	15:05	0:10		**講義5－2** **「演習：支援場面における具体的な対応方法」** (1)貸付斡旋が出来ないのに言い張る人 ①ロープレ説明、実演―10分	中島 北島
	15:05	～	15:10	0:05		②演習討議―5分	行岡 細野
	15:10	～	15:15	0:05		③発表―5分	
	15:15	～	15:25	0:10		④まとめ―10分	
	15:25	～	15:55	0:30		(2)家計相談支援の進め方 ①ロープレ説明、実演 ―30分 相談者入室から相談時家計表作成、家計計画表作成まで	一丸 藤浦
	15:55	～	16:05	0:10		②演習討議―10分	行岡 細野
	16:05		16:15	0:10		③発表―10分	
	16:15		16:25	0:10		④まとめ―10分	

◆科目：【講義⑥】家計相談支援の失敗事例の検討～相談時の留意点や連携のあり方～

◆日時：第 1 回 ＜2 日目＞ 6/7（水）16：40～17：30（50 分）
第 2 回 ＜2 日目＞ 12/20（水）16：40～17：30（50 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏
福岡県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡） 自立相談支援事務所 主任相談支援員 一丸 直子 氏(第 1 回)
グリーンコープ生活協同組合おおいた生活再生相談室相談員 大分県域(姫島村、日出町、九重町、玖珠町)家計相談支援員 大分市・臼杵市・宇佐市・佐伯市・豊後大野市・豊後高田市・由布市家計相談支援員 近澤 和子氏(第 2 回)

講義6 50分	16:40	～	16:50	0:10		**講義6「家計相談支援の失敗事例の検討」** **―相談の留意点や連携のあり方―** ①失敗事例1(一度は立て直したが自己管理が出来なかった)失敗事例)失敗事例の説明	一丸 (第1回) 近澤 (第2回)
	16:50	～	16:55	0:05		②演習1 書き込み	行岡 一丸 (第1回) 近澤 (第2回)
	16:55		17:10	0:15		分かち合い	
	17:10		17:30	0:20		発表、まとめ	

◆科目：【実習①】家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表作成

◆日時：第 1 回 ＜3 日目＞ 6/8（木） 9：30～11：15（105 分）
第 2 回 ＜3 日目＞ 12/21（木） 9：30～11：15（105 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏
福岡県域(筑紫郡・糟屋郡)家計相談支援事務所 家計相談支援員 太宰府市・春日市家計相談支援員 北島 千恵 氏(第 1.2 回)
福岡県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡） 自立相談支援事務所 主任相談支援員 一丸 直子 氏(第 1 回)

実習1 105分	9:30	～	9:50	0:20		**実習1「家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表作成」** ①「(2)家計表・キャッシュフロー表の意味と役割」	北島
	9:50	～	10:00	0:10		②「(3)チャレンジ演習」 記入	
	10:00	～	10:05	0:05		感想	
	10:05	～	10:10	0:05		③「2. 家計表の作成」 事例の説明	
	10:10	～	10:20	0:10		家計表への記入	
	10:20	～	10:30	0:10		答え合わせ	
	10:30	～	10:40	0:10		④実習問題 質問記入	一丸 北島
	10:40	～	10:55	0:15		分かち合い	
	10:55	～	11:15	0:20		発表	

◆科目：【実習②】家計表とライフイベント表の作成

◆日時：第 1 回 <3 日目> 6/8（木）11：25～15：05（研修 150 分＋休憩 70 分、計 220 分）

第 2 回 <3 日目> 12/21（木）11：25～15：05（研修 150 分＋休憩 70 分、計 220 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 北九州市家計相談支援員 丸山 恵子 氏

実習2 150分	11:25	～	11:40	0:15		**実習2「家計表とライフイベント表の作成」** ①実習2の進め方と帳票の説明 ②「1. 事例相談者の説明」	丸山
	11:40		12:00	0:20		③「2.相談時家計表の作成」作成	
	12:00	～	12:05	0:05		答え合わせ	
	12:05	～	13:05	1:00		昼食休憩	
	13:05	～	13:25	0:20		④「3. 家計計画表の作成」 説明	
	13:25	～	13:35	0:10		作成	
	13:35	～	13:40	0:05		答え合わせ	
	13:40	～	13:55	0:15		⑤2つの家計表を見て気付いたことを発表(数人)	
	13:55	～	14:05	0:10		休憩	
	14:05	～	14:20	0:15		⑥「4. ライフイベント表の作成」 説明	
	14:20	～	14:35	0:15		作成	
	14:35	～	14:42	0:07		答え合わせ	
	14:42	～	14:52	0:10		⑦グループワーク	
	14:52	～	15:05	0:13		⑧発表、コメント	

◆科目：【実習③-1】キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案

◆日時：第 1 回 <3 日目> 6/8（木）15：20～18：00（160 分）

第 2 回 <3 日目> 12/21（木）15：20～18：00（160 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 北九州市家計相談支援員 丸山 恵子 氏

熊本県域（熊本市、玉名市、水俣市、天草市を除く全域）家計相談支援員 中島 明美 氏

実習3－1 160分	15:20	～	15:50	0:30		**実習3「キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案」** **実習3―1「キャッシュフロー表の作成」** ① キャッシュフロー表の構成説明　～二つの家計表の入力（実習）	中島 （平本）
	15:50	～	16:00	0:10		② キャッシュフロー表の入力説明～自動入力の答え合わせ	
	16:00	～	16:20	0:20		③ 次男のライフイベントの入力	
	16:20	～	16:40	0:20		④ 収入金額の（手入力）の入力～答え合わせ	
	16:40	～	16:50	0:10		⑤支出金額の入力要領の説明	
	16:50	～	17:50	1:00		⑥支出金額の入力　費目の金額修正～答え合わせ（3）･･･個別 ⑦一時的な支出金額の金額入力 ⑧作成したキャッシュフロー表の月末推移の記入と答え合わせ（4）･･･全員 ⑨月末推移を見ながら課題など気付いた事の記入	
	17:50	～	18:00	0:10		⑩月末推移を見ながら課題など気付いた事の発表	

◆科目：【実習③-2】キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案

◆日時：第 1 回 ＜4 日目＞　6/9（金）9：00～10：50（110 分）

第 2 回 ＜4 日目＞ 12/21（金）9：00～10：50（110 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合　常務理事・生活再生事業推進室長　行岡 みち子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 北九州市家計相談支援員　丸山 恵子 氏

グリーンコープ生活協同組合ふくおか生活再生相談室相談員 県域（朝倉郡・三井郡・三潴郡・八女郡）家計相談支援員 久留米市・大牟田市・みやま市・小郡市家計相談支援員　藤浦 久美 氏

グリーンコープ生活協同組合おおいた生活再生相談室相談員 大分県域（姫島村、日出町、九重町、玖珠町）家計相談支援員 大分市・臼杵市・宇佐市・佐伯市・豊後大野市・豊後高田市・由布市家計相談支援員　近澤　和子氏

実習3－2 110分	9:00	～	9:10	0:10		**実習3－2「家計再生プランの立案、貸付けあっせん書の作成」** ①家計再生プラン　説明	藤浦
	9:10	～	9:35	0:25		作成（演習）	
	9:35	～	9:50	0:15		発表とまとめ	
	9:50	～	10:00	0:10		②貸付あっせん書　説明	近澤
	10:00	～	10:25	0:25		作成（演習）	
	10:25	～	10:40	0:15		発表とまとめ	
	10:40	～	10:50	0:10		③感想・質問・応答	

◆科目：【講義⑦】家計相談支援の帳票の書き方、全体の質疑・応答

◆日時：第 1 回 ＜4 日目＞　6/9（金）11：00～12：30（90 分）

第 2 回 ＜4 日目＞ 12/21（金）11：00～12：30（90 分）

◆登壇者：グリーンコープ連合　常務理事・生活再生事業推進室長　行岡 みち子 氏

福岡県域（筑紫郡・糟屋郡）家計相談支援事務所　家計相談支援員　太宰府市・春日市家計相談支援員　北島 千恵 氏

講義7 90分	11:00	～	11:40	0:40		**講義7「家計相談支援の帳票の書き方」** ①「1．相談受付票・申込書A・B」 ②「2．インテーク・アセスメントシート」 ③「3．相談時家計表、4．家計計画表、5．キャッシュフロー表」 ④「6．家計再生プラン」 ⑤「7．支援経過記録シート、8．評価シート」 ⑥「9．貸付あっせん書」	北島
	11:40	～	12:30	0:50		**全体の質疑・応答**	行岡

生活困窮者自立支援制度における家計相談支援員の役割

○ 家計に課題のある人に対し、信頼関係を構築しながら、相談者自身が家計の状況を理解し、家計管理に向けて前向きに取組めるよう支援する。
○ 家計に関する専門的知識に基づき、適切な情報を提供したり、家計表やキャッシュフロー表等の帳票を作成する。
○ 各種帳票を活用し、家計の課題を明らかにし、支援の方向性を整理する。
○ 家計相談支援機関だけでなく、自立相談支援機関や法テラス、多重債務相談窓口、公的給付や減免等の担当部局等と連携する。

“きちんと”

丁寧な相談支援

- 対象者の把握
- 信頼関係の構築
- 本人主体による丁寧なアセスメント
- 家計の現状理解に向けた支援
- 家計管理に向けた意欲喚起

“みんなで”

チームによる支援

- 自立相談支援事業との連携
- 他事業との連携による効果的な支援の推進
- 各種貸付機関との連携
- 法テラスや多重債務相談窓口、消費生活相談窓口など関係機関との連携
- 公的給付窓口（減免等）との連携

“しっかり”

専門的な支援技術の活用

- 一般的な家計の支出額に関する知識の活用
- 家計表やキャッシュフロー表等の作成を通した家計状況の「見える化」
- 各種帳票の読み解きと課題の整理
- 家計の視点からの情報提供や助言
- 債務整理全般や改正貸金業法、消費者安全法等の基礎的把握と活用

平成29年度　家計相談支援事業従事者養成研修　学びの見取り図

				"きちんと"					"みんなで"					"しっかり"				
				丁寧な相談支援					チームによる支援					専門的な支援技術の活用				
日程	講義のポイント		講師	対象者の把握	信頼関係の構築	本人主体による丁寧なアセスメント	家計の現状理解に向けた支援	家計管理に向けた意欲喚起	自立相談支援事業との連携	他事業との連携による効果的な支援の推進	各種貸付機関との連携	法テラスや多重債務相談窓口、消費生活相談窓口など関係機関との連携	公的給付窓口（減免等）との連携	一般的な家計の支出額に関する知識の活用	家計表やキャッシュフロー表等の作成を通じた家計状況の「見える化」	各種帳票の読み解きと課題の整理	家計の視点からの情報提供や助言	債務整理全般や改正貸金業法、消費者安全法等の基礎的把握と活用
1日目	（座学）各種法制度の理解	【講義①】 ○家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について①	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課生活困窮者自立支援室 主査　藤村　貴俊 氏						○	○	○	○	○					
		【講義②】 ○家計相談支援事業の動向と生活福祉資金貸付制度について②	全国社会福祉協議会　民生部 副部長　伊藤 浩司							○	○							
		【講義③－1】 ○利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解①	野洲市役所　市民生活相談課 課長補佐　生水 裕美 氏							○	○	○	○					○
2日目		【講義③－2】 ○利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解②	日本司法支援センター 弁護士　馬場　真由子 氏 弁護士　工藤　舞子 氏									○						
	（演習・グループワーク）相談支援の方法	【講義・演習④】 ○相談者に学ぶ家計相談支援のあり方 ～家計相談支援とは何か、その基本的なかたち～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏	○	○	○								○				
		【講義・演習⑤－1】 ○家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ～相談者のエンパワメントを！！～ 【前半】家計相談支援の前提となる考え方、基本姿勢や心構えを理解する 【後半】家計相談支援の一連の流れを理解する	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 近澤　和子　氏	○	○	○	○	○										
		【講義・演習⑤－2】 ○演習：支援場面における具体的な対応方法	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 藤浦　久美　氏 一丸　直子　氏 中島　明美　氏 北島　千恵　氏 東近江市社会福祉協議会 相談支援課主幹　細野　淳子 氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
		【講義・演習⑥】 ○家計相談支援の失敗事例の検討～相談時の留意点や連携のあり方～	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 近澤　和子　氏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
3日目	（実習）各種帳票の作成	【実習①】 ○家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表作成	グリーンコープ連合 行岡　みち子　氏 北島　千恵　氏 一丸　直子　氏												○	○	○	
		【実習②】家計表とライフイベント表の作成	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏												○			
		【実習③－1】キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏 中島 明美 氏												○	○	○	
4日目		【実習③－2】キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏 藤浦 久美 氏 近澤 和子 氏												○	○	○	
	（座学）各種帳票の役割	【講義⑦】家計相談支援の帳票の書き方 全体の質疑・応答	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 北島 千恵 氏		○	○	○	○							○	○	○	

家計相談支援事業従事者養成研修　研修会の様子

7　都道府県研修に係る担当者研修

≪【前期】都道府県研修に係る担当者研修　プログラムシート≫

■期日：5 月 31 日（水）　■受講者数：60 名　■会場：全社協　灘尾ホール

■受講対象者：都道府県研修の企画検討メンバーおよび予定者

①都道府県の研修担当者 40 名

②国が実施する研修の修了者 20 名

■会場の着席形式　終日 5～6 名のグループ形式で進行（地域、所属、性別を偏りなく）

■各科目の内容について

◆科目：生活困窮者支援における人材養成について

◆時間：　10：40～12：30（110 分）

◆進行：九州大学　客員准教授　加留部 貴行　氏

明治学院大学　教授　新保　美香　氏

《都道府県における研修の取り組み事例発表》

【事例発表】

大阪府 福祉部 地域福祉推進室 社会援護課 生活支援グループ

総括主査　津﨑　信吾　氏

【コーディネーター】

厚生労働省　地域福祉課　生活困窮者自立支援室

自立支援専門調査員　石原　隆司　氏

進行時刻	内容
10：40－10：45　（5 分）	立ち上げ（加留部氏）
10：45－10：55（10 分）	生活困窮者支援における人材養成について（新保氏）
10：55－11：10（15 分）	「都道府県研修実施のための手引」作成経緯、使い方について（バズセッション含む）（加留部氏）
11：10－11：15（5 分）	都道府県研修の実施状況の紹介、事例の紹介（石原氏）
11：15－12：00（45 分）	大阪府の事例報告（津﨑氏）
12：00－12：10（10 分）	質疑応答・まとめ
12：10－12：30（20 分）	午前のまとめ（加留部氏）

◆科目：【講義と演習】効果的な研修の企画立案について

◆時間：　13：30～16：45（研修 180 分、休憩 15 分）

【講師】九州大学　客員准教授　加留部 貴行　氏

進行時刻	内容
13：30－15：00（90 分）	「手引き」P13～P40、P50～54 について解説（バズセッション含む）
15：00－15：15（15 分）	休憩
15：15－16：45（90 分）	ワールドカフェ説明、体験、まとめ

◆個別相談会

◆時間：　16：55～17：55

◆講師：九州大学　　客員准教授　加留部 貴行　氏

　　明治学院大学　　教授　新保　美香　　氏

≪【後期】都道府県研修に係る担当者研修　プログラムシート≫

■期日：1 月 30 日（火）　■受講者数：54 名　■会場：全社協　灘尾ホール

■受講対象者：都道府県研修の企画検討メンバーおよび予定者

①都道府県の研修担当者 37 名

②国が実施する研修の修了者 17 名

■会場の着席形式　終日 4～5 名のグループ形式で進行（地域、所属、性別、研修経験を偏りなく）

■各科目の内容について

◆科目：行政説明

◆時間：11:15～11:30（15 分）

◆登壇者：厚生労働省 社会・援護局　地域福祉課 生活困窮者自立支援室

　　自立支援企画調整官　鏑木　奈津子　氏

◆科目：【講義と演習】実施した研修の振り返り

◆時間：11:30～12:30（60 分）

◆登壇者：九州大学　　客員准教授　加留部 貴行　氏

　　明治学院大学　　教授　新保　美香　　氏

進行時刻	内容
11:30～11:45　(10 分)	振り返り（事前提出課題の結果の全体フィードバック）【加留部先生】
11:45～12:25(20 分×2)	それぞれの取り組みについてペアワーク
12:25～12:30(5 分)	まとめ【加留部先生】

◆科目：【講義と演習】都道府県における研修の取り組みについて

◆時間：13:30～15:00（90 分）

◆登壇者：【コーディネーター】厚生労働省　社会・援護局地域福祉課

　　生活困窮者自立支援室　自立支援専門調査員　石原　隆司　氏

　　【コメンテーター】　九州大学　客員准教授　加留部 貴行　氏

　　明治学院大学　教授　新保　美香　氏

　　【事例発表】　福井県 健康福祉部 地域福祉課 主査　野澤　晴彦　氏

　　東京都 福祉保健局 生活福祉部 生活支援課 主任　金野　佑子　氏

進行時刻	内容
13:30～13:35（5 分）	実践発表の進め方の説明【石原調査員】
13:35～14:00（25 分）	実践報告①【福井県・野澤氏】＊直営 ・研修企画の検討チームの立ち上げについて ・研修企画について実施したアンケートの実施について ・研修について（生活保護ワーカーも参加した研修等） ・研修つくりの苦労、工夫点
14:00～14:10（10 分）	福井県の発表についてバズセッション
14:10～14:15（5 分）	講師からのコメント【加留部先生】
14:15～14:40（25 分）	実践報告②【東京都・金野氏】＊委託（社会福祉法人やまて会） ・研修委託先との関係づくり ・研修について（職種別などの多様なメニュー） ・研修つくりの苦労、工夫点
14:40～14:50（10 分）	東京都の発表についてバズセッション
14:50～14:55（5 分）	講師からのコメント【新保先生】
14:55～15:00（5 分）	まとめ【石原調査員】

◆科目：公開お悩み相談

◆時間：15:15～16:50（95 分）

◆登壇者：九州大学　客員准教授　加留部 貴行　氏

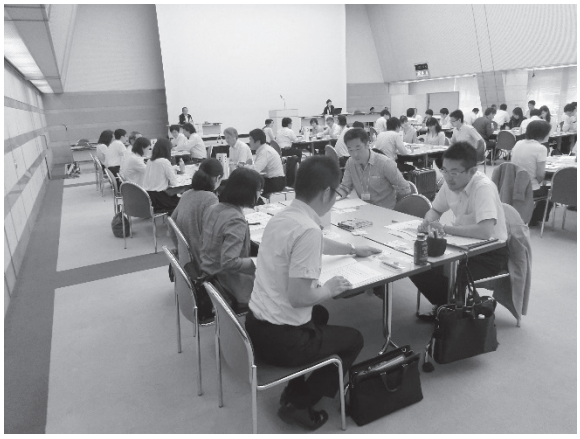
明治学院大学　教授　新保　美香　氏

厚生労働省　社会・援護局地域福祉課　生活困窮者自立支援室

自立支援専門調査員　石原　隆司　氏

進行時刻	内容
15:15～15:35(20 分)	前半のまとめ、振り返り【加留部先生】
15:35～15:50（15 分）	質問だし（ふせん１枚につき１つの質問を参加者に書いてもらう）
15:50～16:35（45 分）	回答【加留部先生、新保先生、石原調査員】
16:35～16:45（10 分）	次年度への申し送りづくり
16:45～16:50（5 分）	まとめ【加留部先生】

都道府県研修に係る担当者研修　研修会の様子



第４章　受講者からの評価

受講者研修事後アンケートの定量評価（5 点満点）を示す。

1　【前期】共通カリキュラム　養成研修

		該当人数	講義① 本後氏	講義② 菊地氏・生水氏	講義③ 渡邊氏・梅本氏	講義と演習④ 新保氏・加留部氏	講義と演習⑤ 和田氏	講義と演習⑥ 原田氏	講義と演習⑦ 新保氏	講義と演習⑧ 朝比奈氏・上原氏・松本氏	研修全般
全体値	平均	273	3.99	4.45	3.87	4.60	4.38	4.59	4.65	4.49	4.49
所属先	①直営・都道府県庁	7	4.00	3.86	3.71	4.43	4.17	4.57	4.67	4.83	4.29
	②直営・市区町村	100	4.02	4.51	3.85	4.58	4.36	4.59	4.63	4.56	4.46
	③社協	119	3.92	4.39	3.84	4.58	4.40	4.59	4.61	4.39	4.50
	④社協以外の社福	3	3.50	4.00	4.25	4.75	4.25	4.25	4.50	4.00	4.25
	⑤社団財団法人	7	4.00	4.86	3.86	4.67	4.43	4.57	5.00	4.43	4.86
	⑥株式会社等	8	4.13	4.63	3.50	4.75	4.63	4.63	4.63	4.63	4.57
	⑦ＮＰＯ法人	17	4.24	4.75	4.19	4.81	4.24	4.60	4.88	4.47	4.56
	⑧協同組合	1	3.00	5.00	3.00	4.00	5.00	5.00	5.00	3.00	4.00
	⑨その他	6	4.33	4.17	4.17	4.67	4.50	4.67	4.83	4.67	4.50
地域の規模	①５万人未満	69	3.82	4.36	3.75	4.52	4.36	4.67	4.66	4.45	4.48
	②５～１０万人	79	4.17	4.41	3.94	4.58	4.33	4.54	4.60	4.51	4.37
	③５～３０万人	70	4.01	4.59	3.96	4.73	4.49	4.62	4.76	4.56	4.63
	④５～５０万人	27	3.93	4.52	3.74	4.38	4.36	4.56	4.40	4.29	4.44
	⑤５～１００万人	11	3.82	4.36	3.60	4.73	4.36	4.18	4.82	4.36	4.55
	⑥１００万人以上	12	4.00	4.42	4.08	4.75	4.25	4.83	4.75	4.50	4.58
経験年数	①１年未満	78	3.84	4.36	3.74	4.52	4.29	4.53	4.58	4.35	4.39
	②１年～３年	69	4.00	4.40	3.91	4.60	4.39	4.64	4.67	4.56	4.47
	③３年～５年	33	4.00	4.55	3.88	4.55	4.55	4.71	4.70	4.60	4.61
	④５年以上	83	4.12	4.53	3.96	4.68	4.37	4.58	4.68	4.51	4.56
【前期】第1回											

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②~10万人	③~30万人	④~50万人	⑤~100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年~3年	③3年~5年	④5年以上
【前期】 第2回	該当人数	234	4	70	111	10	8	1	12	7	6	56	60	66	21	13	13	65	92	27	39
	講義① 本後氏	3.92	4.25	3.82	4.00	3.40	3.63	3.00	4.00	4.29	4.00	3.84	3.92	4.10	3.70	3.69	4.00	4.02	3.96	3.85	3.75
	講義② 菊地氏・生水氏	4.50	4.75	4.49	4.58	4.20	4.38	4.00	4.33	4.67	4.50	4.45	4.46	4.61	4.58	4.62	4.31	4.63	4.58	4.38	4.37
	講義③ 進士氏・梅本氏	3.83	4.25	3.68	3.95	3.50	3.75	3.00	4.00	4.14	3.67	3.85	3.77	3.90	3.70	3.75	4.17	3.98	3.86	3.70	3.71
	講義と演習④ 新保氏・加留部氏	4.61	4.75	4.67	4.56	4.60	4.50	4.00	4.64	4.71	4.83	4.60	4.63	4.56	4.84	4.46	4.58	4.66	4.63	4.68	4.58
	講義と演習⑤ 和田氏	4.31	4.50	4.17	4.46	3.70	4.71	5.00	4.27	4.57	4.00	4.13	4.49	4.35	4.26	4.31	4.33	4.28	4.44	4.46	4.22
	講義と演習⑥ 原田氏	4.71	4.67	4.60	4.82	4.10	4.50	5.00	5.00	4.71	5.00	4.70	4.63	4.72	4.80	4.77	4.83	4.72	4.75	4.71	4.67
	講義と演習⑦ 新保氏	4.71	4.67	4.71	4.73	4.50	4.71	4.00	4.80	4.71	4.83	4.69	4.71	4.73	4.75	4.55	4.78	4.68	4.75	4.77	4.74
	講義と演習⑧ 八木氏・朝比奈氏・上原氏・松本氏	4.33	4.50	4.36	4.32	4.00	4.00	5.00	4.40	4.71	4.60	4.27	4.40	4.44	4.20	3.90	4.44	4.48	4.40	4.27	4.18
	研修全般	4.56	4.50	4.52	4.63	4.30	4.38	4.00	4.60	4.60	4.83	4.48	4.61	4.62	4.56	4.18	4.75	4.56	4.60	4.50	4.54

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5～10万人	③10～30万人	④30～50万人	⑤50～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
【前期】第3回	該当人数	251	10	82	102	10	6	7	14	4	4	61	64	59	31	11	13	65	88	28	52
	講義① 本後氏	3.95	4.10	3.93	3.99	3.88	4.50	3.71	3.69	4.25	4.50	4.12	4.06	3.93	3.53	3.55	4.23	4.03	4.03	3.89	3.90
	講義② 菊地氏・生水氏	4.47	4.40	4.47	4.50	4.38	4.50	4.14	4.46	4.50	4.50	4.58	4.42	4.38	4.48	4.27	4.69	4.45	4.57	4.54	4.34
	講義③ 進士氏･梅本氏	3.80	3.89	3.73	3.88	3.50	4.17	3.83	3.62	3.75	4.25	3.89	3.98	3.67	3.52	3.64	3.92	3.95	3.77	3.82	3.76
	講義と演習④ 新保氏･加留部氏	4.67	4.50	4.72	4.66	4.60	5.00	4.57	4.86	4.75	5.00	4.79	4.63	4.70	4.48	4.55	4.92	4.73	4.73	4.68	4.62
	講義と演習⑤ 和田氏	4.39	4.20	4.47	4.39	4.00	4.50	4.67	4.15	4.00	5.00	4.48	4.38	4.39	4.27	4.20	4.42	4.35	4.44	4.63	4.27
	講義と演習⑥ 原田氏	4.64	4.60	4.61	4.65	4.40	4.67	4.83	4.75	4.50	4.75	4.75	4.61	4.60	4.45	4.40	4.83	4.69	4.70	4.63	4.50
	講義と演習⑦ 新保氏	4.72	4.80	4.83	4.68	4.56	4.20	4.86	4.62	4.75	5.00	4.86	4.74	4.63	4.61	4.50	4.92	4.77	4.74	4.79	4.66
	講義と演習⑧ 八木・朝比奈・上原・松本氏	4.45	4.71	4.47	4.47	4.78	4.00	4.17	4.25	4.50	4.75	4.72	4.54	4.39	4.00	4.00	4.73	4.69	4.56	4.42	4.12
	研修全般	4.57	4.43	4.57	4.54	4.60	4.75	4.57	4.82	4.50	5.00	4.78	4.54	4.51	4.37	4.56	4.75	4.64	4.67	4.48	4.50

2 【後期】主任相談支援員養成研修

		全体値	所属先									地域の規模						経験年数			
		平均	①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5万人～10万人	③10万人～30万人	④30万人～50万人	⑤50万人～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
	該当人数	221	5	77	97	10	8	4	10	1	6	60	69	52	19	6	12	52	52	21	89
【後期】主任	講義と演習① 菊地氏	4.08	4.00	4.22	4.01	4.00	4.25	3.75	4.10	5.00	3.83	4.12	4.06	4.06	4.28	4.17	3.92	4.18	4.10	3.95	4.03
	講義② 和田氏	4.07	4.20	4.12	4.08	3.50	4.50	3.00	4.40	4.00	3.83	4.05	4.08	4.10	4.17	4.17	3.91	4.09	4.12	4.00	4.06
	講義③ 新保氏･加留部氏	4.54	4.40	4.53	4.53	4.40	4.50	4.25	5.00	5.00	4.60	4.55	4.45	4.54	4.79	4.50	4.75	4.44	4.58	4.62	4.56
	講義と演習④ 新保氏･上原氏	4.31	4.20	4.48	4.17	3.90	4.71	4.00	4.30	5.00	4.50	4.20	4.37	4.30	4.26	4.33	4.55	4.20	4.33	4.20	4.38
	講義と演習⑤ 朝比奈氏･上原氏･松本氏	4.32	4.40	4.40	4.22	4.11	4.71	3.75	4.56	5.00	4.50	4.15	4.37	4.27	4.71	4.50	4.40	4.28	4.27	4.15	4.43
	講義と演習⑥ 原田氏･川島氏･勝部氏	4.37	4.25	4.36	4.30	4.20	4.75	4.00	4.90	5.00	4.40	4.40	4.30	4.29	4.47	4.50	4.73	4.24	4.44	4.25	4.41
	講義と演習⑦ 原田氏･川島氏･勝部氏･古市氏･中氏	4.37	4.60	4.41	4.36	3.90	4.43	3.75	4.80	5.00	4.40	4.43	4.29	4.32	4.50	4.67	4.55	4.49	4.40	4.30	4.32
	講義と演習⑧ 原田氏	4.44	4.00	4.44	4.47	3.89	4.83	3.67	4.83	5.00	4.60	4.43	4.31	4.48	4.69	4.80	4.38	4.43	4.44	4.31	4.46
	研修全般	4.40	5.00	4.41	4.35	3.88	4.83	4.50	4.80	5.00	4.50	4.38	4.35	4.33	4.69	4.60	4.70	4.31	4.43	4.25	4.47

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②～10万人	③～30万人	④～50万人	⑤～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
【後期】相談第1回	該当人数	218	6	71	101	8	8	3	14	2	1	60	59	56	19	9	10	44	97	28	39
	講義と演習① 後藤氏・上原氏	4.25	4.33	4.06	4.34	3.88	4.00	5.00	4.46	5.00	5.00	4.37	4.25	4.17	3.89	3.88	4.80	4.20	4.25	4.33	4.08
	講義と演習② 菊池氏・勝部氏・中間氏	4.49	4.50	4.35	4.60	4.25	4.50	5.00	4.31	4.50	5.00	4.58	4.54	4.45	4.06	4.44	4.60	4.57	4.51	4.48	4.27
	講義と演習③ 上原氏・長竹氏・森氏・小林氏	4.24	4.50	4.09	4.33	4.13	4.00	5.00	4.31	4.00	5.00	4.37	4.24	4.23	3.78	4.11	4.70	4.20	4.25	4.36	4.14
	講義と演習④ 日詰氏	4.63	4.50	4.59	4.71	4.00	4.75	5.00	4.71	5.00	5.00	4.71	4.64	4.64	4.26	4.56	5.00	4.55	4.71	4.64	4.53
	講義と演習⑤ 加山氏・森脇氏	4.08	4.00	3.84	4.23	3.86	4.29	5.00	3.86	4.50	5.00	4.24	4.02	4.02	3.72	3.89	4.56	3.93	4.17	4.30	3.80
	講義と演習⑥-1 朝比奈氏・上原氏・松本氏・長竹氏	4.43	4.67	4.29	4.52	4.25	4.13	5.00	4.54	4.50	5.00	4.55	4.52	4.26	4.17	4.22	4.80	4.50	4.43	4.46	4.25
	講義と演習⑥-2 朝比奈氏・上原氏・松本氏・空閑氏・長竹氏	4.38	4.67	4.27	4.43	4.13	3.88	5.00	4.62	5.00	5.00	4.48	4.50	4.26	4.06	4.22	4.40	4.33	4.36	4.56	4.26
	講義と演習⑥-3 朝比奈氏・上原氏・松本氏・空閑氏・長竹氏	4.36	4.50	4.27	4.44	4.13	3.88	5.00	4.64	4.50	5.00	4.45	4.43	4.32	4.00	4.38	4.50	4.23	4.38	4.42	4.35
	講義と演習⑥-4 朝比奈氏・上原氏・松本氏・空閑氏・長竹氏	4.55	4.50	4.50	4.57	4.25	4.57	5.00	4.82	4.50	5.00	4.61	4.69	4.50	4.06	4.33	4.67	4.56	4.52	4.56	4.55
	研修全般	4.43	4.50	4.27	4.51	3.88	4.71	5.00	4.75	5.00	5.00	4.50	4.43	4.42	4.18	4.43	4.70	4.37	4.44	4.68	4.29

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②~10万人	③~30万人	④~50万人	⑤~100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年~3年	③3年~5年	④5年以上
【後期】相談第2回	該当人数	204	6	70	99	10	0	4	6	3	2	72	46	47	17	7	8	18	128	21	29
	講義と演習① 後藤氏・上原氏	4.28	4.83	4.25	4.28	3.60	—	4.50	4.60	4.67	5.00	4.16	4.33	4.35	4.35	4.14	4.38	4.12	4.25	4.38	4.39
	講義と演習② 菊池氏・勝部氏・中間氏	4.47	4.67	4.48	4.48	4.10	—	4.75	4.33	4.67	5.00	4.52	4.43	4.53	4.59	4.00	4.13	4.47	4.45	4.67	4.48
	講義と演習③ 上原氏・長竹氏・森氏・小林氏	4.25	4.83	4.29	4.16	4.10	—	4.75	4.33	4.67	5.00	4.24	4.38	4.35	4.12	4.00	4.13	4.47	4.25	4.15	4.25
	講義と演習④ 日詰氏	4.61	5.00	4.70	4.56	4.00	—	4.50	4.83	4.67	5.00	4.56	4.73	4.57	4.75	4.00	4.63	4.53	4.55	4.71	4.82
	講義と演習⑤ 加山氏・森脇氏	4.18	5.00	4.15	4.21	3.33	—	4.75	3.67	4.67	5.00	4.20	4.12	4.32	4.24	4.00	3.75	4.19	4.15	4.24	4.31
	講義と演習⑥-1 朝比奈氏・上原氏・松本氏・空閑氏・長竹氏	4.32	5.00	4.26	4.31	4.10	—	4.50	4.33	4.67	5.00	4.28	4.38	4.41	4.47	4.14	4.13	4.22	4.33	4.25	4.46
	講義と演習⑥-2 朝比奈氏・上原氏・松本氏・長竹氏	4.35	5.00	4.27	4.32	4.25	—	4.75	4.33	4.67	5.00	4.27	4.45	4.41	4.38	4.29	4.38	4.19	4.39	4.30	4.33
	講義と演習⑥-3 朝比奈氏・上原氏・松本氏・長竹氏	4.32	5.00	4.32	4.30	3.67	—	4.50	4.40	4.67	5.00	4.28	4.44	4.38	4.38	4.00	4.25	4.00	4.39	4.24	4.39
	講義と演習⑥-4 朝比奈氏・上原氏・松本氏・長竹氏	4.46	5.00	4.47	4.43	4.25	—	4.50	4.33	4.67	5.00	4.48	4.49	4.55	4.47	4.43	4.13	4.00	4.47	4.65	4.56
	研修全般	4.51	5.00	4.49	4.46	4.33	—	5.00	4.60	4.67	5.00	4.54	4.60	4.47	4.43	4.29	4.57	4.33	4.51	4.53	4.62

4　【後期】就労支援員養成研修

		該当人数	全体値　平均	所属先									地域の規模						経験年数			
				①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5～10万人	③5～30万人	④5～50万人	⑤5～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
		193		6	51	84	7	10	8	11	7	4	45	51	52	21	8	9	7	98	24	56
【後期】就労	講義と演習① 新保氏		4.26	4.50	4.20	4.36	4.29	4.30	3.63	4.36	4.14	3.50	4.33	4.46	4.37	3.81	3.50	4.11	4.29	4.34	4.33	4.05
	行政説明 米丸氏		3.50	3.67	3.46	3.49	3.57	3.90	3.25	3.60	3.86	2.25	3.65	3.80	3.42	2.81	3.25	3.22	2.71	3.60	3.42	3.40
	講義と演習② 菊池氏・櫻井氏・藤村氏		4.25	4.67	4.37	4.20	4.00	4.33	3.86	4.50	4.43	3.75	4.39	4.43	4.27	4.05	3.57	3.75	4.00	4.33	4.23	4.14
	講義と演習③ 加留部氏・櫛部氏・西尾氏		4.40	4.60	4.41	4.37	4.33	4.50	4.00	4.80	4.71	3.75	4.56	4.50	4.43	4.11	3.75	4.25	4.29	4.51	4.41	4.18
	講義と演習④ 谷口氏		4.69	4.20	4.72	4.69	4.71	4.90	4.50	4.80	5.00	3.75	4.78	4.76	4.62	4.71	4.63	4.33	4.14	4.70	4.86	4.63
	講義と演習⑤ 名嘉氏		4.18	4.00	4.23	4.11	3.71	4.40	4.14	4.44	4.57	4.25	4.21	4.32	4.10	4.30	3.38	4.33	3.86	4.23	4.33	4.06
	講義と演習⑥ 加留部氏・西岡氏・津崎氏		3.91	4.83	3.94	3.90	4.00	4.30	3.50	3.80	4.00	2.50	3.91	4.17	3.98	3.45	3.50	3.67	3.00	3.95	4.00	3.86
	講義と演習⑦ 鏑木氏・野々村氏・名嘉氏		4.46	4.33	4.46	4.50	4.29	4.56	4.25	4.56	4.57	3.33	4.57	4.43	4.55	4.25	4.13	4.25	4.14	4.61	4.36	4.22
	講義と演習⑧ 新保氏・渡辺氏		4.72	4.83	4.60	4.77	4.43	4.80	4.75	4.90	4.86	4.25	4.75	4.82	4.61	4.74	4.50	4.67	4.83	4.75	4.68	4.62
	講義と演習⑨ 新保氏・野々村氏		4.64	4.67	4.58	4.73	4.71	4.38	4.00	4.78	4.57	4.67	4.71	4.62	4.63	4.71	4.38	4.44	4.83	4.73	4.74	4.39
	講義と演習⑩ 新保氏・加留部氏		4.61	4.80	4.65	4.57	4.43	4.63	4.57	4.73	4.83	4.50	4.65	4.63	4.60	4.48	4.38	5.00	4.67	4.65	4.59	4.54
	研修全般		4.53	4.60	4.51	4.57	4.33	4.60	4.13	4.60	4.83	4.00	4.53	4.62	4.62	4.37	4.13	4.38	4.25	4.64	4.45	4.38

5　就労準備支援事業従事者養成研修

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5～10万人	③5～30万人	④5～50万人	⑤5～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
	該当人数	130	1	14	27	19	9	14	32	6	6	30	23	38	13	11	9	46	82	11	9
就労準備	講義①米丸氏	3.81	3.00	3.86	3.96	3.53	4.00	4.14	3.75	3.83	3.67	3.76	3.70	4.03	3.54	3.55	3.78	3.98	3.85	3.73	4.33
	講義②菊地氏	4.41	3.00	4.36	4.56	4.22	4.56	4.29	4.48	4.67	4.33	4.47	4.41	4.42	4.23	4.30	4.56	4.63	4.36	3.70	4.67
	講義③櫛部氏	4.22	4.00	4.36	4.27	4.11	4.00	4.36	4.19	4.50	4.17	4.10	4.09	4.35	4.46	4.00	4.22	4.29	4.15	4.10	4.22
	事例発表④ 石原氏・湯澤氏・梅澤氏	4.43	3.00	4.50	4.61	4.35	4.33	4.33	4.40	4.60	4.17	4.48	4.33	4.44	4.54	4.18	4.17	4.37	4.38	4.00	4.50
	講義と演習⑤谷口氏	4.69	4.00	4.64	4.79	4.65	4.50	4.79	4.66	4.83	4.60	4.74	4.52	4.67	4.69	4.73	4.78	4.74	4.54	4.40	4.67
	講義⑥ 田中氏	3.90	3.00	4.00	4.08	3.71	3.75	3.69	3.81	4.33	4.17	4.03	3.67	4.03	3.77	3.36	3.89	4.16	3.84	3.50	4.56
	事例発表⑦ 菊池氏・中川氏・數内氏	4.03	4.00	4.00	4.21	4.06	3.75	3.92	3.94	4.50	4.00	4.11	3.74	4.22	3.75	3.91	3.78	4.21	4.00	3.50	4.44
	講義⑧新保氏	4.59	4.00	4.71	4.58	4.53	4.71	4.38	4.61	5.00	4.67	4.61	4.43	4.67	4.77	4.20	4.78	4.67	4.53	4.40	4.44
	講義と演習⑨ 新保氏・谷口氏・名嘉氏	4.49	3.00	4.58	4.70	4.42	4.57	4.25	4.45	5.00	4.33	4.50	4.47	4.49	4.54	4.40	4.50	4.64	4.45	3.89	4.67
	事例発表⑩ 米丸氏・高橋氏・ 立岡氏	4.25	3.00	4.31	4.38	3.94	4.14	4.31	4.39	4.20	4.20	4.24	4.21	4.20	4.23	4.50	4.25	4.40	4.23	3.50	4.50
	講義と演習⑪ 岡野氏	4.58	4.00	4.62	4.72	4.56	4.71	4.58	4.48	4.50	4.60	4.61	4.55	4.56	4.54	4.70	4.50	4.64	4.57	4.33	5.00
	講義と演習⑫ 新保氏・谷口氏	4.70	3.00	4.93	4.85	4.42	4.67	4.64	4.65	5.00	4.80	4.72	4.70	4.76	4.77	4.36	4.67	4.80	4.71	4.33	4.67
	研修全般	4.62	3.00	4.62	4.80	4.63	4.63	4.67	4.52	5.00	4.40	4.68	4.57	4.64	4.83	4.18	4.78	4.71	4.62	4.27	4.50

6　家計相談支援事業従事者養成研修

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5～10万人	③5～30万人	④5～50万人	⑤50～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
	該当人数	73	2	12	42	2	1	1	4	4	0	21	18	20	4	2	2	46	16	1	1
【第1回】家計	講義①② 安蒜氏・伊藤氏	3.78	3.00	3.42	3.76	3.00	4.00	5.00	3.50	5.00	–	3.85	3.78	3.60	3.75	4.50	4.00	3.69	3.94	3.00	5.00
	講義③-1 生水氏	4.81	5.00	4.75	4.79	5.00	5.00	5.00	4.75	5.00	–	4.76	4.78	4.85	5.00	5.00	5.00	4.83	4.81	4.00	5.00
	講義③-2 工藤氏・馬場氏	4.24	4.50	4.08	4.27	4.50	4.00	5.00	3.50	5.00	–	4.20	4.17	4.30	4.25	5.00	5.00	4.22	4.44	3.00	5.00
	講義④ グリーンコープ講師	4.28	5.00	3.91	4.29	4.00	5.00	5.00	4.00	5.00	–	4.45	4.22	4.28	4.33	5.00	4.00	4.26	4.47	3.00	5.00
	講義⑤-1 グリーンコープ講師	4.23	3.00	3.82	4.37	4.00	5.00	5.00	3.50	5.00	–	4.53	4.06	4.16	4.33	5.00	4.00	4.26	4.29	4.00	5.00
	講義⑤-2 グリーンコープ講師	4.48	5.00	4.36	4.47	4.00	5.00	5.00	4.50	5.00	–	4.53	4.40	4.60	4.67	5.00	4.50	4.56	4.50	3.00	5.00
	講義⑥ グリーンコープ講師	4.34	5.00	4.25	4.39	4.00	3.00	5.00	3.67	5.00	–	4.47	4.31	4.11	4.50	5.00	5.00	4.41	4.21	3.00	5.00
	実習① グリーンコープ講師	4.38	4.50	4.09	4.41	4.00	4.00	5.00	4.25	5.00	–	4.47	4.25	4.42	4.00	5.00	4.00	4.35	4.38	4.00	5.00
	実習② グリーンコープ講師	4.49	5.00	4.09	4.54	4.50	4.00	5.00	4.25	5.00	–	4.63	4.29	4.56	4.25	5.00	5.00	4.55	4.47	3.00	5.00
	実習③-1 グリーンコープ講師	4.48	5.00	4.27	4.49	4.50	4.00	5.00	4.00	5.00	–	4.44	4.41	4.56	4.50	5.00	5.00	4.59	4.23	3.00	5.00
	実習③-2 グリーンコープ講師	4.25	4.50	3.75	4.29	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	–	4.32	4.18	4.30	3.75	5.00	4.50	4.23	4.31	4.00	5.00
	講義⑦ グリーンコープ講師	4.30	5.00	4.00	4.34	3.50	4.00	5.00	4.25	5.00	–	4.35	4.20	4.32	4.00	5.00	5.00	4.36	4.18	3.00	5.00
	研修全般	4.43	5.00	4.17	4.43	4.00	5.00	5.00	4.00	5.00	–	4.32	4.40	4.55	4.25	5.00	4.50	4.45	4.47	4.00	5.00

		全体値 平均	所属先									地域の規模						経験年数			
			①直営・都道府県庁	②直営・市区町村	③社協	④社協以外の社福	⑤社団財団法人	⑥株式会社等	⑦NPO法人	⑧協同組合	⑨その他	①5万人未満	②5～10万人	③10～30万人	④30～50万人	⑤50～100万人	⑥100万人以上	①1年未満	②1年～3年	③3年～5年	④5年以上
【第2回】家計	該当人数	67	2	8	40	3	1	0	1	7	1	18	22	9	4	9	1	19	41	1	0
	講義① 藤村氏	3.85	5.00	3.88	3.70	4.00	3.00	－	5.00	4.29	3.00	3.89	3.77	4.00	3.00	3.89	4.00	3.95	3.78	2.00	－
	講義② 伊藤氏	4.16	5.00	4.13	4.23	2.50	4.00	－	5.00	4.20	3.00	4.44	4.10	4.25	3.67	3.89	－	4.17	4.16	3.00	－
	講義③-1 生水氏	4.83	5.00	4.88	4.83	3.50	5.00	－	5.00	5.00	5.00	4.94	4.82	4.78	4.67	4.67	5.00	4.74	4.88	5.00	－
	講義③-2 工藤氏・馬場氏	4.37	5.00	4.63	4.30	4.00	3.00	－	5.00	4.29	5.00	4.39	4.33	4.43	4.00	4.33	4.00	4.53	4.32	3.00	－
	講義④ グリーンコープ講師	4.54	5.00	4.88	4.31	4.00	5.00	－	5.00	5.00	5.00	4.50	4.45	4.71	4.33	4.57	5.00	4.74	4.50	2.00	－
	講義⑤－1 グリーンコープ講師	4.37	5.00	4.63	4.17	4.00	4.00	－	5.00	4.83	5.00	4.35	4.26	4.57	3.33	4.67	5.00	4.42	4.38	2.00	－
	講義⑤－2 グリーンコープ講師	4.50	5.00	4.57	4.39	4.50	3.00	－	5.00	4.80	5.00	4.41	4.33	4.86	4.00	4.78	5.00	4.44	4.56	2.00	－
	講義⑥ グリーンコープ講師	4.65	5.00	4.71	4.55	4.00	5.00	－	5.00	5.00	5.00	4.69	4.67	4.75	4.00	4.56	5.00	4.61	4.69	3.00	－
	実習① グリーンコープ講師	4.58	5.00	4.88	4.44	4.00	5.00	－	5.00	4.71	5.00	4.53	4.52	4.86	4.00	4.67	5.00	4.58	4.61	3.00	－
	実習② グリーンコープ講師	4.53	5.00	4.86	4.43	3.50	3.00	－	5.00	4.86	5.00	4.25	4.57	5.00	4.00	4.56	5.00	4.44	4.59	3.00	－
	実習③-1 グリーンコープ講師	4.67	5.00	5.00	4.61	4.00	3.00	－	5.00	4.86	5.00	4.63	4.57	5.00	4.33	4.78	5.00	4.65	4.72	3.00	－
	実習③-2 グリーンコープ講師	4.57	5.00	4.88	4.42	3.50	4.00	－	5.00	5.00	－	4.50	4.47	4.89	4.00	4.57	5.00	4.58	4.57	3.00	－
	講義⑦ グリーンコープ講師	4.28	5.00	4.38	4.19	3.00	4.00	－	5.00	4.50	－	4.24	4.21	4.67	3.67	4.29	4.00	4.39	4.29	2.00	－
	研修全般	4.62	5.00	4.86	4.47	4.33	5.00	－	5.00	4.86	5.00	4.53	4.52	4.88	4.25	4.78	5.00	4.67	4.59	3.00	－

7　都道府県研修に係る担当者研修

		全体値　平均	所属先								立場		
			①行政・市区町村・都道府県	②社協	③社協以外の社福	④社団財団法人	⑤株式会社等	⑥NPO法人	⑦協同組合	⑧その他	①都道府県の研修担当者	②企画検討メンバー	③その他
【第1回】担当者	該当人数	59	41	13	2	3	0	0	0	0	37	7	6
	事例紹介	4.50	4.54	4.15	5.00	4.67	－	－	－	－	4.62	4.71	4.00
	研修の企画立案	4.76	4.64	4.69	5.00	4.67	－	－	－	－	4.75	5.00	4.50
	研修全般	4.70	4.54	4.46	5.00	5.00	－	－	－	－	4.66	4.71	4.40
【第2回】担当者	該当人数	50	36	9	3	2	0	0	0	0	33	8	5
	行政説明　鏑木氏	4.06	4.06	4.00	3.67	5.00	－	－	－	－	4.06	4.13	3.80
	実施した研修の振り返り　加留部氏・新保氏	4.40	4.31	4.56	4.67	5.00	－	－	－	－	4.30	4.75	4.20
	事例発表　石原氏・加留部氏・新保氏・野澤氏・金野氏	4.62	4.69	4.44	4.00	5.00	－	－	－	－	4.73	4.63	4.00
	研修全般	4.43	4.43	4.56	3.67	5.00	－	－	－	－	4.44	4.50	4.00

第５章　研修の評価

１　本研修の特色

企画・運営委員会および各研修企画部会における議論を受けて、次の特色を持たせるべく研修講師と協議して研修を実施した。

（１）事業従事者の役割や求められる力量を踏まえたカリキュラムづくり

①自立相談支援事業従事者養成研修【前期】共通研修

主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれの職種を対象とした前期共通研修は、理念、地域づくり、対象者の特性、相談支援の展開、就労支援の基礎を深める研修内容に留意した。これまでの研修内容を踏襲しつつ、プログラムのなかでケースの終結に着目した内容を盛り込むなど、新たに研修ニーズを考慮したプログラムも実施した。

②自立相談支援事業従事者養成研修【後期】研修

各職種の後期研修については、それぞれに必要とされる役割や力量を取得できるよう演習を中心としたプログラムづくりを行い、より専門性を高める内容に努めた。それぞれの後期研修企画部会としての考え方の整理は次のとおりである。

ア）主任相談支援員

生活困窮者への相談に関し高度な相談支援能力を持ち、支援困難ケースに対応し、自立相談支援機関において相談業務のマネジメントを行うとともに、社会資源開発と地域づくりを行う能力を獲得するプログラムとした。

イ）相談支援員

生活困窮者への個別的・継続的・包括的な支援（アセスメント、自立支援計画の策定、支援調整会議の実施、終結の考え方等の一連の支援プロセス）を習得するプログラムとした。

ウ）就労支援員

自立相談支援機関において、生活困窮者への就労支援（就労支援を通じた地域づくり、就労支援のプログラムづくり、企業開拓の方法や企業へのアプローチ等）を行う知識や技術を学ぶプログラムとした。

③就労準備支援事業従事者養成研修

就労準備支援担当者に求められる基本理念や責務、役割について理解するとともに、援助関係の構築、アセスメントの手法、就労準備支援プログラムの作成、支援方法、評価の視点を教示した。また、自立相談支援機関との連携、社会資源の開発等、就労準備支援を進めていくために必要な体制づくりについて実践報告も交えながら学ぶプログラムとした。

④家計相談支援事業従事者養成研修

相談者の状況・背景や家計相談支援員に求められる倫理・責務・役割を理解し、相談者自身が主体的に家計を管理する意欲を引き出すことに配慮した。また、多重・過重債務問題の理解と、利用できる制度や法律を教示した。また、初回面接から終結に至るまでの一連の流れを学ぶとともに、家計表

等の作成において求められる情報収集の方法や分析視点を理解するプログラムとした。なお、研修実施については、昨年度と同様にグリーンコープ連合に一部業務を再委託した。

⑤都道府県研修に係る担当者研修

都道府県が実施する研修の企画立案・運営に携わる中核的な役割を担う者を養成することを目的に、今年度は前後期の２回開催とした。前期研修では、県内研修についての実践報告や、本制度に関する研修運営の方法等について教示し、後期研修では、前期研修で学んだ内容を踏まえて実践した各都道府県における研修に関する取り組みを参加者同士で共有し、振り返りを行うプログラムとした。

（２）多様な演習（グループワーク）による学習

多様な演習（グループワーク）を通じて問題意識を深めることや事例の見立ての際の重要な視点などについて共通理解を図った。また、多様な手法を経験することで、自身のファシリテーション技術の向上に寄与した。

（３）地域に戻って研修内容を伝える機会づくりを受講者に求めた

自立相談支援事業従事者養成研修【前期】における研修会の目標として、①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、③伝達できる（講師になれる）の 3 点を受講者に伝え、伝達できるようになることを前提として学習することを促した。各講師も受講者自身が講師になることを意識して、講義・演習の組み立てや資料作成を行った。

（４）振り返り時間の設定と学びのポイントの可視化

昨年度に引き続き、研修期間中毎日、「振り返り時間」を設けた。これは、個々の受講者が、その日の学びや気づきについてのディスカッションやアンケート記入などの時間を設けることで、一日の学習の整理と翌日への心構えやモチベーション向上を図る意図から導入したものである。

また、全研修において「学びの見取り図」を作成した。研修で何をどう学ぶのか、プログラム別に講師が伝えたいことを可視化し、その日の開始時や振り返り時間にて共通理解を図った。

（５）受講者向けの課題の設定

研修の学びの効果や相談員としての意識の醸成を図るため、適宜、事前課題を受講者に課した。【前期】共通研修、就労準備支援事業従事者養成研修、家計相談支援研修においては、日ごろの業務・支援のなかで感じている課題や、本研修で学びたいと思っていることをまとめるものとした。【前期】共通研修では、研修冒頭に事前課題を利用し、参加者同士が自己紹介をする時間を設定するなど、参加者同士の交流が生まれやすい工夫をした。

また、【後期】主任相談支援員研修、【後期】就労支援員研修については、実際の事例を整理したシートを作成し、グループワークをはじめとした研修プログラムにて活用した。

（６）テーマ別交流会の設定

一部の研修について、研修終了後に自由参加のテーマ別交流会を開催した。講師の専門分野のテーマを設け、日ごろの業務・支援における課題や悩みの相談、講義内容をより深く理解する機会を提供した。あわせて、情報や課題の共有などを行い、受講者同士のつながりを築く場とした。

2　成果と課題

平成 30 年 2 月 5 日開催の第２回企画・運営委員会において本研修の振り返りを行った。委員会において委員より出された意見と、受講生への事後アンケートからみる本研修の成果と課題について以下にまとめる。

（1）自立相談支援事業従事者養成研修　【前期】共通カリキュラム

研修全体について

＜成果＞

○受講生の事後アンケートより、研修の目標①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、③伝達できる（講師になれる）について、達成できたと感じている受講生が多かったことからも、研修の目標は達成できたと考えられる。

○また、これまで無意識に実践していたものが、支援の際のポイントや視点などについて論理的な説明を受けて、理解が深まったと考える受講生も多くいた。

＜課題＞

○地域支援や個別支援等の様々な切り口からのプログラムがあるが、内容的に重複している部分も多く、整理が必要である。

○「地域づくり」と一言で言っても様々な要素がある。地域づくりにおいて主任相談支援員が果たすべき役割と、相談支援員が果たすべき役割は異なり、前後期のプログラムを考えて重複がないように構成する必要がある。

個別の講義・演習について

その他、第２回運営・企画委員会において、下記の講義・演習について意見が出された。

①【講義と演習】支援員に求められる倫理・基本姿勢を支える人材育成と職場づくり

○　「３つの基本倫理と８つの基本姿勢」について演習を行った。基本となる部分であり、前年度からの大きな変更はせずに実施した。今後もこの内容をふまえて、演習などは現場実践を踏まえた新たな内容を加えていく必要がある。

○「３つの基本倫理と８つの基本姿勢」については、初年度から常に意識できるよう工夫する必要性を伝えてきているが、組織的な取り組みがほとんどできていないことが推察され、今後の課題である。

②【講義と演習】生活困窮者支援に必要と考えられる視点―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―

○これまで別プログラムとしていた「発達障害」に関する講義を、「対象者の特性」の一つとして本プログラムに組み込み、４つの視点から話をしていただくことで、プログラムに一貫性を持たせることができた。

○一方で、全体で 300 分を越すプログラムになっており、一つのプログラムとしては非常にボリュームのあるものとなっている。次年度以降検討が必要である。

③【講義と演習】生活困窮者支援を通じた地域づくり

○研修修了生の実践報告は、実施体制の限界があるなかで工夫や努力をして活動が広がっていくことが分かりやすく伝えられた。やり方を工夫することで、どこでもできる可能性があることが受講生にも伝わったと考える。

○次年度は、はじめは関わりを拒否していた地域を巻き込でいった事例を発表していただき、どのように課題を抱える人と地域社会のつながりや関係性を変えていったのか説明をしていただいたり、さらにコメンテーターにコメントしてもらうと、地域共生社会の視点にもつながって良いのではないか。

④【講義と演習】相談支援の展開と視点

○相談支援員については、【後期】研修における演習に向けた導入講義として位置づけられるため、そのプログラムとの関連性を意識的に説明した。そのうえで、本プログラムでは、相談支援の展開の全体的なイメージをつかむことを目標にすることを意識した。研修プログラムとして完成した内容になってきた。

○制度施行から３年目を迎え、「終結」を迎えているケースも多くなってきていることから、ケースの「終結」における考え方まで含めた演習を行い、「何をもって終結とみなすのか」という意識を受講生に持ってもらうことができた。

○ケース検討を行うグループワークを通じて、さまざまな視点から活発に意見交換がされていた。

⑤【講義と演習】就労支援の考え方と実施方法

○前半の「基礎編」は、テキストの内容をふまえたものであり、当面は、この内容で継続してよいと考える。

○後半の「実践編」については、実践者２名に出口支援の具体的な実践方法を話してもらった。実践者の話のなかの「本人を変えない環境支援型就労支援」や、「企業との協働」については、受講生の関心が極めて高かった。

○受講生が「登壇者だから、登壇者のような地域性だからできるだろう」というような理解で終わらないように、実践者の報告のなかから、自分の地域や機関であれば何ができるか受講者に考えてもらい、そのエッセンスを持ち帰ることができるよう演習を行った。

（２）自立相談支援事業従事者養成研修　【後期】主任相談支援員養成研修

研修全体について

＜成果＞

○事後アンケートより、地域づくりやスーパービジョンといった主任相談支援員の立場や役割について、改めて理解を深めることができ、研修受講の大きな成果だったと考える受講生が多く見られた。

○一人で抱え込まずにチームで対応することの重要性を再認識したという受講生が多く、職員の資質向上と職場づくりについて意識を高めることができた。

＜課題＞

○今年度の研修は、日程の都合もあり、「生活困窮者支援と地域づくりの意義」と「個を支える地域づくり」のプログラムが研修１日目と３日目で分かれてしまうなど、３日間のプログラムの流れがあまり良くなかった。３日間の研修の流れを意識して全体のプログラムを考えられると良い。

○個別支援、地域支援、スーパービジョンなど、主任相談支援員として重要な視点についてプログラムを構成しているが、それぞれがバラバラな印象があり、全体として一貫性を持たせることが必要である。

○今年度の１日目と２日目の研修は、スーパービジョンに力点を置いた。このため、①事例理解を深めることを目的とする事例検討、②スーパービジョンを理解するための事例検討を１つのセッションの中で一緒に行う形式となった。来年度は、①②を別々に行った方が良い。

個別の講義・演習について

その他、第２回運営・企画委員会において、下記の講義・演習について意見が出された。

①【講義と演習】職員の資質向上と職場（組織）づくり

○「職員の育成・教育に向けた方法」「自立相談支援機関の職場特性をふまえた職場づくりのあり方」「スーパービジョンの方法」の概要を 60 分で伝える導入の講義と演習を実施した。やや盛りだくさんの内容であったが、基本的な考え方を確認することができた。

②【講義と演習】支援困難事例の検討

○参加者より事前課題として提出された事例のなかから 1 事例を選定し、事例検討のスーパーバイザーである上原氏と事例提供者が事前に時間をかけてやりとりをした。当日は、かなり具体的な事例検討を参加型で実施することができた。

○講師がケースの内容を板書をしながら検討していく方式で、板書をスクリーンに映し出し、受講生に分かりやすく、臨場感をもって事例検討をすすめられた。

（３）自立相談支援事業従事者養成研修　【後期】相談支援員養成研修

研修全体について

＜成果＞

○事後アンケートより、相談受付、インテーク・アセスメント、プラン策定、評価・終結までの一連の支援プロセスについて、事例に基づき帳票を用いて学ぶことができ、これまで自分が行ってきた一連の支援と比較することで、不安の解消や支援技術の向上につながったと考える受講生が多くいた。

○アウトリーチや発達障害をテーマとしたプログラムについて、アンケートの定量評価が高く、研修ニーズが高かったことが考えられる。

＜課題＞

○全体的にプログラムの内容が重複しており、整理が必要である。例えば、「個別支援の基本」、「多機関との連携のあり方」、「援助関係をつくりにくい人への支援」、「地域を基盤とした相談支援のあり方」については、講義と演習の「相談支援の展開」のなかに含めて良いのではないか。

○「アウトリーチの考え方」については、発見、アセスメント、支援、地域づくりの 4 つの目的別種類を解説した。アセスメントや地域づくりを目的としたアウトリーチについては、重複を避けるために相談支援の展開」の中に含め、発見するためのアウトリーチをテーマに再構成することが考えられる。

○「援助関係をつくりにくい人への支援」では、発達障害についての講義だったが、援助関係をつくりにくい人は発達障害の人だけではない。また、今年度は前期共通カリキュラムの「生活困窮者支援に必要と考えられる視点―対象者の特性を踏まえた支援のあり方―」でも発達障害は取り上げており、前後期通したプログラムの整理が必要である。

○事後アンケートでは、多機関との連携、職場内の連携といったチームによる支援の重要性を述べる受講者が多かったが、相談支援員という立場でどこまで実践できるのか不安に感じる意見が一定数みられた。

（４）自立相談支援事業従事者養成研修　【後期】就労支援員養成研修

研修全体について

＜成果＞

○支援対象者に関する事前課題を提出してもらったうえで研修に参加してもらうことで、研修期間中、常に支援対象者を意識しながら取り組んでもらえた。

○企業開拓を限られた体制のなかで行っていくことは難しく、「就労支援における出口づくり」のプログラムで提供された「就労支援ツール」は、今すぐに使えるツールがほしいという受講生のニーズに合致したものだった。

○受講生の事後アンケートにおいても、出口支援については企業へのアプローチに加えて、企業開拓の方法についても演習を中心に学び、提供されたツールを使って企業開拓をすすめたいという前向きな意見が多かった。

＜課題＞

○他事業との兼務の職員が多く、就労支援員として出口支援について思うような活動ができていないと感じている支援員が多い。体制が整っていないなかで、どのように多機関と連携をし、他職種の人たちを巻き込んで支援を行うのかという視点も事例選定の際に入れて行くと、受講生の参考になるのではないか。

○うまくいった事例について、その事例のなかで留意したことやポイントなどを示したものをまとめて受講生に持ち帰っていただけるような形ができるとそれぞれの現場に帰った際に参考になる部分も多く、学びが深まるのではないか。

個別の講義・演習について

その他、第２回運営・企画委員会において、下記の講義・演習について意見が出された。

①【講義と演習】はじめに

○参加者に、事前課題で事例を「エコマップ」に描いてもらい、最終日までに「支援を育てる」取り組みをしてもらうための導入の講義と演習を行った。「ストレングス視点」を理解してもらうためのワークも実施している。当面、この形で継続していくべきだと考える。

②【講義と演習】「就労支援における出口づくり」

○前期研修で登壇した実践者に、前期の内容を更に深める講義・演習を実施してもらった。特に、渡辺氏には、新たなワークをこのために開発していただき、後日、事務局を通じて受講生に「就労支援ツール」を配布し、それぞれの現場ですぐに使えるツールを提供することができた。こうしたツールを用いた研修は、ぜひ今後も継続して、いっそう活用可能なものに育てていけるとよい。

（５）就労準備支援事業従事者養成研修

研修全体について

＜成果＞

○就労準備支援事業単独で考えてしまうと、アセスメントの段階でうまくいかず、その結果就労準備支援事業の効果が薄いようなプログラムになってしまったり、世帯支援の観点が抜けていたりする可能性がある。就労準備支援事業をすすめるうえで、自立相談支援事業との連携は不可欠であり、意識的に研修のなかでも伝えていくことができた。

○受講生の事後アンケートにおいても、自立相談支援機関と積極的に関わりを持つよう働きかけたい等のコメントが多く見られ、自立相談支援機関との連携の必要性について受講者の理解が深まったといえる。

○ワールド・カフェ方式など、受講生同士のつながりを構築できるような演習方式を取り入れ、受講生の事後アンケートにおいても好評だった。

＜課題＞

○受講生の事後アンケートにおいて、企業開拓の具体的な方法を学びたいという要望があった。

○研修日程が４日間と長く、職場を離れなければならないことに負担感を感じるという意見が受講生からあった。

個別の講義・演習について

その他、第２回運営・企画委員会において、下記の講義・演習について意見が出された。

①【講義と演習】「支援関係の構築Ⅱ」

○前半は２つの支援拒否の事例について参加者が検討を行い、講師が解説をするワークを行った。後半は「就労に向けたモチベーションを高めるために必要な３つのポイント」について講師が解説をし、参加者がバズセッションを行うワークを実施した。

○登壇者の具体的なコメントや講義は実践に即して具体的にわかりやすいものであり、このような形式の講義・演習を継続していく必要がある。

②【講義と演習】「4 日間の研修を振り返って」

○初年度から実施している演習プログラムである。4 日間の学びを統合させるとともに、参加者同士でストレングスを見つけあい、元気になって職場に戻っていただける内容となっている。加留部氏が考えた内容であるが、プログラムとして完成した内容であり、各地で応用可能なものと考える。

（６）家計相談支援事業従事者養成研修

研修全体について

＜成果＞

○施行から 3 年目で既にクリアしている部分を考慮し、更なる研修内容の強化を図ることができたと感じている。

○パソコンを用いてキャッシュフロー表等を作成する実習を行うため、定員が少人数となっている。受講者一人ひとりのスキルに合わせた実習を行っており、受講者にとって満足度の高い研修とすることができた。

○個人やグループで取り組む問題を記載した研修資料（ワークシート）を使用して研修を行い、資料を職場に戻ってから活用できるように配慮したことで、事後アンケートにおいても、そのまま今後の支援に実践できるという感想が多かった。

○実習や演習など技術の習得に焦点を当てて講義を組み立てたことにより、職場に戻ってもすぐに活用できるものが提供できた。

＜課題＞

○自立相談支援関係の相談支援員との兼務の受講者に多く見られ、事後アンケートなどでは、業務面での負担感や家計相談支援事業と自立相談支援事業との役割分担に関する意見などが見受けられた。

（７）都道府県研修に係る担当者研修

研修全体について

＜成果＞

○今年度より年２回の開催とし、前期で学んだ内容や、知ったことを各都道府県の研修企画等に活かしていただき、その報告を後期で行うことで、行った研修の課題や成果を具体的に振り返り、共有することができた。

○【前期】では、昨年度作成したみずほ情報総研株式会社の「生活困窮者自立相談支援事業における都道府県研修実施のための手引き」を配布したり、ワールドカフェを実際に受講生に体験してもらうなど、各都道府県において、すぐに実践してもらえるようなプログラムを行い、参加者からも好評だった。

○【後期】では、前期の研修の内容を踏まえ、各都道府県で取り組まれた研修事業の内容を共有することができ、来年度の研修計画に活かしたいと考える受講生が多くいた。

○多くの参加者が、前期研修での内容をふまえて、研修の企画・実施に取り組んでいた。　様々な工夫があり、今後の都道府県での研修実施にむけての参考となる情報が多く得られる研修であった。

＜課題＞

○本研修に参加していない（できなかった）都道府県の参加を、今後どのように促すかが課題である。

○「生活困窮者自立相談支援事業における都道府県研修実施のための手引き」「標準プログラム」（みずほ情報総研）は、研修実施にあたり活用できるツールであることが把握できた。今後、担当者が変わるなかで、ともすると「埋もれてしまう」手引き書となることが予想される。意識して、活用を促すことができると良い。

（８）研修事業全体について

①「研修カリキュラムについて」

○研修の目的の明確化について

・研修の「目的」や「ねらい」は、研修の冒頭や要所で確認できるとよい。制度が実施されて時間が経過するほど「今やっていること」がスタンダードとなってしまうため、制度の理念については、繰り返し、何度も学ぶ機会をつくることが必要である。

○プログラムについて

・研修全体を通して、プログラムの重複があるので、一つのプログラムのなかの要素として盛り込むなど見直しが必要である。それぞれのプログラムについて、国研修で行うべき内容なのか、各都道府県、市町村内等の地域のネットワークのなかで研修できることなのかの整理も必要である。

・国研修受講者が、「伝達研修」の担い手となることについては、継続できるとよい。できるだけ、研修受講者（OB）に国研修の講師として登壇する機会を作ることが望ましいと考える。

○実践報告事例の選定について

・発表された事例をそれぞれの現場で活かしてもらうためには、講師が支援の意図やポイントについて意味づけをして解説をしていくことが重要である。
・制度施行３年が経過し、支援の過程においてトラブルの発生や苦情となった案件も多いのではないか。こうした事例について、支援プロセスにおいて何が課題であったのか等について考えることが重要だと思う。
・また、ケース検討に使用する事例のなかには、本研修が始まってから内容が変わっていないものもあり、制度施行から３年たった今、それぞれの支援員が抱えている課題を事例に落とし込むなどの工夫も必要である。

○研修運営について
・講義を聴くだけの時間が続くことのないよう、「マルチスタイルメソッド」を意識した、研修プログラムを計画することが必要である。講義も重要であるが、短時間のバズセッションを入れることなどで、受講生の集中力は維持され、学びはより落とし込まれていくと考える。

②「研修事業について」

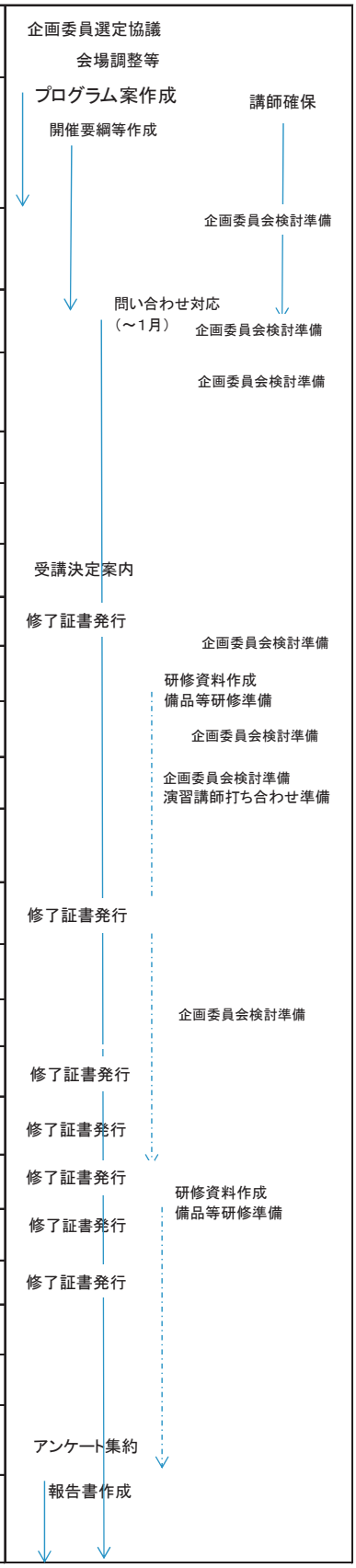
○社会保障審議会 生活困窮者自立支援及び生活保護部会報告書において生活困窮者自立支援制度の相談支援員の研修については、平成 32 年度をめどに都道府県が実施主体となることとされており、今後２年間で各都道府県で研修を実践していただけるよう、これまで行ってきた研修内容をきちんとツール化していく必要がある。
○各都道府県において研修をしっかり実施してもらえるよう、都道府県研修に係る担当者研修は継続的な実施を検討する必要がある。

第６章　業務の運営

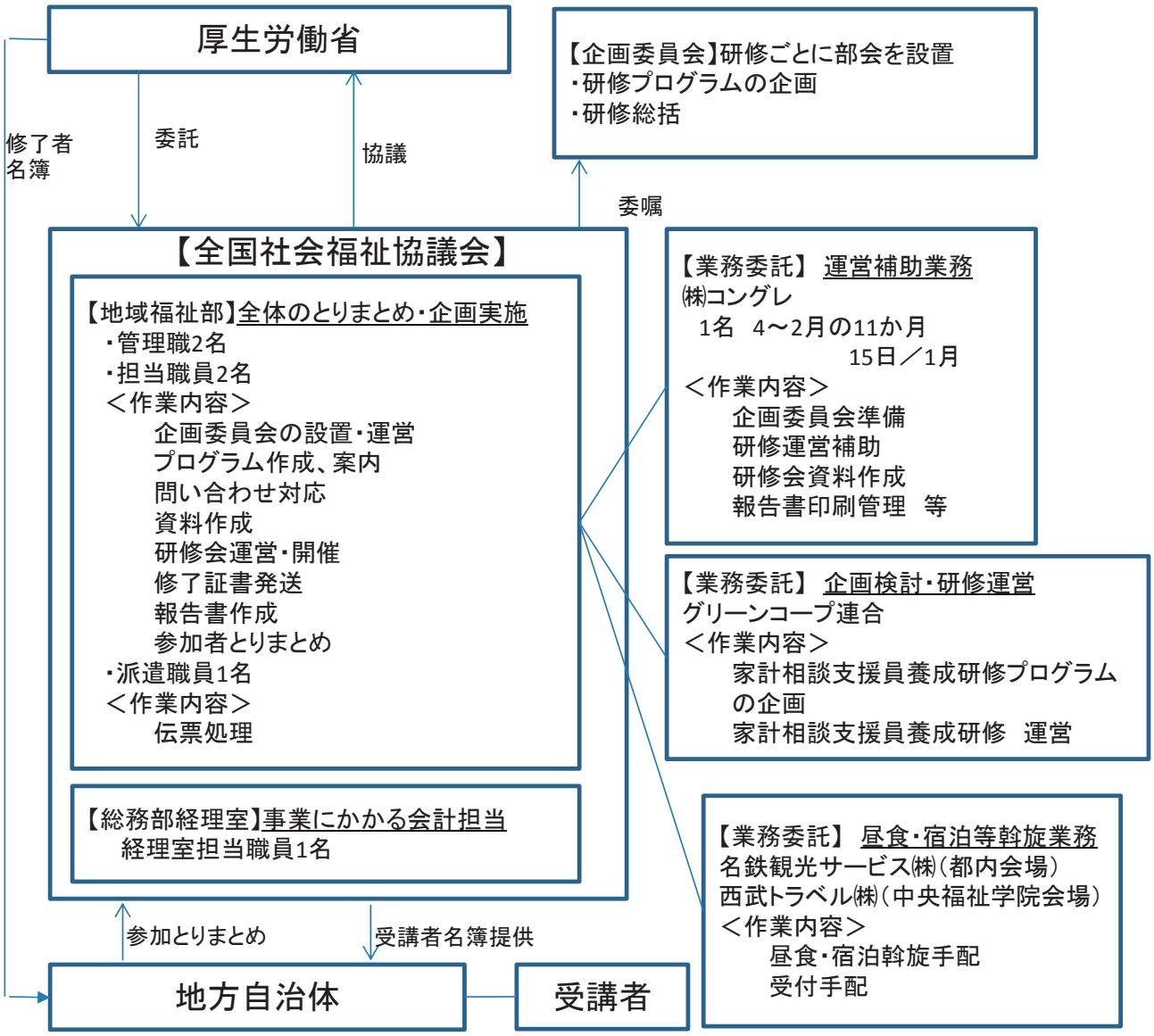
１　受け入れから実施報告までのスケジュール

◇受け入れから報告までのスケジュール（日程）

4/12	第1回企画・運営委員会 の開催	事業実施計画の確認 研修プログラム検討（講師選定含）
4月中旬～	研修プログラムの作成	企画委員会で協議された内容に沿って、研修プログラムを作成する ※講師の確保について可能な範囲で進める ※会場確保（演習に必要な会場等）
4/22	第1回都道府県研修に係る担当者研修企画部会	研修の企画・検討 今後の進め方確認
4/24	第1回家計相談企画部会の開催	研修の企画検討 今後の進め方確認
5/2	第1回主任相談支援員企画部会の開催	【後期】主任プログラム検討 今後の進め方確認
5月下旬	開催案内	開催要綱作成、発送、募集
5/31	【前期】都道府県研修に係る担当者研修	
6月上旬	受講者の決定・案内	行政が取りまとめた申込の集約、厚労省と調整・確認のうえ受講決定案内
6/6～9	第1回家計相談支援員養成研修	
6/19	第1回就労準備企画部会の開催	研修のカリキュラム検討 今後の進め方確認
7/4～6	【前期】 共通カリキュラム（第1回）	
7/10	第1回相談支援員企画部会の開催	【後期】相談プログラム検討 今後の進め方確認
7/31～8/2	【前期】 共通カリキュラム（第2回）	
8/23～25	【後期】 主任相談支援員養成研修	
9/5～9/7	【前期】 共通カリキュラム（第3回）	
9/29	第1回就労支援員企画部会の開催	【後期】就労プログラム検討 今後の進め方確認
10/10～13	就労準備支援員養成研修	
10/18～20	【後期】 相談支援員養成研修（第1回）	
11/20～22	【後期】 相談支援員養成研修（第2回）	
12/6～8	【後期】 就労支援員養成研修	
12/19～22	第2回家計相談支援員養成研修	
1/30	都道府県研修に係る担当者研修	
2/5	第2回企画・運営委員会 の開催	本年度研修の振り返り
2月上旬～	実施報告書作成	事業の実績をとりまとめ、報告書を作成する。
～2月末	研修完了業務	会計処理 修了者名簿の作成と厚生労働省へ提供



2　実施体制


厚生労働省
修了者名簿
委託
協議
【企画委員会】研修ごとに部会を設置
・研修プログラムの企画
・研修総括
委嘱
【全国社会福祉協議会】
【地域福祉部】全体のとりまとめ・企画実施
・管理職2名
・担当職員2名
＜作業内容＞
企画委員会の設置・運営
プログラム作成、案内
問い合わせ対応
資料作成
研修会運営・開催
修了証書発送
報告書作成
参加者とりまとめ
・派遣職員1名
＜作業内容＞
伝票処理
【総務部経理室】事業にかかる会計担当
経理室担当職員1名
【業務委託】 運営補助業務
㈱コングレ
1名　4～2月の11か月
15日／1月
＜作業内容＞
企画委員会準備
研修運営補助
研修会資料作成
報告書印刷管理　等
【業務委託】 企画検討・研修運営
グリーンコープ連合
＜作業内容＞
家計相談支援員養成研修プログラムの企画
家計相談支援員養成研修　運営
【業務委託】 昼食・宿泊等斡旋業務
名鉄観光サービス㈱（都内会場）
西武トラベル㈱（中央福祉学院会場）
＜作業内容＞
昼食・宿泊斡旋手配
受付手配
参加とりまとめ
受講者名簿提供
地方自治体
受講者

≪ 付　録 ≫

１　開催要項

２　修了証書（ひな形）

生活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）

平成 29 年度 自立相談支援事業従事者養成研修

開催要項

社会福祉法人　全国社会福祉協議会

１．研修の種類

生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業において配置される主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれを対象とした 3 種の養成研修を実施します。

２．日程・定員・会場

研修名		日程	定員	会場
自立相談支援事業	【前期】共通プログラム	第1回　7月4日（火）～6日（木）	320名	全社協・灘尾ホール
		第2回　7月31日（月）～8月2日（水）	320名	全社協・灘尾ホール
		第3回　9月5日（火）～9月7日（木）	320名	全社協・灘尾ホール
	【後期】主任相談支援員養成研修	8月23日（水）～25日（金）	240名	全社協・中央福祉学院
	【後期】相談支援員養成研修	第1回　10月18日（水）～20日（金）	240名	全社協・中央福祉学院
		第2回　11月20日（月）～22日（水）	240名	大阪市内
	【後期】就労支援員養成研修	12月6日（水）～8日（金）	240名	全社協・中央福祉学院
就労準備支援事業従事者養成研修		10月10日（火）～13日（金）	120名	東京・タイム24
家計相談支援事業従事者養成研修		第1回　6月6日（火）～9日（金）	60名	全社協・会議室
		第2回　12月19日（火）～22日（金）	60名	
担当者研修		【前期】5月31日（水）	140名	全社協・灘尾ホール
		【後期】1月30日（火）	140名	全社協・灘尾ホール

＜会場＞

【前期】全国社会福祉協議会　灘尾ホール

〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル

TEL　03-3581-4655　　FAX　03-3581-7858

※アクセスは web サイト（ http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html ）でご確認ください。

【後期】全国社会福祉協議会　中央福祉学院

〒240-0197　神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

TEL　046-858-1355　　FAX　046-858-1356

※アクセスは web サイト（ http://www.gakuin.gr.jp/ ）でご確認ください。

【後期】OMM　C ホール（大阪市内,【後期】相談支援員養成研修【第 2 回】のみ）

〒540-6591　大阪市中央区大手前 1-7-31

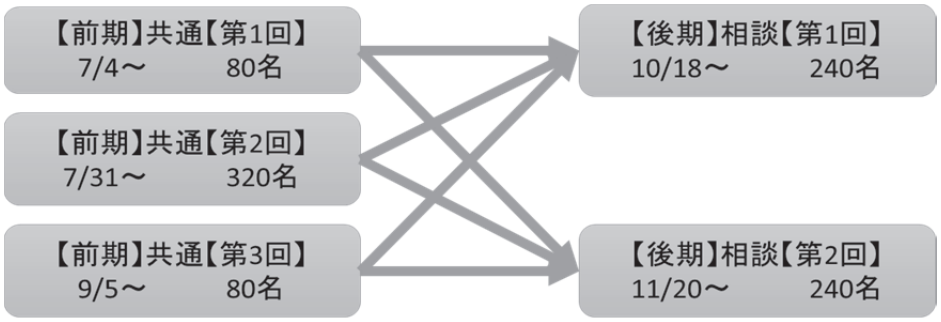
TEL　06-6943-2020　　FAX　06-6943-2021

※アクセスは web サイト（ http://www.omm.co.jp/access/index.html ）でご確認ください。

３．職種別の受講パターン

（１）主任相談支援員（240 名）

（２）相談支援員（480 名）



相談支援員は、【前期】、【後期】それぞれ受講希望回を受講申込書にて確認します。各回の内容は同様です。
受講回の決定は事務局および厚生労働省が行い、基本的に変更はできません。あらかじめご了承ください。

（３）就労支援員（240 名）

４．受講対象

（１）主任相談支援員養成研修

自立相談支援事業において主任相談支援員として配置されている者。

なお、以下の①～③までのいずれかに該当する者。

①社会福祉士、精神保健福祉士、保健師として保健、医療、福祉、就労、教育等の分野における業務に 5 年以上従事している者であり、かつ、生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に 3 年以上従事している者

②生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に 5 年以上従事している者

③相談支援業務に準ずる業務として、実施主体である地方自治体の長が認めた業務に 5 年以上従事している者

（２）相談支援員養成研修

自立相談支援事業において相談支援員として配置されている者。なお、相談支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への相談支援を適切に行うことができる者。

（３）就労支援員養成研修

自立相談支援事業において就労支援員として配置されている者。なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）
・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）（研修受講者の選定基準、都道府県別の受講者枠等が示されています）

５．研修内容

（１）主任相談支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】（別表 1）及び主任相談支援員養成研修カリキュラム【後期】（別表 2）により構成されています。

（２）相談支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】（別表 1）及び相談支援員養成研修カリキュラム【後期】（別表 3）により構成されています。

（３）就労支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】（別表 1）及び就労支援員養成研修カリキュラム【後期】（別表 4）により構成されています。

※本年度、1 人の受講者が 2 つ以上の研修を受講する場合は、共通カリキュラム【前期】は 1 回だけ受講することとします。なお、【後期】研修を先に受講することはできません。また、過去に自立相談支援事業従事者養成研修の共通カリキュラム【前期】を受講した方は、本年度の共通カリキュラム【前期】は受講免除となります。過去の受講状況については受講申込書にて確認します。

※カリキュラムの詳細は受講決定通知と併せてご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

６．受講料

無料

※テキスト代、食事代、交流会参加費（【前期】研修会 1 日目、【後期】研修会 1 日目に予定、希望者のみ）は負担ください。なお、旅費及び宿泊費については、事業の対象経費として支出が可能とされています（社会・援護局長通知参照）。

７．テキスト

各研修で使用するテキストは下記の 1 冊となります。各自ご用意ください（自己負担）。

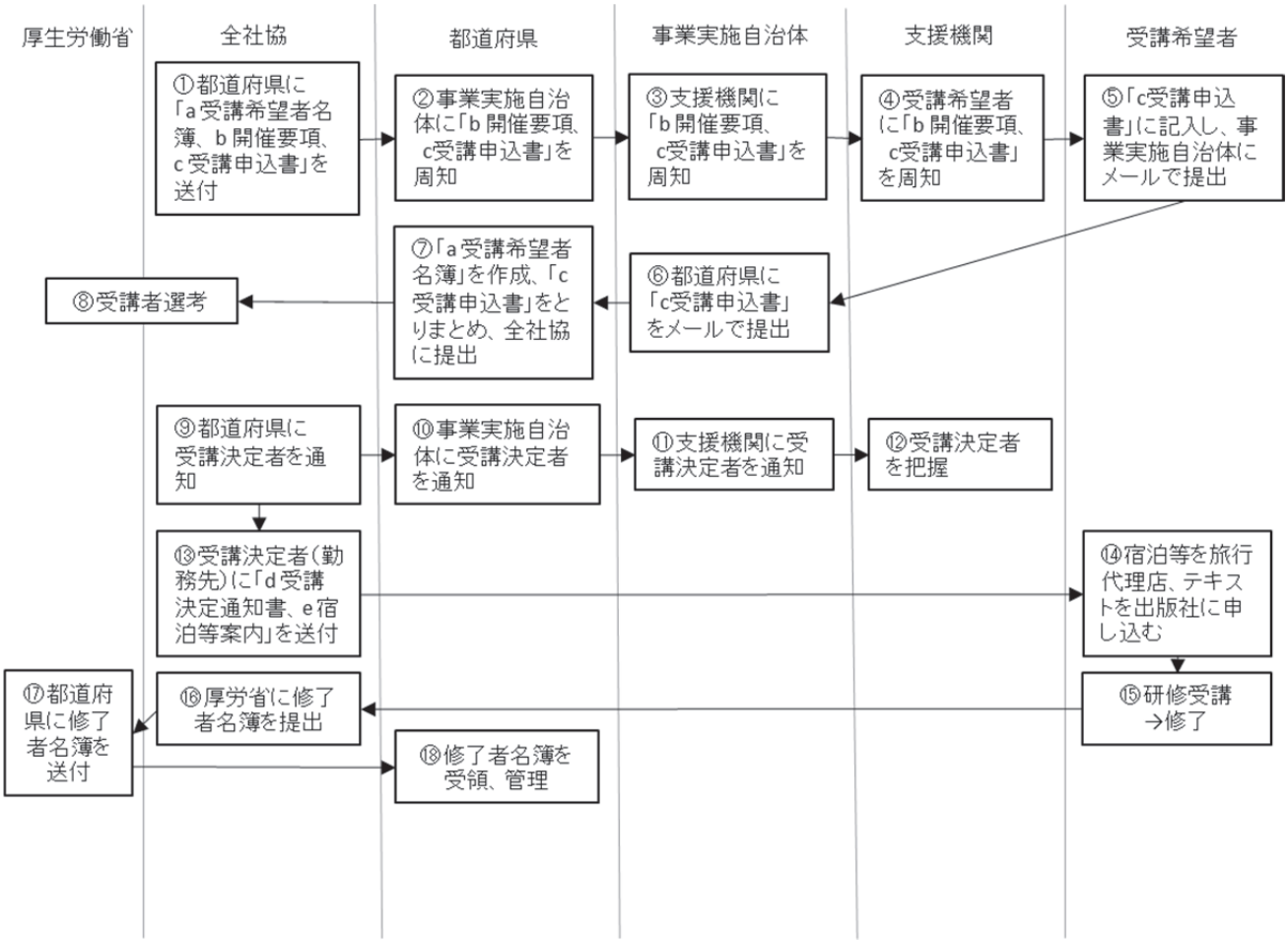
①『生活困窮者自立支援法　自立相談支援事業従事者養成研修テキスト』（中央法規出版株式会社）

※昨年「平成 28 年度自立相談支援事業従事者養成研修」に使用したテキストと同じです。

※書店等でお買い求めください。

次のページに続きます。

８．申込みから受講、修了までの流れ



※【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

８－１．都道府県

（１）事業実施自治体に開催要項、受講申込書をメールで送付【②】

（２）記入済み受講申込書に基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、受講申込書と併せて全社協にメールで提出（締切日：平成 29 年 5 月 29 日（月））【⑦】

（３）全社協から送られる「受講決定者名簿」（6 月上旬予定）に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

（４）研修終了後、修了者名簿を受領し管理【⑱】

８－２．事業実施自治体

（１）自立相談支援機関に開催要項、受講申込書をメールで送付（直営の場合は受講者に周知）【③】

（２）受講希望者から記入済み受講申込書を受領し、都道府県にメールで提出【⑥】

（３）自立相談支援機関に受講決定者を通知（直営の場合は受講者に通知）6 月上旬予定）【⑪】

８－３．自立相談支援機関

（１）受講希望者に開催要項、受講申込書を周知【④】

（２）受講決定者を把握【⑫】

８－４．受講希望者

（１）記入した受講申込書をメールにて事業実施自治体に提出【⑤】

※受講申込書は都道府県、事業実施自治体、自立相談支援機関経由でメールにてお送りします。

※受講申込書は受講者選考や研修のグループ編成に使用します。

※受講申込書のファイル名は、「別添１受講申込書（1 主任、2 相談、3 就労）（フルネームを漢字で記入）」の１つ目のカッコ内を受講する研修の種類のみに変更し、2 つ目のカッコ内を受講希望者のフルネーム（漢字）に変更してご提出ください。

※「別添２受講申込書（記入例）」をご参照ください。

（２）受講決定後、テキスト、食事、宿泊、交流会の申し込み（締切日：6 月上旬予定）【⑭】

※受講決定通知、テキスト、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します（6 月上旬予定）。

※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。

※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、自立相談支援機関にも通知します。

８－５．補欠枠について

（１） 都道府県ごとに主任相談支援員、就労支援員については各１名、相談支援員については各３名を上限として補欠枠を設けていますので、補欠登録する者についても受講申込書を記入頂くとともに、受講希望者名簿の「補欠欄」への記入をよろしくお願いいたします。相談支援員については、受講希望順に「補欠①～③」の欄に記入してください。

（２） 補欠枠で登録した者については、全体の申込状況を勘案した上で受講決定を行いますので、受講できない可能性があることを、あらかじめご留意ください。

９．修了証書の交付

（１）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。

（２）修了要件は以下のとおりです。

①前・後期のすべての科目に出席すること。

②前期終了後の事後課題を提出すること（課題を課した場合）。

（３）修了証書は、後期研修終了時に受講者本人にお渡しします。

（４）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

次のページに続きます。

別表１　共通カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
生活困窮者支援の基本的な考え方について	生活困窮者自立支援制度創設の背景及び制度の概要、生活困窮者支援の理念について理解する。	講義：1.5 時間
生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の重要性について	自立相談支援事業の目的、機能、各支援員の役割、支援の流れについて理解する。	講義：１時間
	任意事業や他制度の活用・自立相談支援事業との連携について理解する。	講義：１時間
支援員に求められる基本倫理と基本姿勢について	各支援員に求められる基本倫理と基本姿勢について理解する。	講義：1.5 時間 演習：２時間
生活困窮者支援に必要と考えられる視点について	生活困窮者支援に関係する各制度・施策やその他の社会資源の活用、それらとの連携・協働の目的とその方法について理解する。	講義：1.5 時間 演習：２時間
生活困窮者支援を通じた地域づくりについて	誰もが地域の中で安心して暮らすことができる（自立生活ができる）地域づくりに必要な視点について理解する。	講義：１時間 演習：2.5 時間
相談支援の展開について	生活困窮者の自立支援計画について、基本的な考え方等について理解する。	講義：２時間 演習：1.5 時間
就労支援の実施方法について	生活困窮者の就労支援について、基本的な考え方等について理解する。	講義：1.5 時間 演習：２時間

※計 21 時間（講義 11 時間、演習 10 時間）

※実施予定時刻

【第１回】　第１日目　9：00～18：30　交流会（自由参加）18：50～19：50
　　第２日目　9：00～17：40
　　第３日目　9：00～17：30

【第 2,3 回】　第１日目　9：00～18：30　交流会（自由参加）18：50～19：50
　　第２日目　9：00～18：35
　　第３日目　9：00～16：35

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

別表２　主任相談支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
主任相談支援員の役割について	生活困窮者自立支援制度における主任相談支援員に求められる役割について理解する。	講義：１時間
職員の資質向上と職場（組織）づくりについて	職員の育成・教育や職場環境のつくり方について学習する。	講義：１時間 演習：２時間
生活困窮者支援を通じた地域づくりの意義ついて	生活困窮者支援を通じた地域づくりの考え方を学習するとともに、地域の関係機関・関係者との協働・連携のあり方について理解する。	講義：１時間
スーパービジョンについて	スーパービジョンの基本的考え方や、職場内での進め方など具体的な手法を学ぶ。	講義：１時間 演習：１時間
個を支える地域づくりの視点について	事例検討を通じて、個を支えるために必要な地域ネットワークを考察することにより、地域づくりの視点について理解する。	演習：３時間
社会資源とネットワーク開発について	地域の社会資源の把握、地域に不足する社会資源の開発等の考え方やその手法について理解する。	演習：３時間
支援困難事例の検討について	高度な相談支援（支援困難ケースへの対応）について、具体的な支援の考え方やその手法について理解する。	講義：１時間 演習：２時間
アセスメント・プラン作成について	事例を通じて、インテーク・アセスメントシートの考え方について理解する。	講義：２時間 演習：２時間
研修全体のまとめ	共通カリキュラムを含めた研修全体について振り返りを行う。	講義：１時間

※計 21 時間（講義 9 時間、演習 12 時間）

※実施予定時刻　第１日目　10：00～19：20　交流会（自由参加）19：30～21：00

第２日目　 9：00～18：30　テーマ別交流会（自由参加）18：40～19：40

第３日目　 9：00～16：30

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

別表３　相談支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
個別支援の基本について	相談支援において援助関係を構築する大切さやその手法について理解する。	講義：１時間 演習：１時間
援助関係をつくりにくい人への支援について	発達障害やメンタルヘルスに配慮すべき人の特性や支援方法について理解する。	講義：１時間 演習：１時間
アウトリーチについて	生活困窮者自立支援制度におけるアウトリーチの重要性とその手法について理解する。	講義：１時間 演習：３時間
任意事業との連携のあり方について	自立相談支援事業と任意事業との連携のあり方を確認し、効果的な支援策について理解する。	講義：１時間 演習：1.5 時間
地域を基盤とした相談支援の方法について	地域づくりの重要性やその手法を通じて、地域を基盤にした支援方法について理解する。	講義：0.5 時間 演習：1.5 時間
相談支援の展開について	演習を通じて自立相談支援事業における帳票類が持つ意味について理解する。	講義：1.5 時間 演習：７時間

※計 21 時間（講義 6 時間、演習 15 時間）

※実施予定時刻　第１日目　10：00～18：50　交流会（自由参加）19：00～20：30

第２日目　 9：00～18：00　テーマ別交流会（自由参加）18：10～19：10

第３日目　 9：00～17：30

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

別表４　就労支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
就労支援員の役割について	生活困窮者自立支援制度における就労支援員に求められる役割を理解する。	講義：１時間 演習：0.5 時間
包括的な相談支援の視点について	自立を意識した就労支援の重要性や働く場の開拓といった「出口支援」の考え方と具体的な方法について理解する。	講義：0.5 時間 演習：1.5 時間
労働行政について	ハローワークの役割や自立相談支援機関との連携方策について理解する。	講義：0.5 時間 演習：0.5 時間
	ハローワークで実施している相談支援、取組等の支援手法について理解する。	講義：１時間
	労働法制やハローワークの視点からの企業支援、企業訪問、求人開拓などについて理解する。	講義：0.5 時間 演習：0.5 時間
個人への相談支援について	事例を通して、個別相談支援への支援プロセス等について理解する。	講義：１時間 演習：２時間
アウトリーチの実施と危機管理について	アウトリーチの重要性や手法の理解や危機管理の視点について理解する。	講義：0.5 時間 演習：1.5 時間
多様なプログラムの作成について	プログラム作りの方法や考え方や意欲喚起の手法について理解する。	講義：1.5 時間 演習：0.5 時間
職場内のチームづくり、地域のネットワークづくりについて	働きやすい職場づくりや地域の様々な関係づくりの実践を通じて、その手法について理解する。	講義：0.5 時間 演習：0.5 時間
自治体による就労支援について	自治体が行う就労支援とその強みについて理解する	講義：0.5 時間 演習：1.5 時間
企業へのアプローチについて	企業開拓、企業支援の具体的な方法や定着支援の必要性とその方法などについて理解する。	講義：１時間 演習：1.5 時間
研修全体のまとめ	研修全体の振り返りを実施し、就労支援員の役割の再認識を行う。	講義：１時間 演習：１時間

※計 21 時間（講義 9.5 時間、演習 11.5 時間）

※実施予定時刻　第１日目　10：00～18：25　交流会（自由参加）18：45～20：00

第２日目　 9：00～18：50　テーマ別交流会（自由参加）19：00～20：00

第３日目　 9：00～17：00

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

＜個人情報の取り扱いについて＞

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー)」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。
http://www.shakyo.or.jp/kojin.html

＜本件に関する連絡・お問い合わせ先＞

社会福祉法人　全国社会福祉協議会　地域福祉部　（森山、高橋（広））
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL03-3581-4655　FAX03-3581-7858　メールアドレス　z-jiritsu@shakyo.or.jp
受付時間　9：30～17：30　土日祝日休業

生活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）

平成 29 年度　就労準備支援事業従事者養成研修

開催要項

社会福祉法人　全国社会福祉協議会

１．研修の概要

生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業において配置される就労準備支援担当者を対象とした養成研修を実施します。

２．日程・定員・会場

研　修　名	日　　程	定員	会　　場
就労準備支援事業従事者養成研修	10 月 10 日（火）～ 10 月 13 日（金）	120 名	タイム 24 ビル

＜会場＞

タイム 24 ビル　HALL１（1 階）
〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-32
TEL:03-5531-0024　FAX:03-5531-0025
※アクセスについては
web サイト（ http://www.tokyo-bigsight.co.jp/time/access/index.html ）でご確認ください。

３．受講対象

就労準備支援事業において就労準備支援担当者として配置されている者。

なお、対象者の選定に当たっては、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる人材が望ましい。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）
・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）

４．研修内容

就労準備支援事業従事者養成研修カリキュラム（別表 1）により構成されています。

※カリキュラムの詳細は、改めてメールでご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

５．受講料

無料

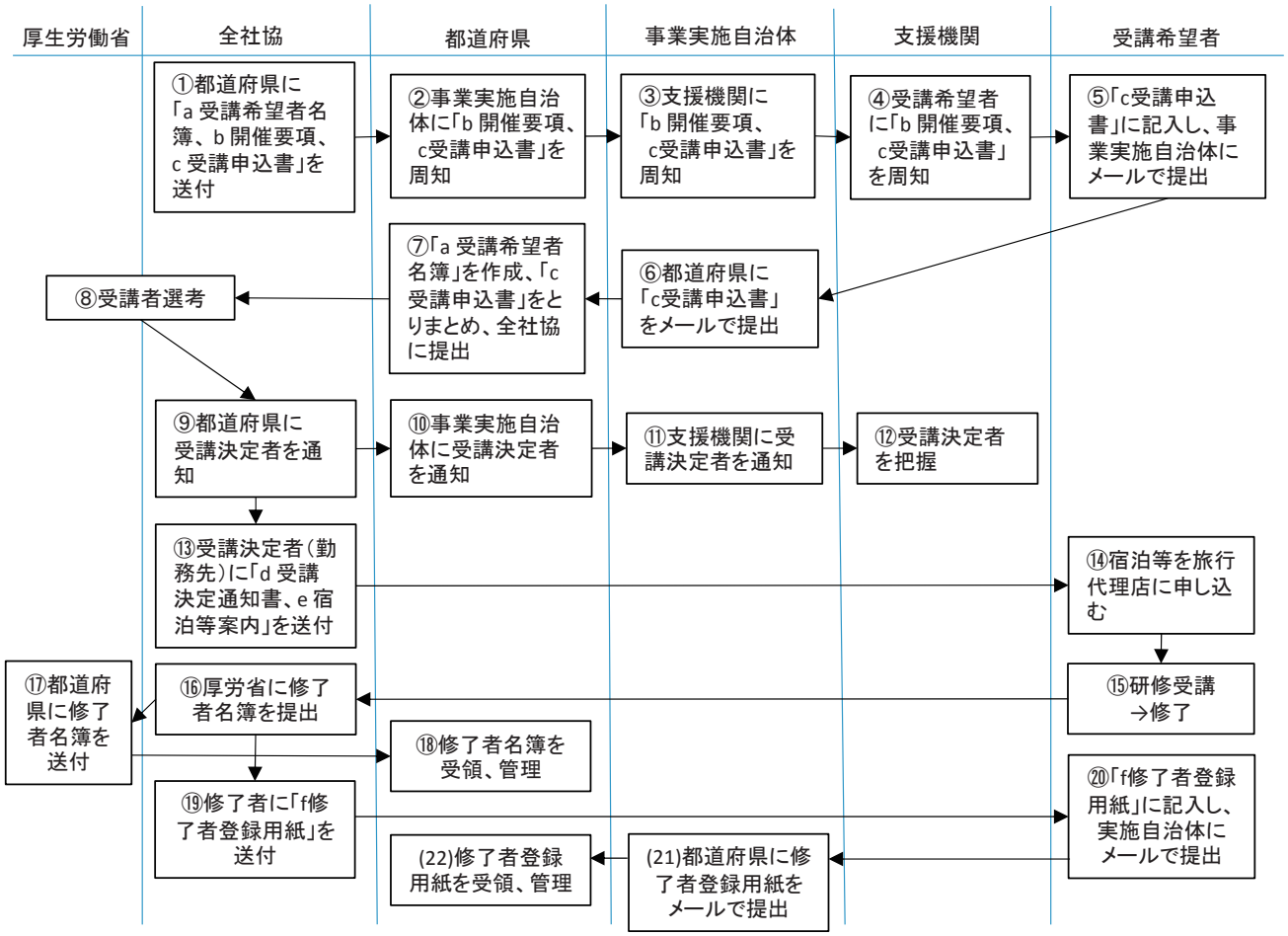
※交通費、食事代、宿泊費、交流会参加費（研修会１日目、希望者のみ）は負担ください。

なお、旅費及び宿泊費については、事業対象経費として支出が可能とされています（厚生労働省社会・援護局長通知参照）。

６．テキスト

有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。

７．申込みから受講までの流れ



※次のページの【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

７－１．都道府県

（１）事業実施自治体に開催要項、受講申込書をメールで送付【②】

（２）記入済み受講申込書に基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、受講申込書と併せて全社協にメールで提出（締切日：平成 29 年 8 月 17 日（木））【⑦】

（３）全社協から送られる「受講決定者名簿」（9 月上旬予定）に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

（４）研修終了後、修了者名簿および修了者登録用紙を受領し管理【⑱,（22）】

７－２．事業実施自治体

（１）支援機関に開催要項、受講申込書をメールで送付（直営の場合は受講者に周知）【③】

（２）受講希望者から記入済み受講申込書を受領し、都道府県にメールで提出【⑥】

（３）支援機関に受講決定者を通知（直営の場合は受講者に通知）（8 月下旬予定）【⑪】

（４）研修終了後、修了者登録用紙を受領し都道府県に提出【（21）】

７－３．支援機関

（１）受講希望者に開催要項、受講申込書を周知【④】

（２）受講決定者を把握【⑫】

７－４．受講希望者

（１）記入した受講申込書をメールにて事業実施自治体に提出【⑤】

※受講申込書は都道府県、事業実施自治体、支援機関経由でメールにてお送りします。

※受講申込書は受講者選考や研修のグループ編成に使用します。

※受講申込書のファイル名は、「別添１受講申込書　就労準備（フルネームを漢字で記入）」の１つ目のカッコ内を受講する研修の種類のみに変更し、2 つ目のカッコ内を受講希望者のフルネーム（漢字）に変更してご提出ください。

※「別添２受講申込書　就労準備（記入例）」をご参照ください。

（２）受講決定後、食事、宿泊、交流会の申し込み（締切日：9 月上旬予定）【⑭】

※受講決定通知、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します（8 月下旬予定）。

※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。

※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、支援機関にも通知します。

（３）研修修了後、全社協から送付する「修了者登録用紙（自宅住所を記入）」に記入して、事業実施自治体にメールで提出【⑳】

８．修了証書の交付

（１）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。

（２）修了要件は以下のとおりです。

①すべての科目に出席すること。

（３）修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。

（４）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

別表１　就労準備支援事業従事者養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
生活困窮者自立支援制度と就労準備支援事業の基本的な考え方について	生活困窮者自立支援制度及び就労準備支援事業の目的と必要性を理解する。	講義：１時間 演習：0.5 時間
就労準備支援担当者の役割と基本姿勢について	就労準備支援担当者に求められる基本理念や責務、役割について理解する。	演習：２時間
本人の状態像に応じた支援のあり方について	多様な課題や社会的背景を抱える就労準備支援事業の対象者像に応じた支援のあり方について理解する。	講義：３時間
支援に向けたインテークとアセスメントのあり方と就労準備支援プログラムの作成について	支援にあたっての視点を理解するとともに、就労準備支援プログラムの策定方法等について理解する。	講義：１時間 演習：３時間
支援関係の構築について	支援プロセスにおいて支援関係の構築の重要性を理解するとともに、演習を通じて支援手法を理解する。	講義：１時間 演習：3.5 時間
支援プログラム・メニューの開発について	多様な支援メニューの準備と開発の必要性やその方法について理解する。	講義：１時間 演習：２時間
ハローワークとの連携について	ハローワークの役割や職業紹介の考え方などについて理解する。	講義：１時間
研修全体のまとめ	研修全体の振り返りを実施し、就労準備支援事業と担当者の役割の再認識を行う。	演習：２時間

※計 21 時間（講義 8 時間、演習 13 時間）

※実施予定時刻　第１日目　13：30～18：10　交流会（自由参加）18：30～19：30

第２日目　 9：30～18：05

第３日目　 9：30～17：10

第４日目　 9：00～12：35

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

＜個人情報の取り扱いについて＞

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー)」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。
http://www.shakyo.or.jp/kojin.html

＜本件に関する連絡・お問い合わせ先＞

社会福祉法人　全国社会福祉協議会　地域福祉部　（森山、高橋（広））
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL03-3581-4655　FAX03-3581-7858　メールアドレス　z-jiritsu@shakyo.or.jp
受付時間　9：30～17：30　土日祝日休業

活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）

平成 29 年度　家計相談支援事業従事者養成研修

開催要項

社会福祉法人　全国社会福祉協議会

１．研修の概要

生活困窮者自立支援制度の家計相談支援事業において配置される家計相談支援員を対象とした養成研修を実施します。同じ内容の研修を 2 回実施します。

２．日程・定員・会場

研 修 名	日　程	定員	会　場
第1回　養成研修	6月6日(火)～ 6月9日(金)	60名	全社協･会議室
第2回　養成研修	12月19日(火)～ 12月22日(金)	60名	全社協･会議室

＜会場＞

全国社会福祉協議会（5 階 会議室）
〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル
TEL　03-3581-4655　　FAX　03-3581-7858
※アクセスについては
web サイト（ http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html ）でご確認ください。

３．受講対象

家計相談支援事業において家計相談支援員として配置されている者。

なお、対象者の選定に当たっては、相談支援に関わる知識・技術、家計管理に関わる知識・技術、社会保障制度や金融に関わる知識等を有していることが必要であり、以下の①から⑤のような人材が考えられる。

① 消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー又は消費生活コンサルタントの資格を有する者
② 社会福祉士の資格を有する者
③ 社会保険労務士の資格を有する者
④ ファイナンシャルプランナーの資格を有する者
⑤ 上記①～④に掲げる者と同等の能力または実務経験を有する者

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知）
・「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 29 年 4 月 17 日付厚生労働省事務連絡）

４．研修内容

家計相談支援事業従事者養成研修カリキュラム（別表 1）により構成されています。

※カリキュラムの詳細は、改めてメールでご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

５．受講料

無料

※交通費、食事代、宿泊費、交流会参加費（研修会１日目、希望者のみ）は負担ください。

なお、旅費及び宿泊費については、事業対象経費として支出が可能とされています（厚生労働省社会・援護局長通知参照）。

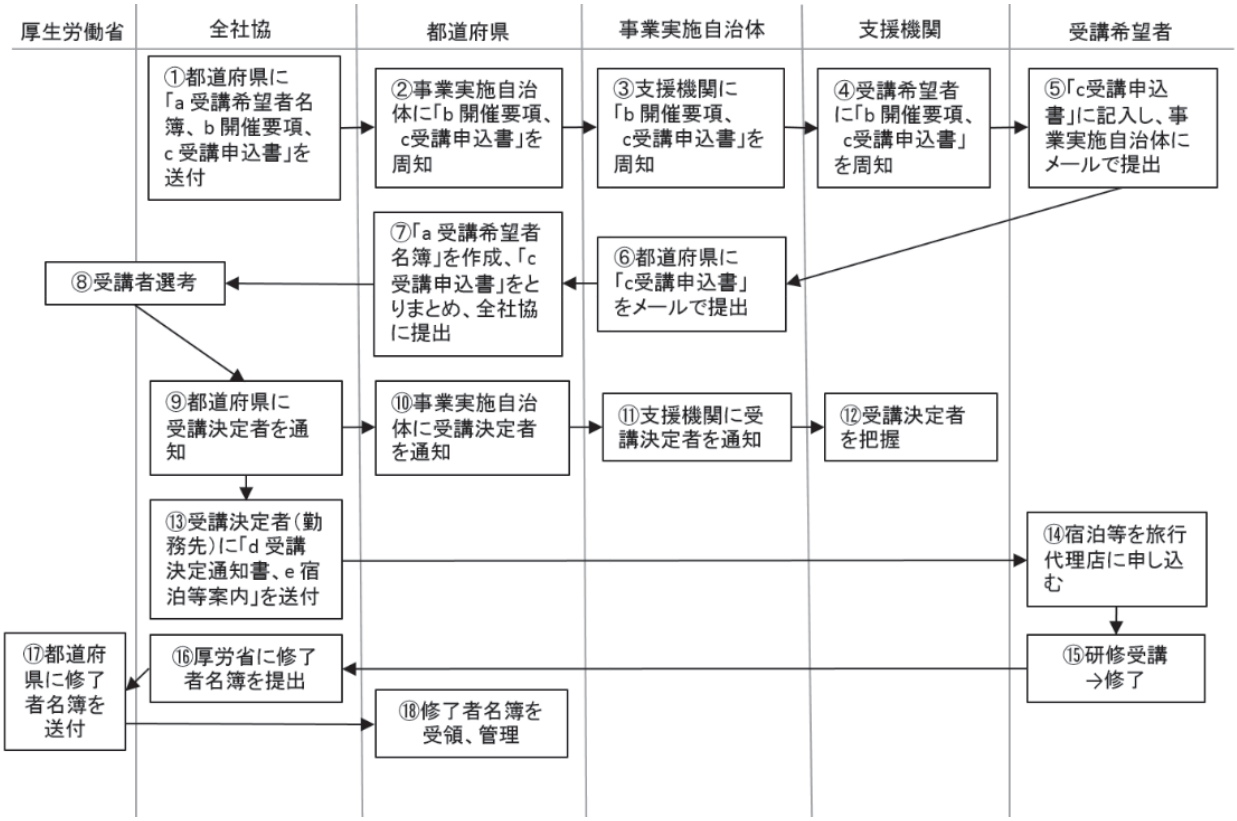
６．テキストおよびノートパソコンについて

（１）有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。

（２）第 3 日目においてノートパソコン（Microsoft Word、Microsoft Excel を使用）を使用します。持参できない方には、レンタルサービスを提供する予定です。

※詳細は受講決定通知にてご案内いたします。

7．申込みから受講までの流れ



※【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

7－1．都道府県

（1）事業実施自治体に開催要項、受講申込書をメールで送付【②】

（2）記入済み受講申込書に基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、受講申込書と併せて全社協にメールで提出（締切日：平成 29 年 5 月 2 日（火））【⑦】

（3）全社協から送られる「受講決定者名簿」（5 月上旬予定）に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

（4）研修終了後、修了者名簿を受領し管理【⑱】

7－2．事業実施自治体

（1）支援機関に開催要項、受講申込書をメールで送付（直営の場合は受講者に周知）【③】

（2）受講希望者から記入済み受講申込書を受領し、都道府県にメールで提出【⑥】

（3）支援機関に受講決定者を通知（直営の場合は受講者に通知）（5 月上旬予定）【⑪】

７－３．支援機関

（１）受講希望者に開催要項、受講申込書を周知【④】

（２）受講決定者を把握【⑫】

７－４．受講希望者

（１）記入した受講申込書をメールにて事業実施自治体に提出【⑤】

※受講申込書は都道府県、事業実施自治体、支援機関経由でメールにてお送りします。

※受講申込書は受講者選考や研修のグループ編成に使用します。

※受講申込書のファイル名は、「別添１受講申込書　家計（フルネームを漢字で記入)」の１つ目のカッコ内を受講する研修の種類のみに変更し、2 つ目のカッコ内を受講希望者のフルネーム（漢字）に変更してご提出ください。

※「別添２受講申込書　家計（記入例)」をご参照ください。

（２）受講決定後、食事、宿泊、交流会の申し込み（締切日：【第１回】5 月中旬予定、【第２回】11 月下旬予定）【⑭】

※受講決定通知、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します（5 月上旬予定)。

※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。

※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、支援機関にも通知します。

８．修了証書の交付

（１）所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。

（２）修了要件は以下のとおりです。

①すべての科目に出席すること。

（３）修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。

（４）都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

別表１　家計相談支援事業従事者養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
家計相談支援の基本的な考え方について	家計相談支援事業の目的や必要性、支援の流れなどを理解する。	講義：１時間
家計相談支援員の基本姿勢と役割について	生活困窮者の状況の理解と、家計相談支援員に求められる倫理・責務・役割を理解する。	講義：0.5 時間
利用できる制度および多重・過剰債務の解決方法の理解について	債務整理等の基礎知識やその要因、活用できる各種制度等について理解する。	講義：２時間
相談者像の理解について	相談者が抱える課題や社会的背景を理解し、家計相談支援事業の対象となる相談者像について理解する。	講義：0.5 時間 演習：0.5 時間
家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れについて	初回面接から終結に至るまでの一連の流れ、家計相談支援における基本的対応方法等について理解する。	講義：２時間 演習：2.5 時間
家計相談支援の失敗事例の検討について	事例を通して、相談時の注意点や面接の過程で配慮すべき支援員の姿勢について理解する。	講義：0.5 時間 演習：0.5 時間
家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表等の作成について	家計表やキャッシュフロー表等にもとづき、家計管理の方法等について理解や家計再生プランの書き方等について理解する。	講義：4.5 時間 演習：6.5 時間

※計 21 時間（講義 11 時間、演習 10 時間）

※実施予定時刻　第１日目　13：20～17：10　交流会（自由参加）17：15～18：15

第２日目　 9：30～18：20

第３日目　 9：30～18：30

第４日目　 9：00～12：50

内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

＜個人情報の取り扱いについて＞

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。
http://www.shakyo.or.jp/kojin.html

＜本件に関する連絡・お問い合わせ先＞

社会福祉法人　全国社会福祉協議会　地域福祉部　（志村、高橋（広）、森山）
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL03-3581-4655　FAX03-3581-7858　メールアドレス　z-jiritsu@shakyo.or.jp
受付時間　9：30～17：30　土日祝日休業

平成 29 年度　生活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）

都道府県研修に係る担当者研修

開催要項

１．目的

自立相談支援事業に従事する者等に対し、都道府県が独自性を持ち、国が実施する研修を基に地域における支援ニーズを加味して行う研修（以下「都道府県研修」という。）の内容の充実を図るため、効果的な都道府県研修の企画検討に関する講義・演習等を行い、都道府県研修の企画立案・運営に携わり中核的な役割を担う者を養成することを目的に開催します。

２．日程　前期：平成 29 年５月 31 日（水）

後期：平成３０年１月３０日（火）

※今年度より、年２回の開催となっております。２回とも参加していただくことが原則となりますが、後期研修の参加確認は、あらためて行います。

３．会場　全国社会福祉協議会　灘尾ホール

（〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2　新霞が関ビル　LB 階）

４．参加対象

都道府県研修の企画検討メンバーおよび予定者　※原則として①又は②を想定。

①都道府県の研修担当者

②国が実施する研修の修了者（条件：平成 26-28 年度自立相談支援事業従事者養成研修の修了者）

③その他、都道府県研修の企画立案や実施に関わる者。

５．定員　140 名程度

※原則として各都道府県から３名まで申込み可能(都道府県の研修担当者が１名以上いることが望ましい)

※参加対象者かつ貴都道府県において 3 名までの申込みの場合、受講選考から漏れることはございません。

６．受講料　無料

※食事代はご負担ください。なお、旅費及び宿泊費については、事業の対象経費として支出が可能とされています（「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 29 年 3 月 27 日付社援発 0327 第 10 号厚生労働省社会・援護局長通知　参照）。

※昼食・宿泊の斡旋はございません。

７．申込みについて

（１）都道府県担当者の方へ

①受講希望者から提出される「受講申込書」に基づいて「受講希望者名簿」を作成し、受講申込書と併せて全社協にメールで提出してください。（締切日：平成 29 年５月 10 日（水））

②全社協から送られる「受講決定者名簿」に基づき、事業実施自治体にも受講決定者を通知してください。なお、受講が決定した方に限り、全社協から個別に受講決定通知（受講票）を送付します。

（2）受講希望者の方へ

①都道府県担当者から送られる開催要項に添付の「受講申込書（Excel ファイル）」に記入のうえ、都道府県担当者にメールで提出してください。

②受講が決定次第、全社協から受講決定通知（受講票）をお送りします。

※都道府県担当者の方が受講される場合も必ず記入してください。

※受講申込書は受講者選考や受講決定通知（受講票）の送付、研修のグループ編成に使用します。

８．プログラム

前期平成２９年５月３１日（水）

10：00～10：30 （30 分）	受付
10：30～10：40 （10 分）	挨拶・オリエンテーション 厚生労働省、全国社会福祉協議会
10：40～12：30 （110 分）	生活困窮者支援における人材養成について 九州大学　　客員准教授　加留部 貴行　氏 明治学院大学　　教授　新保　美香　　氏 《都道府県における研修の取り組み事例発表》 【事例発表】 大阪府 福祉部 地域福祉推進室 社会援護課 生活支援グループ　総括主査　津﨑　信吾　氏 【コーディネーター】 厚生労働省　地域福祉課　生活困窮者自立支援室 自立支援専門調査員　石原　隆司　氏
12：30～13：30 （60 分）	昼食休憩
13:30～16:45 研修（180 分） 途中休憩（15 分）	研修の企画立案について 講師：九州大学　客員教授　加留部 貴行　氏 ＜ねらい＞ ○平成２９年３月にまとめられた「生活困窮者自立相談支援事業における都道府県研修実施のための手引」（以下「手引」という）の作成の意図や構成を解説する。 ○また、手引を活用した研修企画や立案の方法を学ぶ。 ＜到達目標＞ １．研修の企画立案・運営の方法を理解する。 ２．学んだ内容をもとに、地域の実情に応じた研修を立案、実施できるようにする。
16:45～16:55 （10 分）	アンケート記入、事務連絡等
16:55～17:55 （60 分）	個別相談会（任意参加）

後期平成３０年１月３０日（火）　※内容については予定

10：30～11：00 （30 分）	受付
11：00～11：30 （30 分）	挨拶・オリエンテーション 厚生労働省、全国社会福祉協議会
11:30～12:30 （60 分）	都道府県における研修の取り組みについて 九州大学　客員准教授　加留部 貴行　氏 《都道府県における研修の取り組み事例発表》 【事例発表】　※調整中 【コーディネーター】 厚生労働省　地域福祉課　生活困窮者自立支援室 自立支援専門調査員　石原　隆司　氏
12：30～13：30 （60 分）	昼食休憩
13:30～16:45 研修（180 分） 途中休憩(15 分)	来年度以降の研修プログラムの作成に向けて 講師：九州大学　客員教授　加留部 貴行　氏 明治学院大学　教授　新保　美香　氏 ＜ねらい＞ 前期研修を踏まえて各都道府県で実施した研修を振り返るとともに、来年度の研修プログラムの立案について学ぶ。 ＜到達目標＞ １．自らが企画した研修を振り返るとともに、他の自治体とも情報共有を図り、よりよいものにする。 ２．来年度の研修計画を作成し、その実施に向けて「具体的に取り組むこと」を明確にする。
16:45～16:55 （10 分）	アンケート記入、事務連絡等

※前期研修において使用する教材（「生活困窮者自立相談支援事業における都道府県研修実施のための手引」）については、講義にて使用する箇所を印刷配布いたしますので、持参頂く必要はございません。

※後期研修前に、各都道府県研修の実施状況について事前課題を提出していただく予定です。

※プログラムの内容については、現時点における予定であることから、今後、変更となる場合があります。

９．個人情報の取り扱いについて

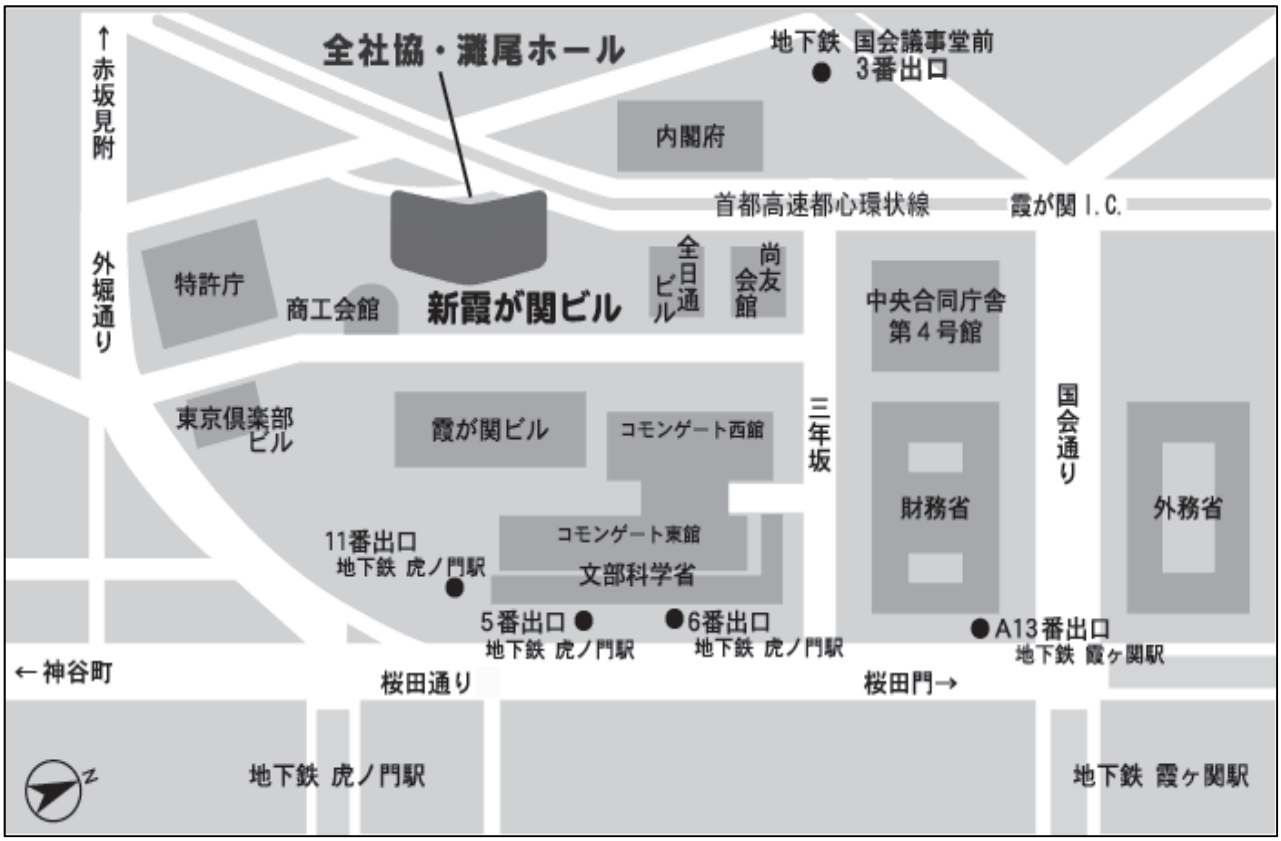
受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

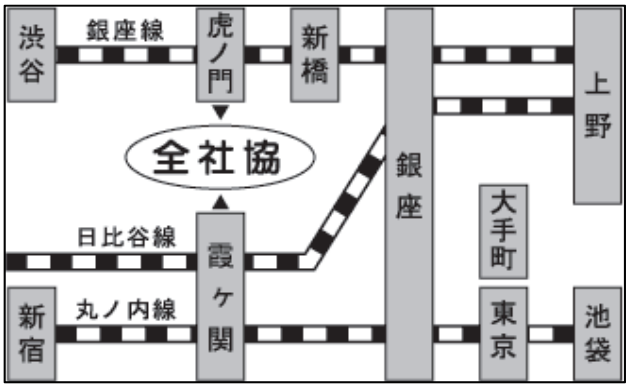
全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。

全社協ホームページ：http://www.shakyo.or.jp/kojin.html

＜会場のご案内＞



＜交通機関のご案内＞



- 地下鉄銀座線「虎ノ門駅」１１番出口より　徒歩５分
- 地下鉄千代田線／丸の内線／日比谷線「霞ヶ関駅」A１３番出口より徒歩８分
- 地下鉄千代田線／丸の内線「国会議事堂前駅」３番出口より徒歩５分

※アクセスは web サイト（ http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html ）でもご確認いただけます。

【お問い合わせ先】

全国社会福祉協議会　地域福祉部　（担当：森山、高橋）
〒100-8980　東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL: 03-3581-4655　FAX: 03-3581-7858
E-Mail: z-jiritsu@shakyo.or.jp
受付時間　平日 9：30～17：30　土日祝日休業

修了証書（ひな形）

修 了 証 書

平成●年度
自立相談支援事業従事者養成研修
【●●支援員養成研修】

修了番号 ≪ 修了番号 ≫

≪ 氏名 ≫ 殿
≪生年月日≫ 生

貴殿はこの度 厚生労働省委託の
自立相談支援事業従事者養成研修
●●支援員養成研修を受講し所定の
課程を修了したことを証する

平成●年●月●日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
会長 斎 藤 十 朗